

防府市上下水道ビジョン

－ 中間見直し －

2020 － 2029



令和7年(2025年)3月

防府市上下水道局

～ 目 次 ～

防府市上下水道ビジョンの中間見直しについて	4
第1章 策定の趣旨	
3 計画期間	5
第4章 水道編	
1 水道事業の概要	
(2) 主な水道施設	6
水道事業計画給水区域及び水道・工業用水道施設概要（資料1）	7
送配水施設系統図（資料2）	8
2 水道事業の現況と課題	
(2) 基幹施設などの状況	9
(3) 経営の状況	10
エ 水道事業の経営指標分析	10
オ 工業用水道事業の経営指標分析	15
3 投資・財政計画	
(1) 水需要の将来見通し	18
(3) 財源試算	19
水道事業会計財政収支中長期計画（資料3）	21
工業用水道事業会計財政収支中長期計画（資料4）	22
4 めざすべき将来像～目標と取組～	
基本方針1 安心・安全な上下水道	
基本目標(1) 安心・安全な給水の確保	
施策① 水道水の安全確保	23
基本方針2 強靱で頼れる上下水道	
基本目標(1) 施設の耐震化の推進	
施策① 水道施設の耐震化	23
基本方針3 持続可能な上下水道	
基本目標(1) 運営基盤の強化	
施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討	24
基本方針3 持続可能な上下水道	
基本目標(3) 環境対策の強化	
施策② 省エネルギー対策の推進	26
第5章 下水道編	
1 下水道事業の概要	
(2) 主な下水道施設	27
(3) 漁業集落排水事業	27
公共下水道事業計画区域、野島漁業集落排水事業区域及び下水道	
施設概要（資料5）	28

2 下水道事業の現況と課題	
(3) 経営の状況	29
3 投資・財政計画	
(1) 水洗化人口・有収水量の将来見通し	33
(3) 財源試算	33
公共下水道事業会計財政収支中長期計画（資料6）	36
4 めざすべき将来像～目標と取組～	
基本方針2 強靱で頼れる上下水道	
基本目標(1) 施設の耐震化の推進	
施策② 下水道施設の耐震化	37
基本方針3 持続可能な上下水道	
基本目標(1) 運営基盤の強化	
施策① 経営の健全化	37
施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討	38
基本方針3 持続可能な上下水道	
基本目標(3) 環境対策の強化	
施策② 省エネルギー対策の推進	40

第6章 共通編

4 めざすべき将来像～目標と取組～	
基本方針3 持続可能な上下水道	
基本目標(1) 運営基盤の強化	
施策⑥ 官民連携の推進	41
基本方針3 持続可能な上下水道	
基本目標(2) お客様サービスの向上	
施策② インターネット等を利用した情報提供サービス	41

附属資料

・ 令和5年度 防府市の水道・下水道に関するお客様アンケート結果報告（資料7）	42
・ 用語解説（五十音順）（資料8）	61
＊を付した用語は、用語解説をご参照ください。	

防府市上下水道ビジョンの中間見直しについて

見直しの趣旨

防府市では、人口減少、少子高齢化や核家族化の進行など社会情勢が大きく変化する中で、老朽化する施設の更新や頻発する自然災害に対するライフライン機能の強化や経営基盤の強化などの課題も多く、その対策が必要となっています。

そのような中で、将来にわたり安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画として、市民の皆様から信頼され続ける防府の上下水道の構築を目指し、今後の事業展開の指針とするため、令和元年12月に「防府市上下水道ビジョン」（計画期間：令和2～11年度）を策定しました。

今回の中間見直しは、策定から5年目となり半ばを迎えたことから、計画期間後期（令和7～11年度）に向け、計画期間前期（令和2～6年度）の検証結果とともに、刻々と変化する社会情勢に柔軟に対応するため、施策の再検討や財政収支の見通しの精度向上を目的に実施したものです。

令和6年4月に国土交通省からの「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について（国水下第51号、令和6年4月1日）」において、令和2年度以降、少なくとも5年に1度、下水道使用料の改定の必要性を検証し、経費回収率の向上に向けたロードマップの経営戦略への記載等が交付要件とされています。

さらに、令和4年1月には総務省からの「経営戦略の改定推進について（総務省自治財政局公営企業三課室長通知、令和4年1月25日）」において、経営戦略の見直し率を令和7年度までに100%として、より質の高い経営戦略に改めるよう要請がありました。今回はそれらに加え、令和6年4月から水道行政が国土交通省に移管されたことも踏まえて、内容を見直しました。

なお、今回は見直し項目について、「見直し前」と「見直し後」を比較する形式でお示ししています。

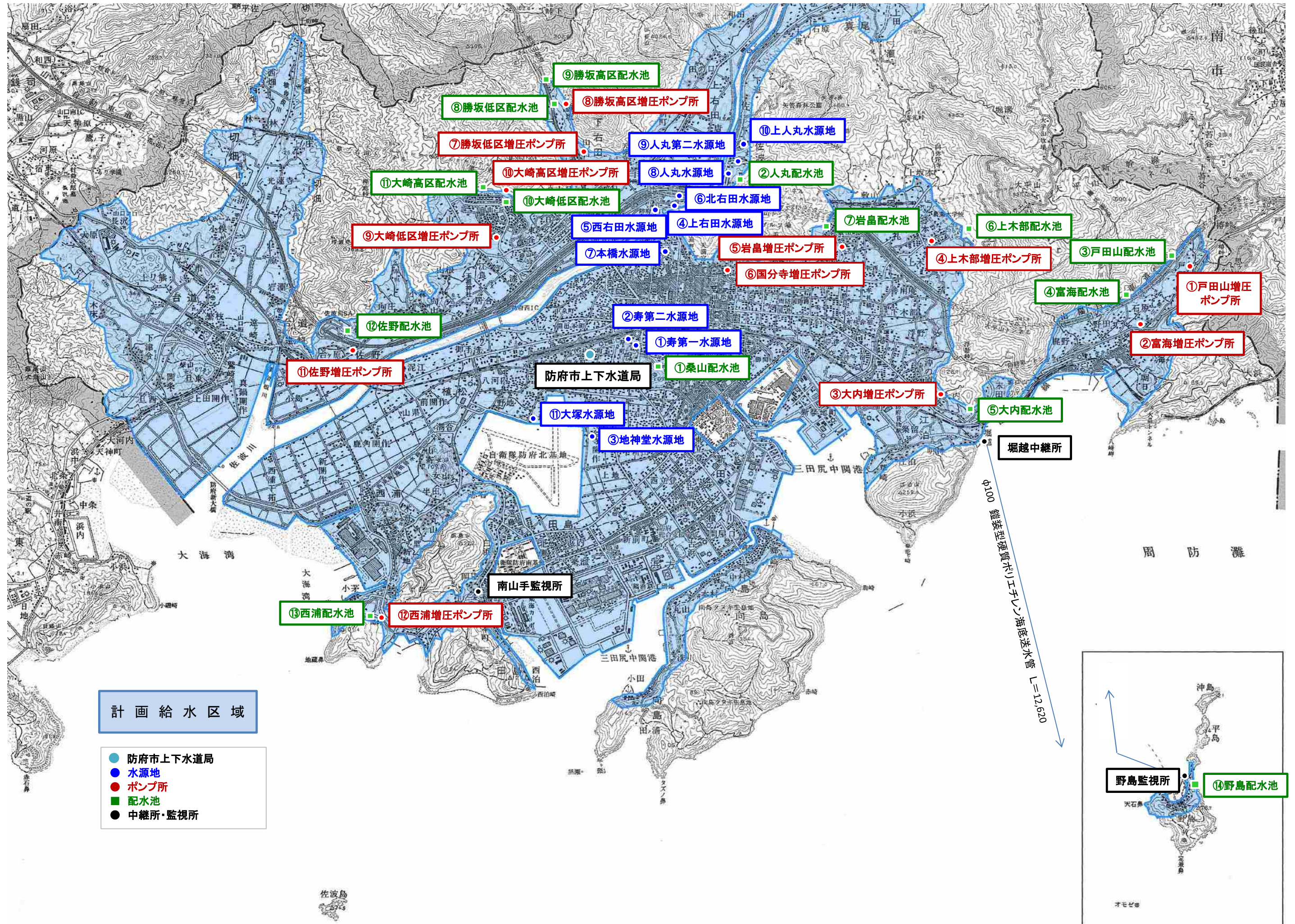
防府市上下水道ビジョン 中間見直し 新旧対照

第1章 策定の趣旨

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
2	3 計画期間 本ビジョンの計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10年間とします。フォローアップとして、中間年次の令和6年度に成果指標の見直しを行います。 また、計画期間中に社会的・経済的情勢の大きな変動があった場合は、本ビジョンを随時見直します。	3 計画期間 本ビジョンの計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10年間とします。フォローアップとして、<u>策定後5年ごとに見直しを行うこととしていることから、中間年次の令和6年度に成果指標の見直しを行いました。</u> <u>今後、計画期間中に社会的・経済的情勢の大きな変動があった場合は、本ビジョンを随時見直します。</u> <u>なお、計画期間満了前には、次期ビジョンへの改定に着手します。</u> 令和元年度 策 定 [前期計画] 令和2～5年度 進捗状況の確認 現状分析 令和6年度 中間検証 中間見直し [後期計画] 令和7～11年度 進捗状況の確認 現状分析 次期ビジョンに 改 定

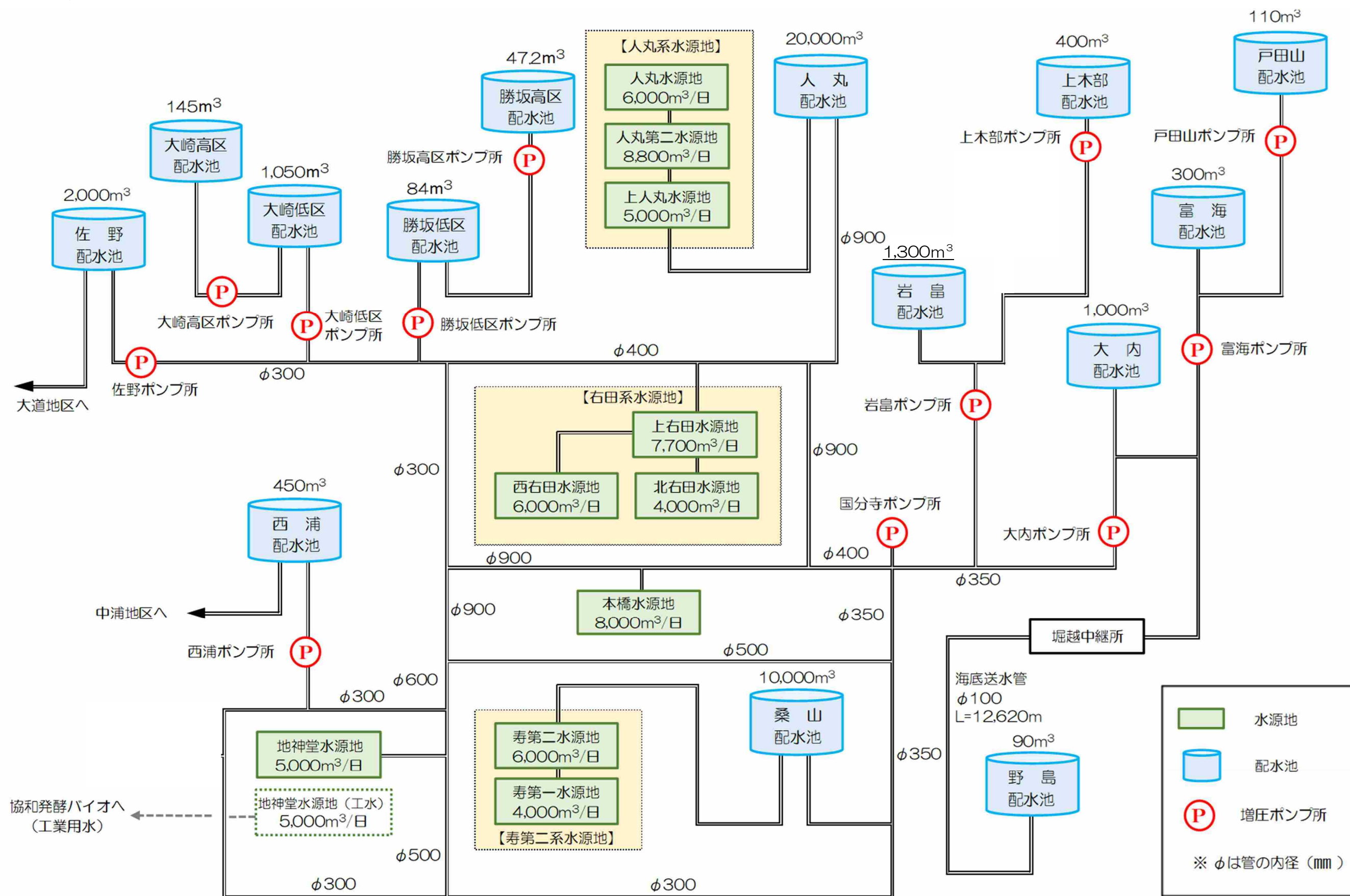
第4章 水道編

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																								
10	1 水道事業の概要 (2) 主な水道施設 【水道施設の状況】 (平成30年度末現在) <table><tr><td>水源地</td><td>5 か所</td></tr><tr><td>増圧ポンプ所</td><td>13 か所</td></tr><tr><td>配水池</td><td>15 か所</td></tr><tr><td>導水管*延長</td><td>1,818 m</td></tr><tr><td>送水管*延長</td><td>16,473 m</td></tr><tr><td>配水管*延長</td><td>636,041 m</td></tr></table>	水源地	5 か所	増圧ポンプ所	13 か所	配水池	15 か所	導水管*延長	1,818 m	送水管*延長	16,473 m	配水管*延長	636,041 m	1 水道事業の概要 (2) 主な水道施設 【水道施設の状況】 (令和5年度末現在) <table><tr><td>水源地</td><td>5 か所</td></tr><tr><td>増圧ポンプ所</td><td>12 か所</td></tr><tr><td>配水池</td><td>14 か所</td></tr><tr><td>導水管*延長</td><td>2,055 m</td></tr><tr><td>送水管*延長</td><td>13,960 m</td></tr><tr><td>配水管*延長</td><td>668,703 m</td></tr></table>	水源地	5 か所	増圧ポンプ所	12 か所	配水池	14 か所	導水管*延長	2,055 m	送水管*延長	13,960 m	配水管*延長	668,703 m
水源地	5 か所																									
増圧ポンプ所	13 か所																									
配水池	15 か所																									
導水管*延長	1,818 m																									
送水管*延長	16,473 m																									
配水管*延長	636,041 m																									
水源地	5 か所																									
増圧ポンプ所	12 か所																									
配水池	14 か所																									
導水管*延長	2,055 m																									
送水管*延長	13,960 m																									
配水管*延長	668,703 m																									
11	増 圧 施 設 ポンプによる圧力で水道水を配水池や高台にある家庭などに送る施設です。 ①戸田山増圧ポンプ所 ②富海増圧ポンプ所 ③大内増圧ポンプ所 ④上木部増圧ポンプ所 ⑤岩畠増圧ポンプ所 ⑥国分寺増圧ポンプ所 ⑦勝坂低区増圧ポンプ所 ⑧勝坂高区増圧ポンプ所 ⑨大崎低区増圧ポンプ所 ⑩大崎高区増圧ポンプ所 ⑪佐野増圧ポンプ所 ⑫南山手増圧ポンプ所 ⑬西浦増圧ポンプ所 配 水 施 設 水道水を一時的に蓄えて、家庭などに必要な量を送る施設です。 ①桑山配水池 ②人丸配水池 ③戸田山配水池 ④富海配水池 ⑤大内配水池 ⑥上木部配水池 ⑦坂本配水池 ⑧岩畠配水池 ⑨勝坂低区配水池 ⑩勝坂高区配水池 ⑪大崎低区配水池 ⑫大崎高区配水池 ⑬佐野配水池 ⑭西浦配水池 ⑮野島配水池	増 圧 施 設 ポンプによる圧力で水道水を配水池や高台にある家庭などに送る施設です。 <u>管網整備により、令和5年度に南山手増圧ポンプ所を廃止しました。</u> ①戸田山増圧ポンプ所 ②富海増圧ポンプ所 ③大内増圧ポンプ所 ④上木部増圧ポンプ所 ⑤岩畠増圧ポンプ所 ⑥国分寺増圧ポンプ所 ⑦勝坂低区増圧ポンプ所 ⑧勝坂高区増圧ポンプ所 ⑨大崎低区増圧ポンプ所 ⑩大崎高区増圧ポンプ所 ⑪佐野増圧ポンプ所 ⑫西浦増圧ポンプ所 配 水 施 設 水道水を一時的に蓄えて、家庭などに必要な量を送る施設です。 <u>岩畠配水池の増設に伴い、令和3年度に坂本配水池を廃止しました。</u> ①桑山配水池 ②人丸配水池 ③戸田山配水池 ④富海配水池 ⑤大内配水池 ⑥上木部配水池 ⑦岩畠配水池 ⑧勝坂低区配水池 ⑨勝坂高区配水池 ⑩大崎低区配水池 ⑪大崎高区配水池 ⑫佐野配水池 ⑬西浦配水池 ⑭野島配水池																								
13	水道事業計画給水区域及び水道・工業用水道施設概要	水道事業計画給水区域及び水道・工業用水道施設概要 (資料1参照)																								
15	送配水施設系統図	送配水施設系統図 (資料2参照)																								



【送配水施設系統図】

資料2



ページ

見直し前

見直し後

20

2 水道事業の現況と課題

(2) 基幹施設などの状況

【水源地（5か所）】

施設名	水源地名	水源種類	取水可能量 (m³/日)	竣工年月
				改良年月
寿第二系水源地	寿第一水源地	地下水* (浅井戸)	4,000	昭和30年7月 平成6年3月
	寿第二水源地		6,000	昭和35年6月 平成7年3月
地神堂水源地	地神堂水源地		5,000	昭和38年6月 令和3年3月(予定)
本橋水源地	本橋水源地		8,000	昭和49年8月
右田系水源地	西右田水源地		6,000	昭和45年6月 平成14年3月
	北右田水源地		4,000	平成6年3月 平成13年3月
	上右田水源地		7,700	平成13年3月
人丸系水源地	人丸水源地	伏流水	6,000	昭和51年10月 平成23年3月
	人丸第二水源地		8,800	昭和60年3月
	上人丸水源地		5,000	昭和57年3月

取水可能量合計 (m³/日)

60,500

2 水道事業の現況と課題

(2) 基幹施設などの状況

【水源地（5か所）】

施設名	水源地名	水源種類	取水可能量 (m³/日)	竣工年月
				改良年月
寿第二系水源地	寿第一水源地	地下水* (浅井戸)	4,000	昭和30年7月 平成6年3月
	寿第二水源地		6,000	昭和35年6月 平成7年3月
地神堂水源地	地神堂水源地		5,000	昭和38年6月 令和3年3月
本橋水源地	本橋水源地		8,000	昭和49年8月
右田系水源地	西右田水源地		6,000	昭和45年6月 平成14年3月
	北右田水源地		4,000	平成6年3月 平成13年3月
	上右田水源地		7,700	平成13年3月
人丸系水源地	人丸水源地	伏流水	6,000	昭和51年10月 平成23年3月
	人丸第二水源地		8,800	昭和60年3月
	上人丸水源地		5,000	昭和57年3月

取水可能量合計 (m³/日)

60,500

21

【増圧ポンプ所（13か所）】

施設名	竣工年月	施設名	竣工年月
	改良年月		改良年月
戸田山増圧ポンプ所	平成16年3月	富海増圧ポンプ所	平成28年10月
大内増圧ポンプ所	昭和42年10月 平成10年3月	上木部増圧ポンプ所	昭和59年3月
岩畠増圧ポンプ所	平成4年3月	国分寺増圧ポンプ所	昭和49年3月
勝坂低区増圧ポンプ所	昭和46年3月 平成8年3月	勝坂高区増圧ポンプ所	平成15年3月
大崎低区増圧ポンプ所	昭和60年3月 平成7年3月	大崎高区増圧ポンプ所	昭和60年3月 平成7年3月
佐野増圧ポンプ所	昭和62年11月	南山手増圧ポンプ所	昭和59年8月
西浦増圧ポンプ所	平成13年10月		

【増圧ポンプ所（12か所）】

施設名	竣工年月	施設名	竣工年月
	改良年月		改良年月
戸田山増圧ポンプ所	平成16年3月	富海増圧ポンプ所	平成28年10月
大内増圧ポンプ所	昭和42年10月 平成10年3月	上木部増圧ポンプ所	昭和59年3月
岩畠増圧ポンプ所	平成4年3月	国分寺増圧ポンプ所	昭和49年3月
勝坂低区増圧ポンプ所	昭和46年3月 平成8年3月	勝坂高区増圧ポンプ所	平成15年3月
大崎低区増圧ポンプ所	昭和60年3月 令和4年3月	大崎高区増圧ポンプ所	昭和60年3月 平成7年3月
佐野増圧ポンプ所	昭和62年11月	西浦増圧ポンプ所	平成13年10月

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																																																																																																																														
21	【配水池（15か所）】 <table><tr><th>施設名</th><th>容量（m³）</th><th>竣工年月</th><th>施設名</th><th>容量（m³）</th><th>竣工年月</th></tr><tr><td>人丸配水池</td><td>10,000 10,000</td><td>昭和58年3月 平成5年3月</td><td>桑山配水池</td><td>5,000 ×2池</td><td>平成10年3月</td></tr><tr><td>戸田山配水池</td><td>110</td><td>平成16年3月</td><td>富海配水池</td><td>300</td><td>昭和63年3月</td></tr><tr><td>大内配水池</td><td>1,000</td><td>平成4年3月</td><td>上木部配水池</td><td>400</td><td>昭和59年3月</td></tr><tr><td>岩畠配水池</td><td>500</td><td>平成4年3月</td><td>坂本配水池</td><td>300</td><td>昭和47年3月</td></tr><tr><td>勝坂低区配水池</td><td>84</td><td>平成15年3月</td><td>勝坂高区配水池</td><td>47</td><td>平成14年3月</td></tr><tr><td>大崎低区配水池</td><td>1,050</td><td>昭和61年4月 平成7年3月</td><td>大崎高区配水池</td><td>145</td><td>昭和61年4月</td></tr><tr><td>佐野配水池</td><td>2,000</td><td>昭和62年11月</td><td>西浦配水池</td><td>450</td><td>平成14年5月</td></tr><tr><td>野島配水池</td><td>90</td><td>平成27年9月</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">配水池容量合計（m³）</td><td>36,476</td><td colspan="3"></td></tr></table>	施設名	容量（m³）	竣工年月	施設名	容量（m³）	竣工年月	人丸配水池	10,000 10,000	昭和58年3月 平成5年3月	桑山配水池	5,000 ×2池	平成10年3月	戸田山配水池	110	平成16年3月	富海配水池	300	昭和63年3月	大内配水池	1,000	平成4年3月	上木部配水池	400	昭和59年3月	岩畠配水池	500	平成4年3月	坂本配水池	300	昭和47年3月	勝坂低区配水池	84	平成15年3月	勝坂高区配水池	47	平成14年3月	大崎低区配水池	1,050	昭和61年4月 平成7年3月	大崎高区配水池	145	昭和61年4月	佐野配水池	2,000	昭和62年11月	西浦配水池	450	平成14年5月	野島配水池	90	平成27年9月				配水池容量合計（m³）		36,476				【配水池（14か所）】 <table><tr><th>施設名</th><th>容量（m³）</th><th>竣工年月</th><th>施設名</th><th>容量（m³）</th><th>竣工年月</th></tr><tr><td>人丸配水池</td><td>10,000 10,000</td><td>昭和58年3月 平成5年3月</td><td>桑山配水池</td><td>5,000 ×2池</td><td>平成10年3月</td></tr><tr><td>戸田山配水池</td><td>110</td><td>平成16年3月</td><td>富海配水池</td><td>300</td><td>昭和63年3月</td></tr><tr><td>大内配水池</td><td>1,000</td><td>平成4年3月</td><td>上木部配水池</td><td>400</td><td>昭和59年3月</td></tr><tr><td>岩畠配水池</td><td>500 800</td><td>平成4年3月 令和3年7月</td><td>勝坂高区配水池</td><td>47</td><td>平成14年3月</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>大崎高区配水池</td><td>145</td><td>昭和61年4月</td></tr><tr><td>勝坂低区配水池</td><td>84</td><td>平成15年3月</td><td>西浦配水池</td><td>450</td><td>平成14年5月</td></tr><tr><td>大崎低区配水池</td><td>1,050</td><td>平成7年3月</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>佐野配水池</td><td>2,000</td><td>昭和62年11月</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>野島配水池</td><td>90</td><td>平成27年9月</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">配水池容量合計（m³）</td><td>36,976</td><td colspan="3"></td></tr></table>	施設名	容量（m³）	竣工年月	施設名	容量（m³）	竣工年月	人丸配水池	10,000 10,000	昭和58年3月 平成5年3月	桑山配水池	5,000 ×2池	平成10年3月	戸田山配水池	110	平成16年3月	富海配水池	300	昭和63年3月	大内配水池	1,000	平成4年3月	上木部配水池	400	昭和59年3月	岩畠配水池	500 800	平成4年3月 令和3年7月	勝坂高区配水池	47	平成14年3月				大崎高区配水池	145	昭和61年4月	勝坂低区配水池	84	平成15年3月	西浦配水池	450	平成14年5月	大崎低区配水池	1,050	平成7年3月				佐野配水池	2,000	昭和62年11月				野島配水池	90	平成27年9月				配水池容量合計（m³）		36,976			
施設名	容量（m³）	竣工年月	施設名	容量（m³）	竣工年月																																																																																																																											
人丸配水池	10,000 10,000	昭和58年3月 平成5年3月	桑山配水池	5,000 ×2池	平成10年3月																																																																																																																											
戸田山配水池	110	平成16年3月	富海配水池	300	昭和63年3月																																																																																																																											
大内配水池	1,000	平成4年3月	上木部配水池	400	昭和59年3月																																																																																																																											
岩畠配水池	500	平成4年3月	坂本配水池	300	昭和47年3月																																																																																																																											
勝坂低区配水池	84	平成15年3月	勝坂高区配水池	47	平成14年3月																																																																																																																											
大崎低区配水池	1,050	昭和61年4月 平成7年3月	大崎高区配水池	145	昭和61年4月																																																																																																																											
佐野配水池	2,000	昭和62年11月	西浦配水池	450	平成14年5月																																																																																																																											
野島配水池	90	平成27年9月																																																																																																																														
配水池容量合計（m³）		36,476																																																																																																																														
施設名	容量（m³）	竣工年月	施設名	容量（m³）	竣工年月																																																																																																																											
人丸配水池	10,000 10,000	昭和58年3月 平成5年3月	桑山配水池	5,000 ×2池	平成10年3月																																																																																																																											
戸田山配水池	110	平成16年3月	富海配水池	300	昭和63年3月																																																																																																																											
大内配水池	1,000	平成4年3月	上木部配水池	400	昭和59年3月																																																																																																																											
岩畠配水池	500 800	平成4年3月 令和3年7月	勝坂高区配水池	47	平成14年3月																																																																																																																											
			大崎高区配水池	145	昭和61年4月																																																																																																																											
勝坂低区配水池	84	平成15年3月	西浦配水池	450	平成14年5月																																																																																																																											
大崎低区配水池	1,050	平成7年3月																																																																																																																														
佐野配水池	2,000	昭和62年11月																																																																																																																														
野島配水池	90	平成27年9月																																																																																																																														
配水池容量合計（m³）		36,976																																																																																																																														
25	2 水道事業の現況と課題 (3) 経営の状況 エ 水道事業の経営指標分析 水道事業の経営状況を、経営指標により類似団体及び全国平均と比較し分析しました。使用した経営指標は、総務省が公表している平成29年度決算における経営比較分析表に基づいています。類似団体とは、給水人口*規模が10万人以上15万人未満の都市です。 ※図中の ↑ は高い数値であることが望ましい指標、 ↓ は低い数値が望ましい指標を示しています。  グラフ凡例 ■ 防府市 — 平均値（類似団体） 【 】 平成29年度全国平均値	2 水道事業の現況と課題 (3) 経営の状況 エ 水道事業の経営指標分析 水道事業の経営状況を、経営指標により類似団体及び全国平均と比較し分析しました。使用した経営指標は、総務省が公表している令和4年度決算における経営比較分析表に基づいています。類似団体とは、給水人口*規模が10万人以上15万人未満の都市です。 ※図中の ↑ は高い数値であることが望ましい指標、 ↓ は低い数値が望ましい指標を示しています。  グラフ凡例 ■ 防府市 — 平均値（類似団体） 【 】 令和4年度全国平均値																																																																																																																														

ページ

見 直 し 前

見 直 し 後

26

I 経営の健全性・効率性

①経常収支比率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	116.11	122.87	123.34	123.72	128.08
平均値	108.44	113.11	114.00	114.00	113.68

全国平均値【113.39】

(経常収益÷経常費用)×100
経常収支比率(%)とは、給水収益や一般会計からの繰入金などの収益で、維持管理費、支払利息等の費用をどの程度賄っているかを表す指標です。

【分析】
経常収支比率は収支が黒字のため100%以上となっています。

②累積欠損比率 (%) ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.81	0.00	0.03	0.23	0.03

全国平均値【0.85】

(当年度未処理欠損金÷(営業収益－受託工事収益))×100
累積欠損金*比率(%)とは、営業収益に対する累積欠損金*の状況を表す指標です。

【分析】
累積欠損金*はなく、累積欠損金*比率は0%となっています。

③流動比率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	3,632.49	283.14	276.55	289.16	287.99
平均値	648.09	344.19	352.05	349.04	337.49

全国平均値【264.34】

(流動資産*÷流動負債*)×100
流動比率(%)とは、短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。

【分析】
すべての年度で200%以上となっており、短期的な債務に対する支払能力は確保できています。平成26年度以降は、会計制度の見直しに伴い、固定負債に計上していた償還期限が1年以内の企業債*償還金を流動負債*に計上したことにより、流動負債*が増加した影響もあり低下しています。

I 経営の健全性・効率性

①経常収支比率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	123.64	123.37	121.62	121.20	118.45
平均値	113.82	112.82	111.21	111.89	109.99

全国平均値【108.70】

【分析】
経常収支比率は収支が黒字のため100%以上であり、平均値を上回っていますが、年々給水収益が減少していることに加え、エネルギー価格等の高騰が影響し、今後も減少傾向が見込まれます。

②累積欠損比率 (%) ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.00	0.00	0.00	0.45	0.00

全国平均値【1.34】

【分析】
累積欠損金*はなく、累積欠損金*比率は0%となっています。

③流動比率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	296.35	240.13	238.62	261.28	271.93
平均値	335.60	358.91	360.96	351.29	364.24

全国平均値【252.29】

【分析】
すべての年度で200%以上となっており、短期的な債務に対する支払能力は確保できていますが、類似団体と比較すると低い数値となっています。これは、企業債*残高が類似団体と比較して多く、償還期限が1年以内の企業債*(流動負債*)が多く発生するためです。

ページ

見 直 し 前

見 直 し 後

27

④企業債残高対給水収益比率（％） ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	534.54	526.50	506.80	490.30	466.90
平均値	253.86	252.09	250.76	254.54	265.92

全国平均値【274.27】

（企業債 * 現在高合計 ÷ 給水収益） × 100
企業債 * 残高対給水収益比率（％）とは、給水収益に対する企業債 * 残高の割合であり、企業債 * 残高の規模を表す指標です。

【分析】
企業債 * 残高は類似団体と比較して多いため減少させることが課題です。

⑤料金回収率（％） ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	109.64	118.05	118.60	118.61	122.84
平均値	100.07	106.22	106.69	106.52	105.86

全国平均値【104.36】

（供給単価 ÷ 給水原価） × 100
料金回収率（％）とは、給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標です。

【分析】
すべての年度で100%以上となっており、給水に係る費用を給水収益で賄えています。

⑥給水原価（円） ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	145.20	134.76	133.95	133.97	129.49
平均値	164.93	155.23	154.92	155.80	158.58

全国平均値【165.71】

（経常費用－（受託工事費＋長期前受金戻入*）） ÷ 年間総有収水量
給水原価（円）とは、有収水量 * 1 m³ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。

【分析】
給水原価は、本市が市町村合併を行っておらず、給水拠点が広域に拡散していないことが、人件費や維持管理費の抑制に寄与しているといえます。

④企業債残高対給水収益比率（％） ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	441.59	426.02	413.64	412.77	398.82
平均値	258.26	247.27	239.18	236.29	238.77

全国平均値【268.07】

【分析】
企業債 * 残高は類似団体と比較して多いため、引き続き減少させることが課題です。

⑤料金回収率（％） ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	118.77	120.84	119.45	118.72	115.67
平均値	106.07	105.34	101.89	104.33	98.85

全国平均値【97.47】

【分析】
すべての年度で100%以上となっており、給水に係る費用を給水収益で賄っていますが、近年の物価高騰などの影響により、今後は費用の増大が避けられないことから、料金回収率の低下が見込まれます。

⑥給水原価（円） ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	134.09	131.80	132.69	133.48	137.06
平均値	159.22	159.60	156.32	157.40	162.61

全国平均値【174.75】

（経常費用－（受託工事費＋材料及び不用品売却原価*＋附帯事業費）－長期前受金戻入*） ÷ 年間総有収水量
給水原価（円）とは、有収水量 * 1 m³ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。

【分析】
給水原価は、本市が市町村合併を行っておらず、給水拠点が広域に拡散していないことが、人件費や維持管理費の抑制に寄与しているといえます。

ページ

見 直 し 前

見 直 し 後

28

⑦施設利用率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	53.91	53.15	52.84	52.39	52.44
平均値	62.45	62.12	62.26	62.10	62.38

全国平均値【60.41】

(1日平均配水量÷1日配水能力)
×100

施設利用率(%)とは、1日配水能力に対する1日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適性規模を判断する指標です。

【分析】
施設利用率は、平成23年度から認可変更に伴い施設能力を引き上げたため平均値を下回っていますが、施設更新時などにおいても安定給水を可能にする施設能力を有しているといえます。

⑧有収率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	91.14	91.05	91.12	91.99	91.86
平均値	89.76	89.45	89.50	89.52	89.17

全国平均値【89.93】

(年間総有収水量÷年間総配水量)
×100

有収率(%)とは、施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標です。

【分析】
有収率は、漏水調査の実施による漏水量の減少や、適切な施設管理による効果が表れ、平均値を大きく上回っています。

Ⅱ 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率 (%) ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	42.61	44.55	45.37	46.12	47.25
平均値	41.12	44.91	45.89	46.58	46.99

全国平均値【48.12】

(有形固定資産減価償却累計額÷有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価)
×100

有形固定資産減価償却率(%)とは、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。

【分析】
有形固定資産減価償却率は、平均値と同様に、年々増加しており、施設の老朽化が進んでいることを表しています。

⑦施設利用率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	58.83	58.19	59.29	57.64	56.95
平均値	62.83	62.05	63.23	62.59	61.81

全国平均値【59.97】

【分析】
施設利用率は、令和2年度は1日平均配水量の増により一時的な増加は見られるものの、平均値を下回っており、今後も適正な施設規模を把握し、施設のダウンサイジング*を検討していく必要があります。

⑧有収率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	91.93	92.16	91.54	92.52	92.76
平均値	88.86	89.11	89.35	89.70	89.24

全国平均値【89.76】

【分析】
有収率は、漏水調査の実施による漏水量の減少や、適切な施設管理により、高い水準を維持できています。

Ⅱ 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率 (%) ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	48.34	49.35	48.86	49.30	50.19
平均値	47.89	48.69	49.62	50.50	51.28

全国平均値【51.51】

【分析】
有形固定資産減価償却率は、令和2年度に一部の施設の更新工事が完了したことにより、数値が改善しましたが、類似団体と同様に、増加傾向にあることから、施設の老朽化が進んでいます。

29

②管路経年化率 (%) ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	8.60	10.12	11.65	12.25	13.17
平均値	10.90	12.03	13.14	14.45	15.83

全国平均値【15.89】

(法定耐用年数*を経過した管路延長÷管路延長)
×100

管路経年化率*(%)とは、法定耐用年数*を超えた管路延長の割合を表す指標です。

【分析】
管路経年化率*については、平均値より低い数値で推移しています。

②管路経年化率 (%) ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	13.54	14.96	16.65	19.17	20.96
平均値	16.90	18.26	19.51	21.19	22.64

全国平均値【23.75】

【分析】
管路経年化率*については、平均値より低い数値ではありますが、年々増加傾向にあり、管路の老朽化が進んでいます。

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																																				
29	③管路更新率 (%) ↑ <table> <tr> <th></th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr> <tr> <td>防府市</td><td>1.59</td><td>1.50</td><td>1.39</td><td>1.57</td><td>1.35</td></tr> <tr> <td>平均値</td><td>0.85</td><td>0.75</td><td>0.95</td><td>0.74</td><td>0.74</td></tr> </table> 全国平均値【0.69】 (当該年度に管路更新した管路延長 ÷管路延長) × 100 管路更新率* (%)とは、当該年度に 更新した管路延長の割合を表す指標です。 【分析】 管路更新率*については、平均値を大 きく上回る数値で推移しています。 これらの分析結果から、本市の水道事業は、これまでの行財政改革などの効果により、現状は類似団体と比較して健全な経営ができているといえるものの、企業債*の残高が多く、減少させることが課題となっています。 また、給水収益の減少幅が緩やかになってきているものの、人口の減少や節水機器の普及などにより、事業運営の根幹をなす水需要の減少傾向は今後も続くものと見込んでいます。一方で、施設の老朽化対策や耐震化対策の必要があり、料金収入の増加に直接つながらない事業が数多く存在していることから、支出の増大が避けられない見込みです。 今後は、計画的かつ効果的な事業の実施と財源の確保、専門的な技術や知識を有した人材の育成など、長期的展望に立った経営体制の確立が必要です。		H25	H26	H27	H28	H29	防府市	1.59	1.50	1.39	1.57	1.35	平均値	0.85	0.75	0.95	0.74	0.74	③管路更新率 (%) ↑ <table> <tr> <th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>防府市</td><td>1.43</td><td>1.10</td><td>1.14</td><td>1.30</td><td>0.74</td></tr> <tr> <td>平均値</td><td>0.72</td><td>0.66</td><td>0.67</td><td>0.62</td><td>0.60</td></tr> </table> 全国平均値【0.67】 【分析】 管路更新率*については、本ビジョンにおいて、耐震管布設9.5km/年を目標に更新を行っていることから、平均値を上回る数値で推移しています。 これらの分析結果から、本市の水道事業は、これまでの行財政改革などの効果により、現状は類似団体と比較して健全な経営ができているといえます。しかし、人口の減少や節水機器の普及などにより、事業運営の根幹をなす水需要の減少傾向は今後も続くものと見込んでいます。 一方で、施設の老朽化対策や耐震化対策の必要があり、料金収入の増加に直接つながらない事業が数多く存在していると同時に、近年の物価高騰、エネルギー価格や人件費の上昇により、支出の増大が避けられないことから、経営状況は厳しさを増す見込みです。 今後は、計画的かつ効果的な事業の実施と財源の確保、専門的な技術や知識を有した人材の育成など、長期的展望に立った経営体制の確立が必要です。		H30	R1	R2	R3	R4	防府市	1.43	1.10	1.14	1.30	0.74	平均値	0.72	0.66	0.67	0.62	0.60
	H25	H26	H27	H28	H29																																	
防府市	1.59	1.50	1.39	1.57	1.35																																	
平均値	0.85	0.75	0.95	0.74	0.74																																	
	H30	R1	R2	R3	R4																																	
防府市	1.43	1.10	1.14	1.30	0.74																																	
平均値	0.72	0.66	0.67	0.62	0.60																																	

ページ

見直し前

30

才 工業用水道事業の経営指標分析

経営や施設の状況を表す経営指標により、工業用水道事業の経営状況を類似団体及び全国平均との比較により分析しました。

なお、分析に使用する経営指標は、総務省で公表している平成29年度決算における経営比較分析表に基づいています。類似団体とは、現在配水能力10,000m³/日以上50,000m³/日未満の都市です。

※図中の ↑ は高い数値であることが望ましい指標、 ↓ は低い数値が望ましい指標を示しています。

I 経営の健全性・効率性

①経常収支比率（%） ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	119.75	116.06	127.76	126.96	126.32
平均値	103.40	109.60	108.74	109.99	109.10

全国平均値【119.82】

（経常収益÷経常費用）×100

経常収支比率（%）とは、給水収益や一般会計からの繰入金などの収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標です。

【分析】

経常収支比率は約120%前後で推移し、類似団体の平均値を上回っているため、健全な経営が行えています。

②累積欠損金比率（%） ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	86.79	85.38	86.84	83.56	82.78

全国平均値【27.12】

（当年度末処理欠損金÷（営業収益－受託工事収益））×100

累積欠損金*比率（%）とは、営業収益に対する累積欠損金*の状況を表す指標です。

【分析】

累積欠損金*はなく、累積欠損金*比率は0%となっています。

見直し後

才 工業用水道事業の経営指標分析

経営や施設の状況を表す経営指標により、工業用水道事業の経営状況を類似団体及び全国平均との比較により分析しました。

なお、分析に使用する経営指標は、総務省で公表している令和4年度決算における経営比較分析表に基づいています。類似団体とは、現在配水能力10,000m³/日以上50,000m³/日未満の都市です。

※図中の ↑ は高い数値であることが望ましい指標、 ↓ は低い数値が望ましい指標を示しています。

I 経営の健全性・効率性

①経常収支比率（%） ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	124.98	114.64	132.42	127.96	128.60
平均値	108.18	114.99	110.04	115.00	110.28

全国平均値【112.60】

【分析】

経常収支比率は約120%前後で推移し、平均値を上回っており、健全な経営が行えています。

②累積欠損金比率（%） ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	79.27	75.56	68.38	66.13	70.21

全国平均値【29.72】

【分析】

累積欠損金*はなく、累積欠損金*比率は0%となっています。

ページ

見 直 し 前

見 直 し 後

31

③流動比率 (%) ↑

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	3,219.80	1,652.61	1,754.93	2,221.07	2,702.95
平均値	2,111.40	654.62	619.00	688.41	649.92

全国平均値【432.30】

(流動資産*÷流動負債*)×100
流動比率 (%)とは、短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。

【分析】
すべての年度において、1,500%以上で類似団体の平均値を上回っており、短期的な債務に対する支払能力は非常に高いといえます。
数値の増減は主に現金、預金及び未払金の変動によるものです。

④料金回収率 (%) ↑

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	118.68	115.36	126.17	125.43	125.62
平均値	83.05	89.26	90.99	93.59	93.31

全国平均値【115.64】

(供給単価÷給水原価)×100
料金回収率 (%)とは、給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標です。

【分析】
工業用水道料金に責任水量制*を採用しており、安定した経営を行っています。料金回収率は100%以上かつ類似団体の平均値を超えており、給水に係る費用を給水収益で賄えています。

⑤給水原価 (円) ↓

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	21.57	22.19	20.29	20.41	20.38
平均値	36.50	34.57	34.10	33.79	33.81

全国平均値【18.33】

(経常費用-(受託工事費+長期前受金戻入*))÷年間総有収水量
給水原価 (円)とは、有収水量* 1 m³当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。

【分析】
給水原価は、類似団体の平均値と比較しても低い水準にあります。受水企業が1社のみで、投資*効率がよいと考えられます。

③流動比率 (%) ↑

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	2,565.87	1,052.30	3,457.23	2,107.16	2,600.72
平均値	680.22	786.06	771.18	815.18	808.62

全国平均値【473.00】

【分析】
流動比率は、平均値を上回っており、短期的な債務に対する支払能力は確保できているといえます。
令和元年度は、施設整備工事の未払金の増加などにより、数値が悪化していますが、一過性のものです。

④料金回収率 (%) ↑

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	124.54	113.52	131.76	125.92	117.19
平均値	92.20	103.39	96.49	101.92	98.05

全国平均値【106.87】

【分析】
工業用水道料金に責任水量制*を採用しており、安定した経営を行っています。料金回収率は100%以上かつ類似団体の平均値を超えており、給水に係る費用を給水収益で賄えています。

⑤給水原価 (円) ↓

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	20.56	22.55	19.43	20.33	21.84
平均値	34.33	30.96	33.23	31.60	33.26

全国平均値【20.26】

(経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価*+附帯事業費)-長期前受金戻入*)÷年間総有収水量
給水原価 (円)とは、有収水量* 1 m³当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。

【分析】
給水原価は、受水企業が1社のみで、投資*効率がよいので、類似団体の平均値と比較して低い水準にあります。

32

⑥有収水量1m³当たり企業債残高 (円/m³) ↓

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	185.74	181.37	171.40	159.78	167.67

全国平均値【53.98】

企業債*残高÷年間総有収水量
有収水量* 1 m³当たりの企業債*残高 (円/m³)とは、有収水量* 1 m³当たりどれだけの企業債*残高があるかという指標です。

【分析】
近年、投資*の財源として企業債*を借り入れておらず、自己財源により事業運営しているため、この指標は0円/m³となっています。

⑥有収水量1m³当たり企業債残高 (円/m³) ↓

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	159.77	144.31	142.35	133.12	133.22

全国平均値【50.86】

【分析】
新たな企業債*を借り入れておらず、自己財源により事業運営しているため、この指標は0円/m³となっています。

ページ

見 直 し 前

見 直 し 後

32

⑦現在配水能力に対する契約率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00
平均値	63.10	61.29	61.07	61.62	61.64

全国平均値【76.28】

(契約水量÷現在配水能力)×100
現在配水能力に対する契約率(%)とは、契約率が高いほど給水収益が増加しやすく、固定費の回収が可能となる指標です。

【分析】
現在配水能力(施設能力)は20,000m³/日です。契約水量は平成16年以前は配水能力と同じ量でしたが、受水企業から1日当たりの使用水量を減量する旨の要望書が提出されたことを受け、平成17年度から段階的に減量し、現在の契約水量は15,000m³/日です。現在配水能力に対する契約率は75%で、類似団体の平均値を上回っています。

⑧計画配水能力に対する契約率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00
平均値	57.43	56.01	55.81	56.37	56.60

全国平均値【67.14】

(契約水量÷計画配水量)×100
計画配水能力に対する契約率(%)とは、契約率が高いほど給水収益が増加しやすく、固定費の回収が可能となる指標です。

【分析】
計画配水能力は現在配水能力と同じ20,000m³/日です。受水企業から20,000m³/日までの増量要請を受けていますが、契約水量は15,000m³/日のままで、それを超える場合は超過分としています。

⑦現在配水能力に対する契約率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00
平均値	61.85	64.14	63.89	64.70	65.38

全国平均値【75.85】

【分析】
現在配水能力(施設能力)は20,000m³/日で、現在の契約水量は15,000m³/日です。現在配水能力に対する契約率は75%で、類似団体の平均値を上回っています。

⑧計画配水能力に対する契約率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	75.00	75.00	75.00	75.00	75.00
平均値	56.72	60.09	60.01	60.41	61.07

全国平均値【67.32】

【分析】
計画配水能力は現在配水能力と同じ20,000m³/日です。契約水量は15,000m³/日で、それを超える場合は超過分としています。

33

Ⅱ 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率 (%) ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	80.59	82.18	83.10	83.63	84.79
平均値	25.26	48.15	49.38	51.15	52.15

全国平均値【57.86】

(有形固定資産減価償却累計額÷有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価)×100
有形固定資産減価償却率(%)とは、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。

【分析】
有形固定資産減価償却率は80%超で類似団体の平均値を上回っており、年々上昇しています。施設の老朽化が進んでいることを表しています。

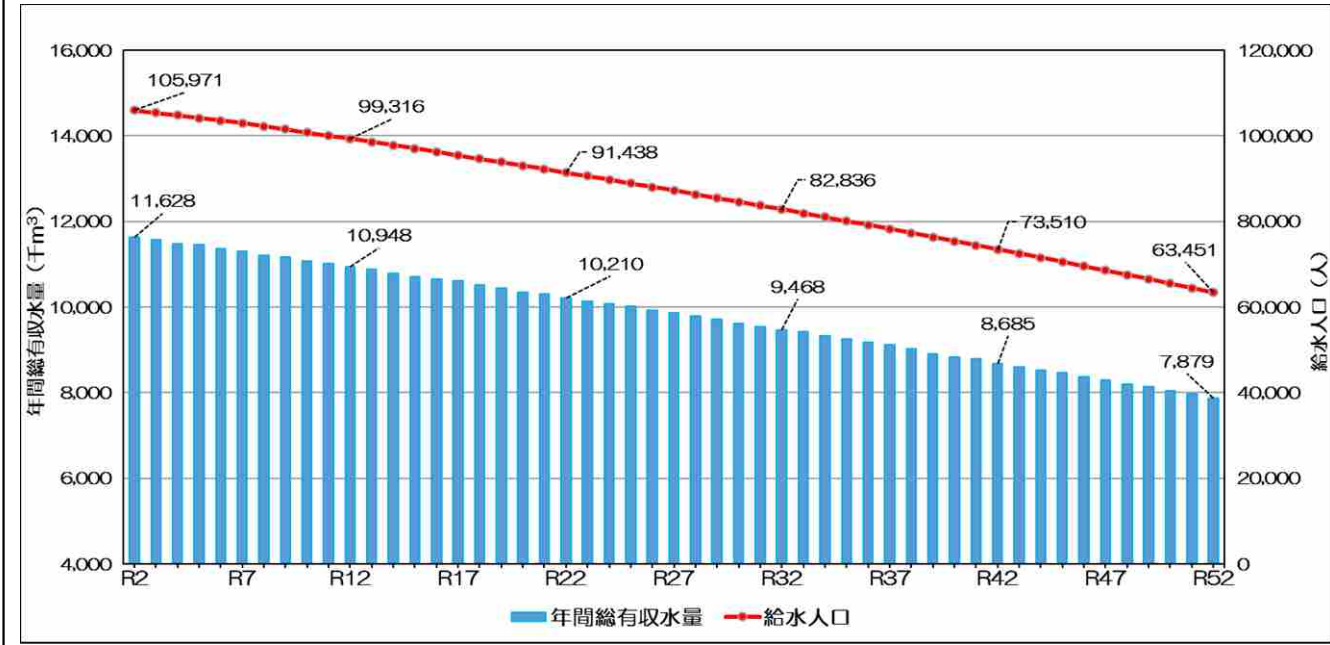
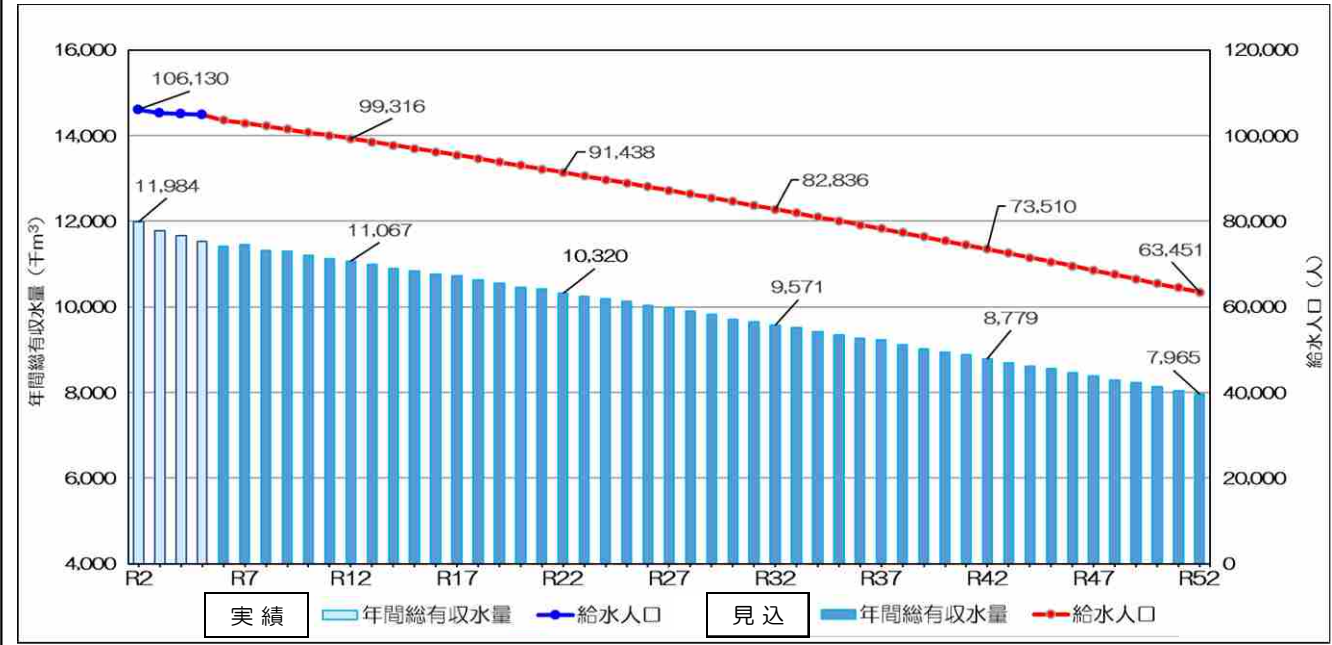
Ⅱ 老朽化の状況

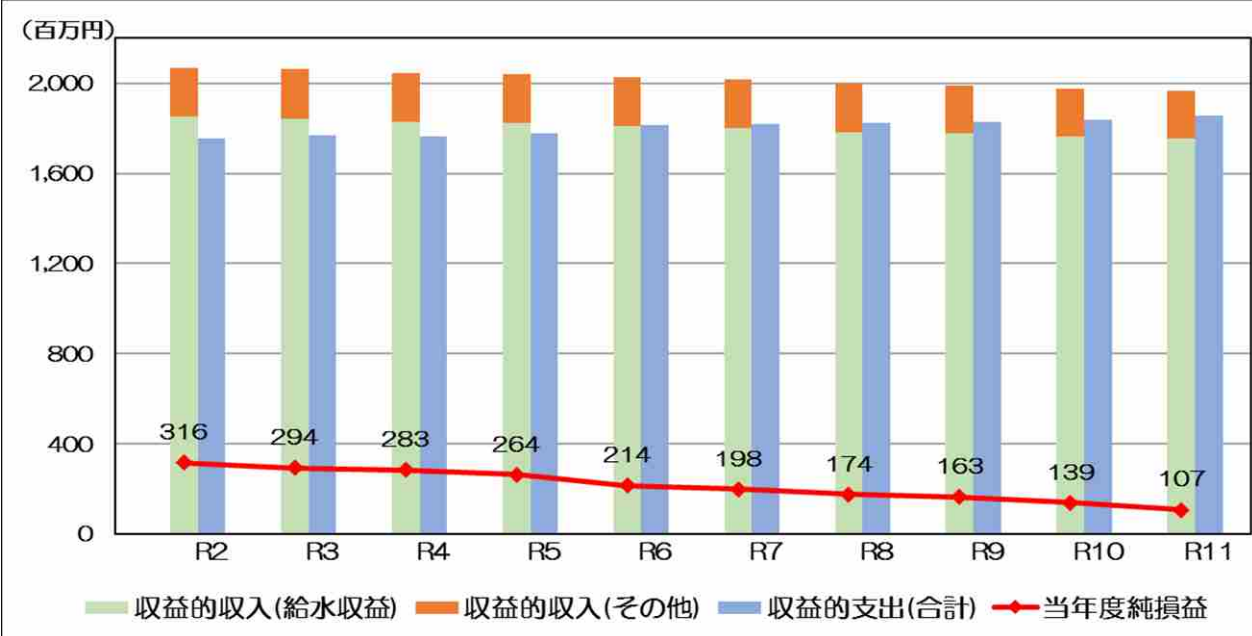
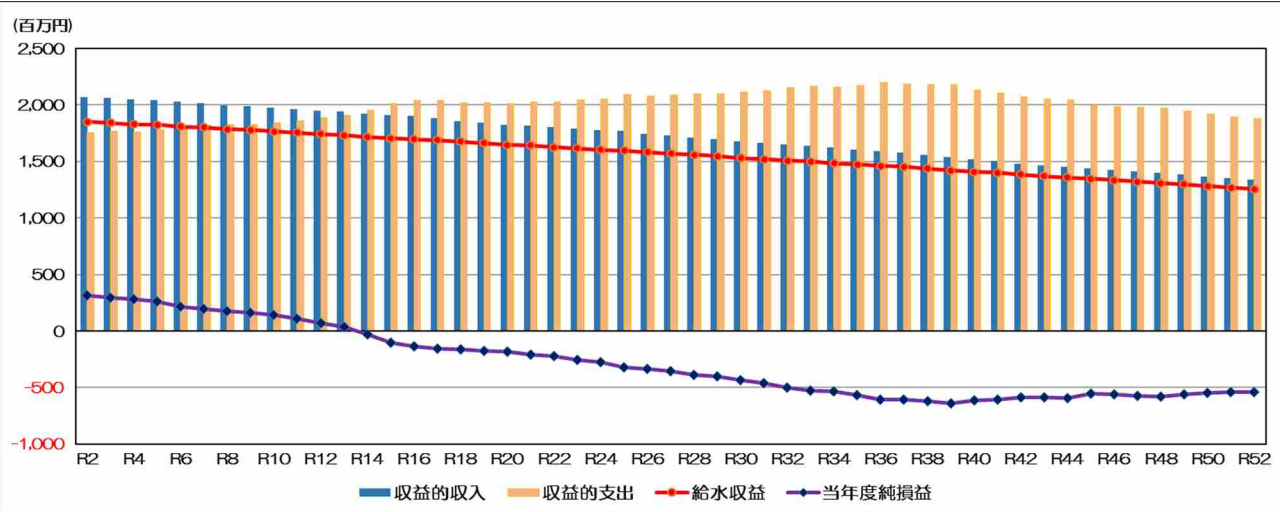
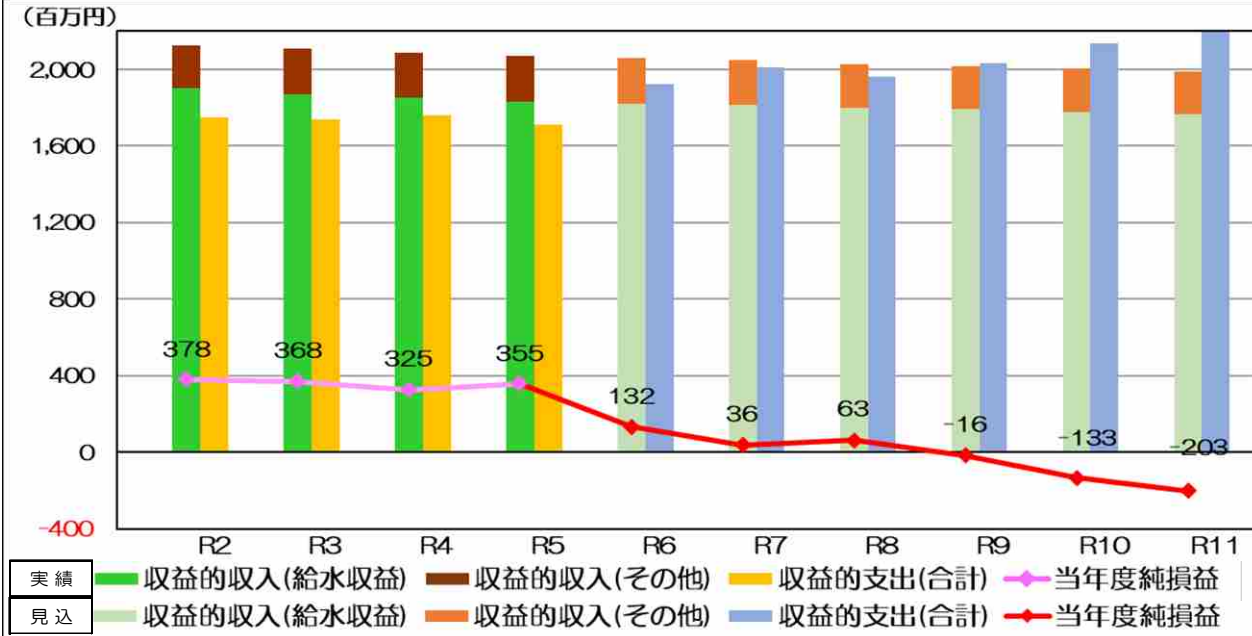
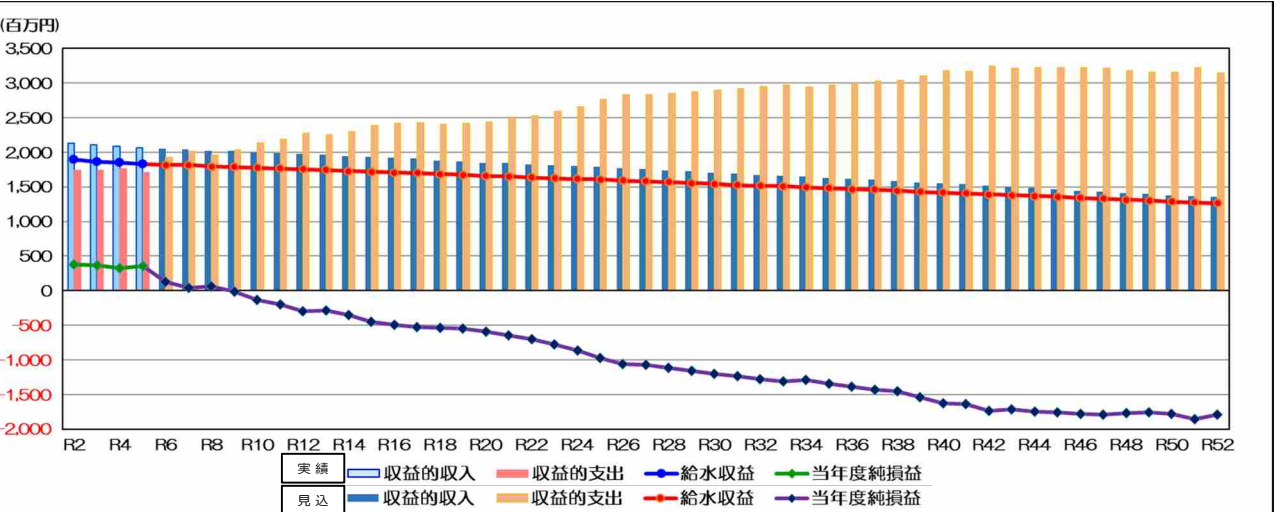
①有形固定資産減価償却率 (%) ↓

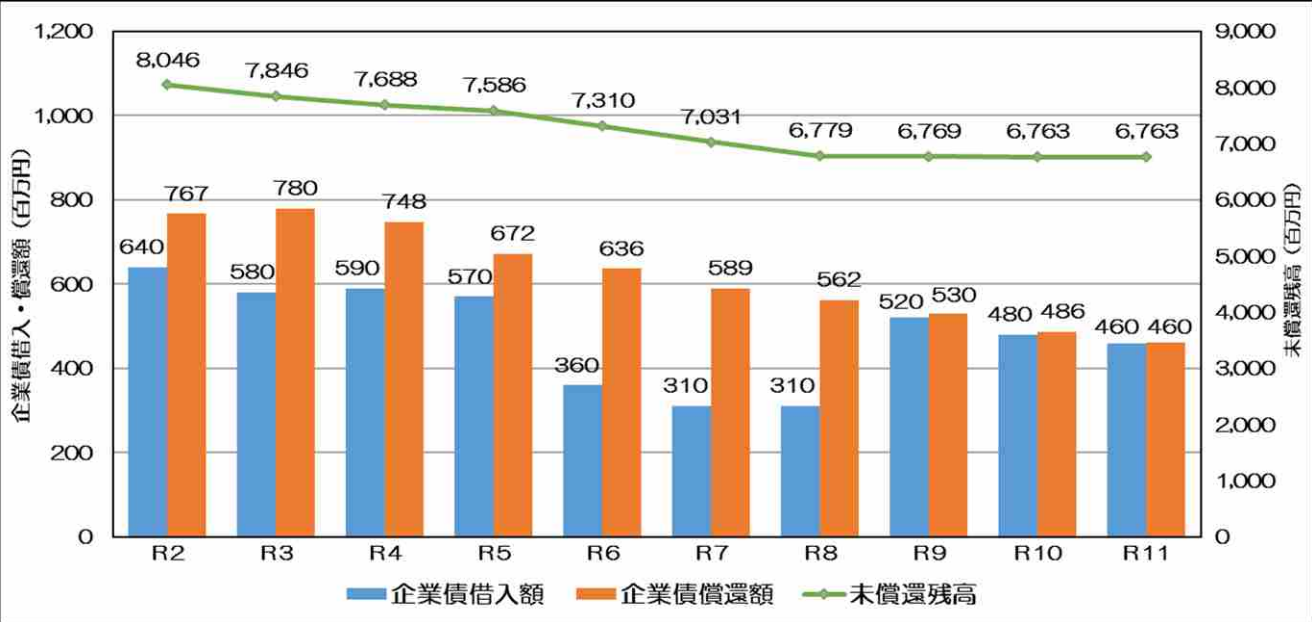
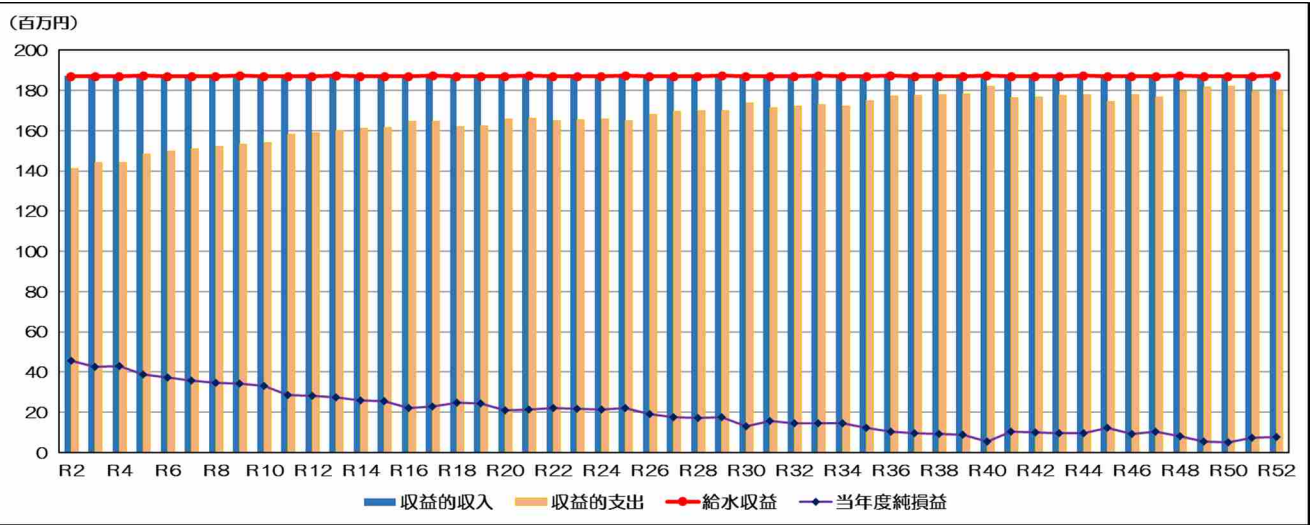
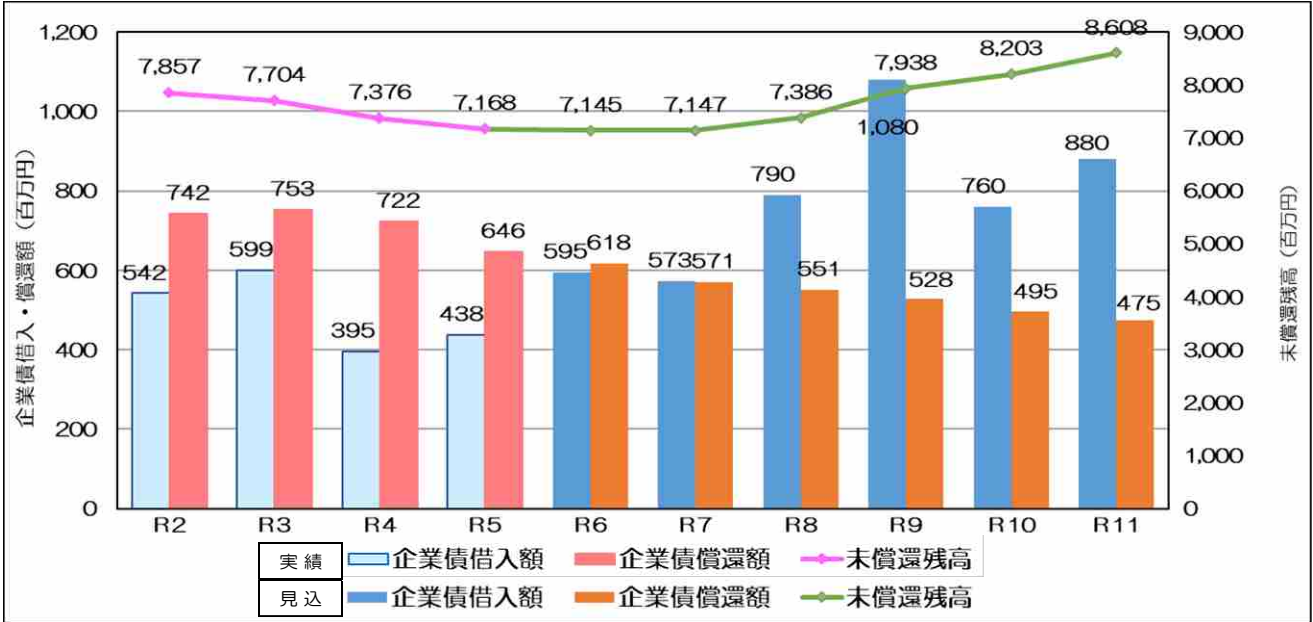
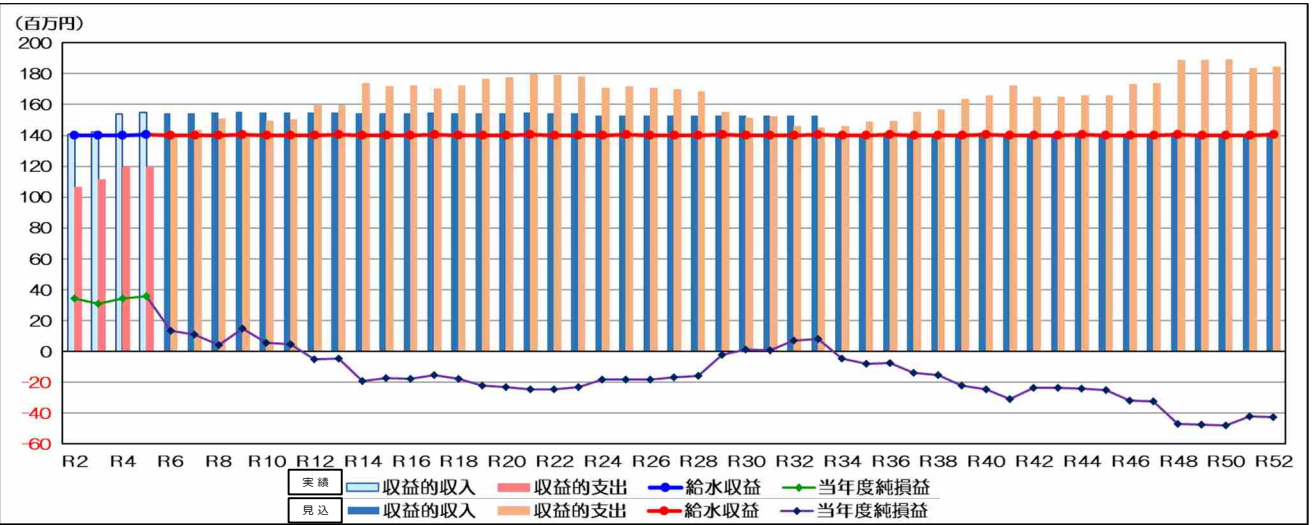
	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	68.58	67.30	50.29	51.30	54.05
平均値	52.21	54.51	55.38	56.07	55.87

全国平均値【61.17】

【分析】
平成30年度から実施した地神堂水源地の施設整備工事により、数値は改善しています。

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
33	 この分析結果から、本市の工業用水道事業は、受水企業1社への給水として行われている事業であるため投資*効率がよく、責任水量制*の料金算定を採用していることから安定した経営ができています。今後、管路の老朽化対策や耐震化対策を実施する必要がありますが、当面は企業債*を借り入れることなく自己財源で対応できる見込みです。	 この分析結果から、本市の工業用水道事業は、受水企業1社への給水として行われている事業であるため投資*効率がよく、責任水量制*の料金算定を採用していることから安定した経営ができており、<u>当面は企業債*を借り入れることなく自己財源で対応できる見込みです。</u> <u>今後、設備の大規模な更新が控えており、経営を圧迫することが予想されるため、受水企業と協議しながら計画的かつ効率的な更新に取り組む必要があります。</u>
35	3 投資・財政計画 (1) 水需要の将来見通し 給水人口*は、平成15年度の109,694人をピークに、緩やかに減少しており、平成30年度にはピークから約2.4％減少し、107,107人となりました。将来の給水人口*の推計では、10年後の令和12年度には99,316人（平成30年度比 約7.3％減少）、50年後の令和52年度には63,451人（平成30年度比 約40.8％減少）となり、50年で給水人口*は半分近く減少する見込みです。 有収水量*は、平成10年度に年間約1,339万m³でピークを迎え、その後は節水機器の普及や節水意識の高まりとともに減少傾向にあり、平成30年度はピーク時から約10.8％減少し、約1,194万m³となりました。将来の有収水量*の推計は、10年後の令和12年度には約1,095万m³（平成30年度比 約8.3％減少）、50年後の令和52年度には約788万m³（平成30年度比 約34.0％減少）となり、給水人口*の減少と同様に50年後には有収水量*も大幅に減少する見込みです。 【給水人口*・年間総有収水量の見通し（令和2年度～令和52年度）】 	3 投資・財政計画 (1) 水需要の将来見通し 給水人口*は、平成15年度の109,694人をピークに、緩やかに減少しており、平成30年度にはピークから約2.4％減少し、107,107人となりました。将来の給水人口*の推計では、10年後の令和12年度には99,316人（平成30年度比 約7.3％減少）、50年後の令和52年度には63,451人（平成30年度比 約40.8％減少）となり、50年で給水人口*は半分近く減少する見込みです。 有収水量*は、平成10年度に年間約1,339万m³でピークを迎え、その後は節水機器の普及や節水意識の高まりとともに減少傾向にあり、平成30年度はピーク時から約10.8％減少し、約1,194万m³となりました。将来の有収水量*の推計は、10年後の令和12年度には約1,107万m³（平成30年度比 約7.3％減少）、50年後の令和52年度には約797万m³（平成30年度比 約33.2％減少）となり、給水人口*の減少と同様に50年後には有収水量*も大幅に減少する見込みです。 【給水人口*・年間総有収水量の見通し（令和2年度～令和52年度）】 <u>※実績値（令和2年度～令和5年度）</u> 

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
38	3 投資*・財政計画 (3) 財源試算 給水収益（水道料金） 現行の料金体系・水準の維持を前提に、50年先までの財政シミュレーションをすると、今後10年間は収益的収入が収益的支出を上回っていますが、令和7年度に給水収益が収益的支出を下回ることから、健全経営のため、料金改定について検討を始めることが見込まれます。 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和11年度）】  ※実績値（令和2年度～令和5年度） 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和52年度）】 	3 投資*・財政計画 (3) 財源試算 給水収益（水道料金） 現行の料金体系・水準の維持を前提に、50年先までの財政シミュレーションをすると、<u>物価高騰等による収益的支出の増加に伴い、令和9年度には収益的収入が収益的支出を下回ることから、健全経営のため、料金改定について検討を始める必要があります。</u> 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和11年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度）  【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和52年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度） 

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
39	・企業債* 今後10年間は、原則、起債対象事業に対する企業債*の借入割合を一定の水準に抑えることで、企業債*残高は令和2年度の約80億円から令和11年度の約68億円へと約12億円減少すると見込んでいます。 【企業債*残高の見通し（令和2年度～令和11年度）】  ・給水収益（工業用水道料金） 工業用水道事業については、現在の送水量から5,000m³/日の増加予定があることから、今後も純利益が見込まれます。 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和52年度）】 	・企業債* これまで、起債対象事業に対する企業債*の借入割合を一定の水準に抑えることで、企業債*残高は減少してきましたが、老朽管や施設の更新・耐震化を進めるため、<u>今後は増加に転じると見込んでいます。</u> 【企業債*残高の見通し（令和2年度～令和11年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度）  ・給水収益（工業用水道料金） 工業用水道事業については、<u>令和12年度以降、収益的收入が収益的支出を下回る見込みであることから、受水企業と協議の上、安定的な事業運営に努めます。</u> 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和52年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度） 
40～43	水道事業会計財政収支中長期計画 工業用水道事業会計財政収支中長期計画	水道事業会計財政収支中長期計画（資料3参照） 工業用水道事業会計財政収支中長期計画（資料4参照）

水道事業会計
財政収支中長期計画

資料3

収益的収支（税抜）(単位：千円)

年 度			令和元年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（決算）	令和5年度（決算）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収 入	営業収益	給水収益	1,891,331	1,899,544	1,866,391	1,849,490	1,827,700	1,817,551	1,815,000	1,796,000	1,791,000	1,776,000	1,765,000
		給水負担金	26,368	21,984	21,792	21,944	19,112	24,185	19,488	19,345	19,202	19,059	18,916
		その他	32,299	30,214	35,845	36,558	41,042	40,782	34,026	34,026	34,026	34,026	34,026
	収益外	他会計補助金	2,647	2,398	2,701	2,529	1,763	2,201	2,564	2,087	2,048	2,014	2,000
		長期前受金戻入	154,036	156,839	164,744	162,225	161,787	162,154	164,877	162,340	160,713	160,240	158,668
		その他	15,150	14,770	14,521	14,444	16,447	9,673	10,621	10,621	10,621	10,621	10,621
	特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		2,121,831	2,125,749	2,105,994	2,087,190	2,067,851	2,056,546	2,046,576	2,024,419	2,017,610	2,001,960	1,989,231	
支 出	営業費用	人件費	183,688	196,383	190,485	184,444	188,968	245,292	254,845	233,948	238,627	243,400	245,834
		維持管理費	394,790	376,000	356,491	356,738	377,656	456,605	473,371	468,428	478,700	504,585	516,136
		動力費	86,901	82,077	86,188	121,163	107,402	157,990	158,080	154,125	154,732	154,493	154,670
		薬品費	3,370	3,375	3,308	3,870	4,321	5,250	5,050	4,924	4,943	4,935	4,941
		減価償却費	866,365	877,505	907,648	888,764	900,631	924,663	948,395	946,796	994,254	1,032,645	1,053,034
		資産減耗費	15,976	62,962	60,898	87,672	26,915	20,342	55,951	34,303	34,303	49,303	61,303
		その他（児童手当等）	2,150	1,940	2,370	2,270	1,755	2,460	2,775	2,775	2,775	2,775	2,775
	費用外	企業債利息等	165,866	145,444	127,778	112,689	103,176	96,428	96,484	101,290	110,904	129,158	140,687
		繰延償却	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他（雑支出外）	824	2,221	2,468	4,549	1,833	15,508	15,235	15,235	15,235	15,235	15,235
	特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		1,719,930	1,747,907	1,737,634	1,762,159	1,712,657	1,924,538	2,010,186	1,961,824	2,034,473	2,136,529	2,194,615
当年度純利益			401,901	377,842	368,360	325,031	355,194	132,008	36,390	62,595	-16,863	-134,569	-205,384
その他未処分利益剰余金変動額（自己資本組入）			474,722	414,964	675,981	377,842	368,360	325,031	355,194	132,008	36,390	62,595	0
利益剰余金処分額（減債積立金）			414,964	401,901	377,842	368,360	325,031	355,194	132,008	36,390	62,595	0	0
繰越利益剰余金			200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	183,137	48,568	-156,816
建設改良積立金			274,080	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資本的収支（税込）

科 目 \ 年 度		令和元年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（決算）	令和5年度（決算）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収 入	企業債	394,000	542,000	599,400	394,800	438,200	594,544	572,920	790,000	1,080,000	760,000	880,000
	補助金	0	0	0	0	38,605	17,448	14,081	0	13,000	0	0
	工事負担金	80,567	69,153	71,841	40,933	26,630	105,242	118,264	38,549	38,549	38,549	38,549
	出資金	5,212	28,172	42,938	55,997	35,296	21,726	2,057	1,821	1,859	900	0
	その他	0	0	38,284	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	479,779	639,325	752,463	491,730	538,731	738,960	707,322	830,370	1,133,408	799,449	918,549
支 出	翌年度繰越財源	0	108,295	88,881	85,858	0	0	0	0	0	0	0
	建設改良費	1,184,255	1,371,027	1,097,366	825,715	1,043,535	1,378,743	1,522,959	1,685,235	1,521,535	1,268,388	1,436,347
	企業債償還金等	736,011	742,077	752,909	722,386	645,979	617,525	571,314	550,742	528,490	495,023	474,800
	その他（営業設備費外）	78,709	12,622	31,494	39,070	31,106	52,439	93,511	37,924	37,924	37,924	47,924
	計	1,998,975	2,125,726	1,881,769	1,587,171	1,720,620	2,048,707	2,187,784	2,273,901	2,087,949	1,801,335	1,959,071
差 引		-1,519,196	-1,594,696	-1,218,187	-1,181,299	-1,181,889	-1,309,747	-1,480,462	-1,443,531	-954,541	-1,001,886	-1,040,522
補てん財源	損益勘定留保資金	1,006,028	804,429	636,730	649,291	677,407	888,338	1,267,422	1,251,399	751,086	884,039	906,497
	減債積立金	414,964	401,901	377,842	368,360	325,031	355,194	132,008	36,390	62,595	0	0
	建設改良積立金	0	274,080	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	繰越工事資金	0	0	108,295	88,881	85,858	0	0	0	0	0	0
	消費税等資本的収支調整額	98,204	114,286	95,320	74,767	93,593	66,215	81,032	155,742	140,860	117,847	134,025
	計	1,519,196	1,594,696	1,218,187	1,181,299	1,181,889	1,309,747	1,480,462	1,443,531	954,541	1,001,886	1,040,522
補てん財源不足額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
企業債残高		8,057,395	7,857,318	7,703,809	7,376,223	7,168,444	7,145,463	7,147,069	7,386,327	7,937,837	8,202,814	8,608,014

工業用水道事業会計
財政収支中長期計画

資料4

収益的収支（税抜）

（単位：千円）

科 目 \ 年 度			令和元年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（決算）	令和5年度（決算）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収 入	営業 収益	給水収益	140,544	140,160	140,160	140,160	140,544	140,160	140,160	140,160	140,544	140,160	140,160
		減量負担金	0	0	0	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400
		その他	33	28	1,901	1,912	1,877	1,856	1,856	2,072	2,072	2,072	2,072
	収益 外	他会計補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	1,370	670	372	346	1,251	933	1,112	1,112	1,112	1,112	1,112
		特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		141,947	140,858	142,433	153,818	155,072	154,349	154,528	154,744	155,128	154,744	154,744
	支 出	営業 費用	人件費	81,833	68,936	59,247	59,674	58,975	62,725	66,381	67,709	57,215	58,359
維持管理費			22,539	16,564	23,404	24,746	25,729	33,745	31,266	31,579	31,894	32,213	32,536
動力費			8,614	8,393	9,178	13,719	11,933	18,201	18,199	18,326	18,505	18,584	18,714
薬品費			1,300	1,645	1,013	1,045	1,008	3,792	3,682	3,708	3,744	3,760	3,786
減価償却費			7,212	9,342	17,796	18,811	18,690	18,865	18,657	23,938	23,477	30,861	30,780
資産減耗費			2,309	1,485	662	1,601	3,026	1,709	3,272	3,272	3,272	3,272	3,272
その他			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費用 外		企業債利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		繰延償却	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他（雑支出外）	8	10	11	14	8	2,040	2,030	2,030	2,030	2,030	2,030
特別損失		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		123,815	106,375	111,311	119,610	119,369	141,077	143,487	150,562	140,137	149,079	150,061	
当年度純利益			18,132	34,483	31,122	34,208	35,703	13,272	11,041	4,182	14,991	5,665	4,683
その他未処分利益剰余金変動額（自己資本組入）			85,000	28,000	88,740	0	0	0	0	28,000	0	112,000	0
利益剰余金処分額（建設改良積立金）			28,000	0	0	0	0	0	28,000	0	112,000	0	191,000
繰越利益剰余金			219,603	254,086	285,208	319,416	355,119	368,391	351,432	355,614	258,605	264,270	77,953
積立金（建設改良、利益）			130,500	41,760	41,760	41,760	41,760	41,761	13,761	13,761	13,761	13,761	13,761

資本的収支（税込）

科 目		年 度	令和元年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（決算）	令和5年度（決算）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収 入	企業債		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補助金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	工事負担金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	出資金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他		0	0	16,960	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	16,960	0	0	0	0	0	0	0	0
	翌年度繰越財源		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支 出	建設改良費		101,916	90,288	0	0	0	0	158,912	6,000	123,840	0	210,410
	企業債償還金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他(営業設備費外)		2,674	6,657	40,926	2,045	2,247	10,597	22,671	12,050	12,050	12,050	12,050
	計		104,590	96,945	40,926	2,045	2,247	10,597	181,583	18,050	135,890	12,050	222,460
差 引			-104,590	-96,945	-23,966	-2,045	-2,247	-10,597	-181,583	-18,050	-135,890	-12,050	-222,460
補てん財源	損益勘定留保資金		68,651	0	21,849	2,016	2,206	10,327	143,024	17,319	12,446	11,864	12,146
	減債積立金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建設改良積立金		28,000	88,740	0	0	0	0	28,000	0	112,000	0	191,000
	繰越工事資金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消費税等資本的収支調整額		7,939	8,205	2,117	29	41	270	10,559	731	11,444	186	19,314
	計		104,590	96,945	23,966	2,045	2,247	10,597	181,583	18,050	135,890	12,050	222,460
補てん財源不足額			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
46	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針1 安心・安全な上下水道 基本目標(1) 安心・安全な給水の確保 施策① 水道水の安全確保 ・水質管理 濁度*、pH*、残留塩素等の水質検査項目は、引き続き、水源地や増圧ポンプ所などに設置した機器で計測し、24時間遠隔監視制御装置で監視していきます。また、毎年公表する「水質検査計画」に基づいた検査を実施し、水道水の安全確保に努めます。検査は必要に応じて検査場所、項目や回数を見直すことで精度を高めていきます。なお、検査結果は毎月ホームページで公表しています。	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針1 安心・安全な上下水道 基本目標(1) 安心・安全な給水の確保 施策① 水道水の安全確保 ・水質管理 濁度*、pH*、残留塩素等の水質検査項目は、引き続き、水源地や増圧ポンプ所などに設置した機器で計測し、24時間遠隔監視制御装置で監視していきます。また、毎年公表する「水質検査計画」に基づいた検査を実施し、水道水の安全確保に努めます。検査は必要に応じて検査場所、項目や回数を見直すことで精度を高めていきます。 <u>また、昨今、難分解性や高蓄積性による環境中への残留が問題視されている有機フッ素化合物であるPFAS*について、その一種であるPFOSとPFOAが令和2年度から水質管理目標設定項目に追加されたため、本市においても検査対象項目に追加し1年に1回検査しています。国の定める暫定目標値を下回ってはいるものの検出された水源地があることから、引き続き監視を行うとともに、国の取扱い見直しにも注視していきます。</u> <u>なお、検査結果はホームページで公表しています。</u>
50	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針2 強靱で頼れる上下水道 基本目標(1) 施設の耐震化の推進 施策① 水道施設の耐震化 管路の耐震化については、平成21年度から耐震管を採用し、老朽管更新に合わせて推進しています。今後は、年代の古く耐震性能が低い铸铁管*（CIP）や口径の大きい硬質塩化ビニル管（VP）を優先して更新するとともに、基幹管路*や重要給水施設*への配水管*の継手補強*による耐震性能向上を図ります。また、配水池については、改良工事に合わせて耐震化対策を実施します。	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針2 強靱で頼れる上下水道 基本目標(1) 施設の耐震化の推進 施策① 水道施設の耐震化 管路の耐震化については、平成21年度から耐震管を採用し、老朽管更新に合わせて推進しています。今後は、年代の古く耐震性能が低い铸铁管*（CIP）や口径の大きい硬質塩化ビニル管（VP）を優先して更新するとともに、基幹管路*や重要給水施設*への配水管*の継手補強*等による耐震性能向上を図ります。また、配水池については、改良工事に合わせて耐震化を実施します。 <u>令和6年1月に発生した能登半島地震では、上下水道施設の耐震化の遅れが復旧の長期化の一因と指摘され、上下水道の両機能確保の重要性が再認識されたことから、国の要請により「浄水*施設や下水処理場等の急所施設」及び「避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等」について、上下水道一体で耐震化を推進するための「上下水道耐震化計画」を令和7年1月に作成しました。今後、この計画に基づいて実施していきます。</u>

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後												
51	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(1) 運営基盤の強化 施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討 現行料金を可能な限り維持するため、更に効率的かつ効果的な事業運営に努めますが、将来的には、料金改定が必要な状況になると予測されることから、適正な事業水準に応じた料金を検討します。 【施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討】の取組 ・将来的に料金改定が必要となると予測されるため、効率的かつ効果的な事業運営に努める。	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(1) 運営基盤の強化 施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討 現行料金を可能な限り維持するため、効率的かつ効果的な事業運営に努めてきましたが、諸物価・労務費等の高騰に伴い、今後の事業費等を見直したところ、令和9年度には収益的収入が収益的支出を下回ることが予測されるため、料金改定に向けて具体的な検討を開始する必要があります。 <table><tr><th>項目</th><th>現状（R5末）</th><th>R9</th><th>最終（R11）</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>120.7%</td><td>99.2%</td><td>100%超</td></tr><tr><td>料金回収率</td><td>117.9%</td><td>95.6%</td><td>100%超</td></tr></table> 【施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討】の取組 ・有収水量の減少、諸費用の増加、今後実施すべき事業を精査し、将来的に事業運営が持続可能になる料金水準を検討する。	項目	現状（R5末）	R9	最終（R11）	経常収支比率	120.7%	99.2%	100%超	料金回収率	117.9%	95.6%	100%超
	項目	現状（R5末）	R9	最終（R11）										
経常収支比率	120.7%	99.2%	100%超											
料金回収率	117.9%	95.6%	100%超											

ページ

51

見直し前

—

見直し後

投資・財政計画における令和7年～令和11年度の収支から水道料金水準の算定を行いましたので、下表のとおりお示しします。

水道料金 原価計算表

給水開始年月日

昭 和 26 年 7 月 1 日

給水人口

104,890人

計算期間

自 令和7年4月 至 令和12年3月
(5年間)

収 入 の 部

項 目	金 額			
	最近1箇年間の実績 (令和5年度)	投資・財政計画計上額(A) (令和7～11年度の平均値)	公費負担分(B) (令和7～11年度の平均値)	料金対象収支 (A)-(B)
料 金 (X)	千円 1,827,700	千円 1,788,600	千円	千円 1,788,600
給 水 装 置 工 事 費	0	0		0
そ の 他	240,151	227,359		227,359
合 計	2,067,851	2,015,959	0	2,015,959

支 出 の 部

項 目	金 額			
	最近1箇年間の実績 (令和5年度)	投資・財政計画計上額(A') (令和7～11年度の平均値)	公費負担分(B') (令和7～11年度の平均値)	料金対象収支 (A')-(B')
人 件 費	千円 188,968	千円 243,331	千円	千円 243,331
維 持 管 理 費	377,656	488,244		488,244
動 力 費	107,402	155,220		155,220
薬 品 費	4,321	4,959		4,959
減 価 償 却 費	900,631	995,025		995,025
支 払 利 息	103,176	115,705		115,705
そ の 他	30,503	65,043		65,043
小 計 (C)	1,712,657	2,067,527	0	2,067,527
費 用 関 連 収 入 (D)	240,151	227,359		227,359
合 計 (C)-(D)=(Y)	1,472,506	1,840,168	0	1,840,168

資産維持費(Z)
(令和7～11年度の平均値)

千円
264,942

料 金 対 象 経 費 (Y)+(Z)

2,105,110

(X)／((Y)+(Z))＊100＝

%
84.96

<料金水準についての説明>

算定の結果、料金対象経費に対する料金収入の割合は84.96%となり、料金収入の不足が見込まれます。料金水準の現状を踏まえ、今後の収支バランスに注視しながら、料金改定の必要性を検討していきます。

※資産維持費＝対象資産（料金算定期間期首及び期末の平均残高）×資産維持率（3％）
なお、資産維持率3％は、「水道料金算定要領」（公益社団法人日本水道協会）の標準率です。

※原価計算表は、令和4年1月25日付け総務省通知「経営戦略の改定推進について」のひな形様式を参考に作成しました。

1 投資・財政計画計上額（A）欄は、直近の料金算定期間内における平均値を記載すること。

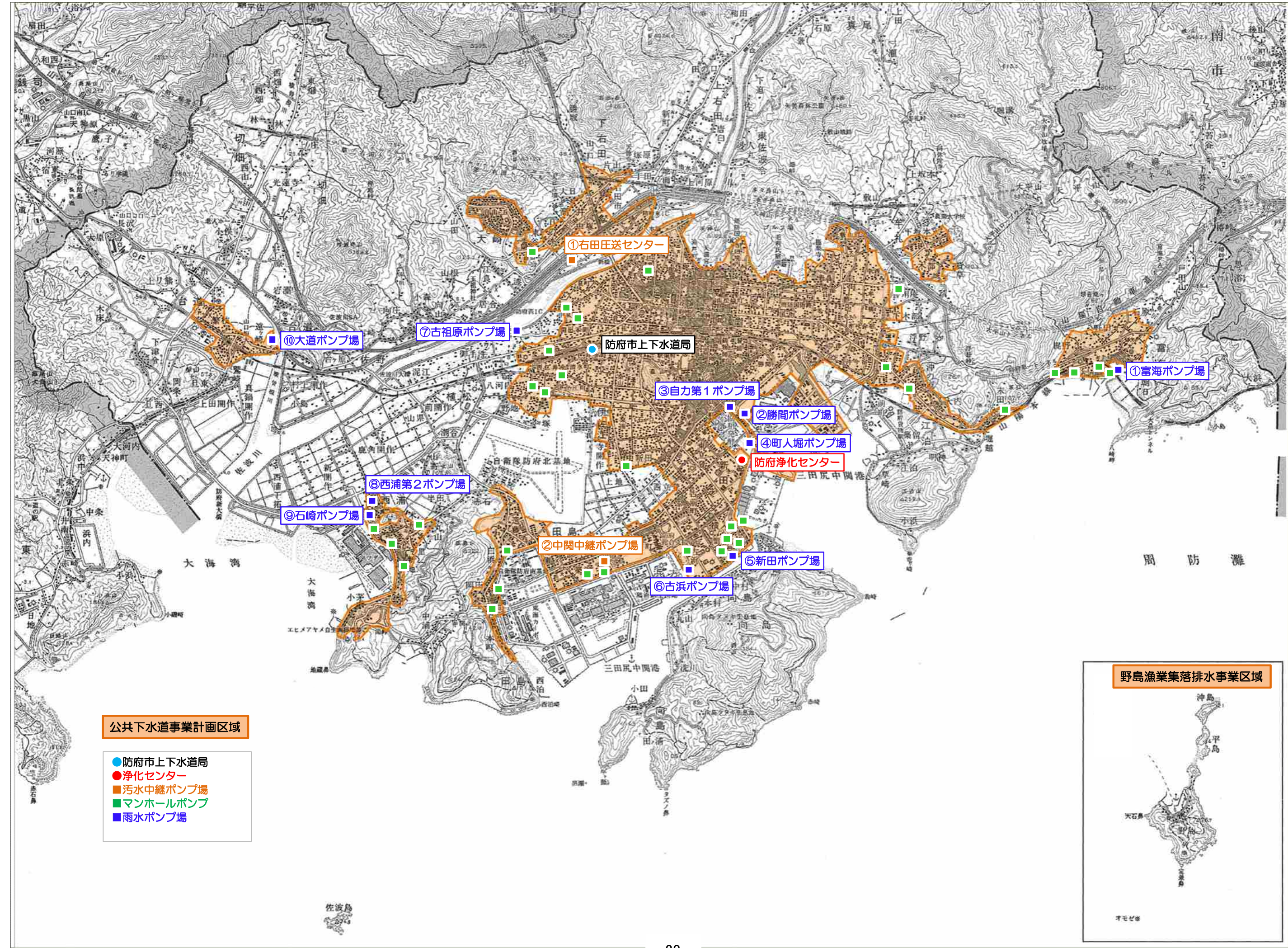
2 起償償還額が減価償却額を超えるときは、当分の間、その差額を一般管理費のその他の欄に記載して差し支えないこと。

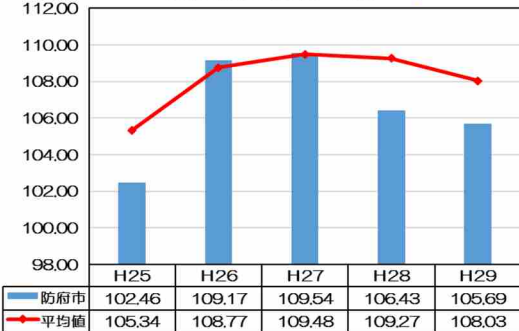
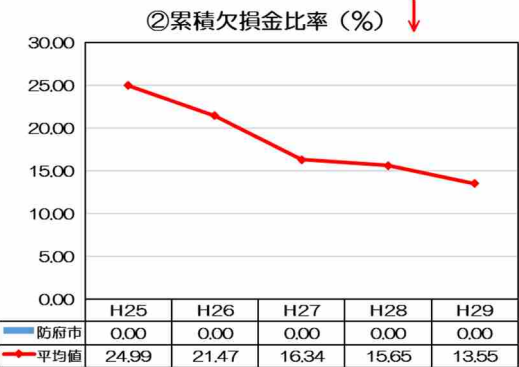
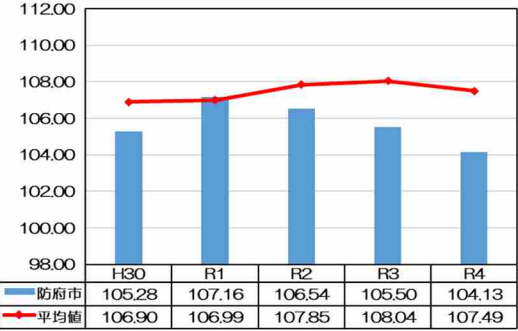
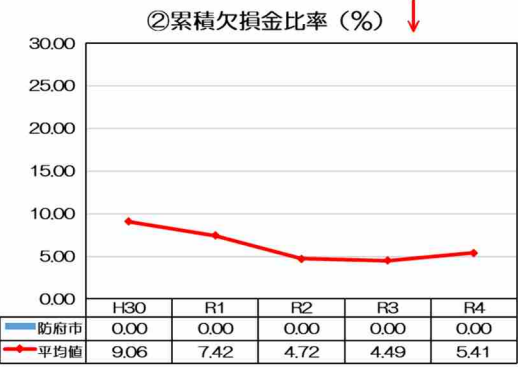
3 資産維持費は、将来の更新需要が新設当時と比較し、施工環境の悪化、高機能化（耐震化等）等により増大することが見込まれる場合に、使用者負担の期間的公平等を確保する観点から、実体資本を維持し、サービスを継続していくために必要な費用（増大分に係るもの）を、適正かつ効率的、効果的な中長期の改築（更新）計画に基づいて算定し、計上するもの。そのため、資産維持費（Z）欄は、「水道料金算定要領」（公益社団法人日本水道協会）を参考に、所有している資産の規模、経営環境等の実情に応じ、料金算定に適切に反映すべき費用を記載すること。

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																																										
51	—	水道事業においては、令和9年度から収益的収支が赤字に転じる見込みであることから、経費の節減に一層努め、経営の健全化を推進します。 また、毎年度財政収支中長期計画を見直すことで、将来推計の精度を向上するとともに、水道料金の改定について、慎重に検討を進めてまいります。 <table><tr><th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th><th>R10</th><th>R11</th></tr><tr><td>財政収支中長期計画の見直し</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>上下水道ビジョンの検証</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>上下水道ビジョンの改定</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>水道料金改定の検討</td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td></td><td></td></tr><tr><td>水道料金の改定</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr></table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	財政収支中長期計画の見直し	●	●	●	●	●	●	上下水道ビジョンの検証	●	●	●	●	●	●	上下水道ビジョンの改定						●	水道料金改定の検討		●	●	●			水道料金の改定					●	
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																						
財政収支中長期計画の見直し	●	●	●	●	●	●																																						
上下水道ビジョンの検証	●	●	●	●	●	●																																						
上下水道ビジョンの改定						●																																						
水道料金改定の検討		●	●	●																																								
水道料金の改定					●																																							
52	<u>4 めざすべき将来像～目標と取組～</u> 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(3) 環境対策の強化 施策② 省エネルギー対策の推進 水道施設の整備や設備の更新に当たっては、引き続き省エネルギー（高効率）機器の導入に努めます。	<u>4 めざすべき将来像～目標と取組～</u> 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(3) 環境対策の強化 施策② 省エネルギー対策の推進 水道施設の整備や設備の更新に当たっては、引き続き省エネルギー（高効率）機器の導入に努め、GX*の推進を図ります。 <table><tr><th>取組内容</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th><th>R10</th><th>R11</th></tr><tr><td>ポンプ改築による 高効率・省エネルギー化 （寿第2水源地 外）</td><td colspan="5"> </td></tr><tr><td>照明器具のLED化 （寿第2水源地 外）</td><td colspan="5"> </td></tr><tr><td>電気料金プランの見直し （人丸水源地 外）</td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	取組内容	R7	R8	R9	R10	R11	ポンプ改築による 高効率・省エネルギー化 （寿第2水源地 外）						照明器具のLED化 （寿第2水源地 外）						電気料金プランの見直し （人丸水源地 外）																							
取組内容	R7	R8	R9	R10	R11																																							
ポンプ改築による 高効率・省エネルギー化 （寿第2水源地 外）																																												
照明器具のLED化 （寿第2水源地 外）																																												
電気料金プランの見直し （人丸水源地 外）																																												

第5章 下水道編

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																												
56	1 下水道事業の概要 (2) 主な下水道施設 【下水道施設の状況】（平成30年度末現在） <table><tr><td>終末処理場</td><td>1 か所</td></tr><tr><td>汚水中継ポンプ場</td><td>2 か所</td></tr><tr><td>マンホールポンプ</td><td>27 か所</td></tr><tr><td>雨水ポンプ場</td><td>10 か所</td></tr><tr><td>汚水管延長</td><td>456,750 m</td></tr><tr><td>雨水管延長</td><td>26,031 m</td></tr><tr><td>合流管延長*</td><td>24,628 m</td></tr></table>	終末処理場	1 か所	汚水中継ポンプ場	2 か所	マンホールポンプ	27 か所	雨水ポンプ場	10 か所	汚水管延長	456,750 m	雨水管延長	26,031 m	合流管延長*	24,628 m	1 下水道事業の概要 (2) 主な下水道施設 【下水道施設の状況】（令和5年度末現在） <table><tr><td>終末処理場</td><td>1 か所</td></tr><tr><td>汚水中継ポンプ場</td><td>2 か所</td></tr><tr><td>マンホールポンプ</td><td>32 か所</td></tr><tr><td>雨水ポンプ場</td><td>10 か所</td></tr><tr><td>汚水管延長</td><td>489,417 m</td></tr><tr><td>雨水管延長</td><td>26,548 m</td></tr><tr><td>合流管延長*</td><td>24,612 m</td></tr></table>	終末処理場	1 か所	汚水中継ポンプ場	2 か所	マンホールポンプ	32 か所	雨水ポンプ場	10 か所	汚水管延長	489,417 m	雨水管延長	26,548 m	合流管延長*	24,612 m
終末処理場	1 か所																													
汚水中継ポンプ場	2 か所																													
マンホールポンプ	27 か所																													
雨水ポンプ場	10 か所																													
汚水管延長	456,750 m																													
雨水管延長	26,031 m																													
合流管延長*	24,628 m																													
終末処理場	1 か所																													
汚水中継ポンプ場	2 か所																													
マンホールポンプ	32 か所																													
雨水ポンプ場	10 か所																													
汚水管延長	489,417 m																													
雨水管延長	26,548 m																													
合流管延長*	24,612 m																													
58	—	1 下水道事業の概要 (3) 漁業集落排水事業 本市の漁業集落排水事業は、野島漁港及び周辺水域の水質保全と、野島地区の公衆衛生の向上を目的に、昭和57年度から野島漁業集落排水処理施設の建設に着手し、昭和61年度に供用開始し、地方公営企業法の全部適用に伴い、令和6年4月1日から事業が上下水道局へ移管されました。 野島地区の人口は、令和5年度末には65人となり、今後も減少していくと予測され、施設の使用料収入は今後も減少傾向が続くと見込まれます。 一方で、施設の老朽化が進んでおり、今後施設運営の委託料や修繕料が増加していくことが見込まれます。 ※当該事業の経営戦略は、10年間（令和3年度～令和12年度）を計画期間として、令和2年度に策定しています。 【漁業集落排水事業の概要】（令和5年度末現在） <table><tr><td>供用開始年月日</td><td>昭和61年4月1日</td></tr><tr><td>処理区域内人口（A）</td><td>65 人</td></tr><tr><td>水洗化人口*（B）</td><td>65 人</td></tr><tr><td>区域内水洗化率（B／A）</td><td>100 %</td></tr><tr><td>年間総処理水量</td><td>40,046 m³</td></tr><tr><td>年間有収水量</td><td>5,947 m³</td></tr><tr><td>処理方法</td><td>回転円盤接触法*</td></tr></table> 【漁業集落排水事業用施設の状況】（令和5年度末現在） <table><tr><td>汚水管延長</td><td>3,124.8 m</td></tr></table> 公共下水道事業計画区域、野島漁業集落排水事業区域及び下水道施設概要（資料5参照）	供用開始年月日	昭和61年4月1日	処理区域内人口（A）	65 人	水洗化人口*（B）	65 人	区域内水洗化率（B／A）	100 %	年間総処理水量	40,046 m³	年間有収水量	5,947 m³	処理方法	回転円盤接触法*	汚水管延長	3,124.8 m												
供用開始年月日	昭和61年4月1日																													
処理区域内人口（A）	65 人																													
水洗化人口*（B）	65 人																													
区域内水洗化率（B／A）	100 %																													
年間総処理水量	40,046 m³																													
年間有収水量	5,947 m³																													
処理方法	回転円盤接触法*																													
汚水管延長	3,124.8 m																													



ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
72	2 下水道事業の現況と課題 (3) 経営の状況 オ 経営指標分析 下水道事業の経営状況を、経営指標により類似団体及び全国平均と比較し、分析しました。 なお、使用した経営指標は、総務省が公表している、平成29年度決算における経営比較分析表に基づいています。類似団体とは、処理区域内人口区分3万人以上、処理区域内人口密度別区分50人/ha未満、供用開始後年数別区分30年以上の都市です。 ※図中の ↑ は高い数値であることが望ましい指標、↓ は低い数値が望ましい指標を示しています。  グラフ凡例 防府市 — 平均値（類似団体） 【 】 平成29年度全国平均値 I 経営の健全性・効率性 ①経常収支比率（%） ↑  ②累積欠損比率（%） ↓  （経常収益÷経常費用）×100 経常収支比率（%）とは、使用料収入や一般会計からの繰入金などの収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標です。 【分析】 経常収支比率は、一般会計繰出金の算出方法変更による収入の減及び減価償却費*の増加による支出の増により減少しているが、100%以上を維持しています。 （当年度末処理欠損金÷（営業収益－受託工事収益））×100 累積欠損金*比率（%）とは、営業収益に対する累積欠損金*の状況を表す指標です。 【分析】 累積欠損金*はなく、累積欠損金*比率は0%となっています。	2 下水道事業の現況と課題 (3) 経営の状況 オ 経営指標分析 下水道事業の経営状況を、経営指標により類似団体及び全国平均と比較し、分析しました。 なお、使用した経営指標は、総務省が公表している、令和4年度決算における経営比較分析表に基づいています。類似団体とは、処理区域内人口区分3万人以上、処理区域内人口密度別区分50人/ha未満、供用開始後年数別区分30年以上の都市です。 ※図中の ↑ は高い数値であることが望ましい指標、↓ は低い数値が望ましい指標を示しています。  グラフ凡例 防府市 — 平均値（類似団体） 【 】 令和4年度全国平均値 I 経営の健全性・効率性 ①経常収支比率（%） ↑  ②累積欠損比率（%） ↓  【分析】 経常収支比率は、収益の減少や費用の増加により、令和2年度から数値が下降しており、経営の改善が必要となったことから、令和7年1月に下水道使用料を改定しました。 【分析】 累積欠損金*はなく、累積欠損金*比率は0%となっています。

ページ

見 直 し 前

見 直 し 後

73

③流動比率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	213.41	85.83	94.21	94.37	108.14
平均値	316.92	79.24	78.93	77.94	78.45

全国平均値【66.41】

(流動資産*÷流動負債*)×100
流動比率(%)とは、短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。

【分析】
流動比率は、平成26年度の会計制度の見直しに伴い、固定負債に計上していた償還期限が1年以内の企業債*償還金を流動負債*に計上したことにより、流動負債*が増加したため100%を下回る水準まで低下しています。平成29年度は未収金の増加及び未払金の減少に伴い100%を超えています。

④企業債残高対事業規模比率 (%) ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	801.60	702.87	665.06	814.55	1,023.59
平均値	885.97	854.16	848.31	774.99	799.41

全国平均値【707.33】

((企業債*現在高合計-一般会計負担額)÷(営業収益-受託工事収益-雨水処理負担金))×100
企業債*残高対事業規模比率(%)とは、使用料収入に対する企業債*残高の割合であり、企業債*残高の規模を表す指標です。

【分析】
企業債*残高対事業規模比率は、起債対象事業費及び起債借入額の増により企業債*残高が毎年数億円ずつ増加しているため、類似団体の水準を大幅に超えており、使用料収入に見合わない規模の事業を行っていることを示しています。

⑤経費回収率 (%) ↑

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	104.74	122.67	124.03	115.55	100.00
平均値	89.94	93.13	94.38	96.57	96.54

全国平均値【101.26】

(下水道使用料÷汚水処理費(公費負担分を除く。))×100
経費回収率(%)とは、使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標です。

【分析】
経費回収率は、一定水準以上を保っており、健全な経営を行っています。

③流動比率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	110.37	103.47	118.71	99.37	113.92
平均値	76.31	68.18	67.93	68.53	69.18

全国平均値【73.44】

【分析】
流動比率は、平均値と比較して高い水準となっており、今後も100%前後で推移していくものと思われます。

④企業債残高対事業規模比率 (%) ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	1,023.49	1,104.28	1,044.69	1,018.22	970.50
平均値	820.36	847.44	857.88	825.10	789.87

全国平均値【652.82】

【分析】
企業債*残高対事業規模比率は、平均値と比較して高い数値となっており、企業債*の借入を抑制していく必要があります。

⑤経費回収率 (%) ↑

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
平均値	95.40	94.69	94.97	97.07	98.06

全国平均値【97.61】

【分析】
経費回収率は、100%で推移しており、汚水処理に係る費用を使用料収入で賄えています。

74

⑥汚水処理原価 (円) ↓

	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	148.72	126.91	125.47	134.59	155.53
平均値	168.57	167.97	165.45	161.54	162.81

全国平均値【136.39】

(汚水処理費(公費負担分を除く。))÷年間有収水量
汚水処理原価(円)とは、有収水量*1m³当たりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費、汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標です。

【分析】
汚水処理原価は、平成26年度以降は地方公営企業における会計制度の見直しに伴い、資本費の算出方法が一部変更された影響もあり低下しています。

⑥汚水処理原価 (円) ↓

	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	155.76	155.78	154.93	154.81	154.52
平均値	163.20	159.78	159.49	157.81	157.37

全国平均値【138.29】

【分析】
汚水処理原価は、類似団体と同様に全国平均値を上回る水準となっています。

74

⑦施設利用率 (%) ↑

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	64.88	64.68	60.95	61.31	55.73
平均値	64.12	64.87	65.62	64.67	64.96

全国平均値【60.13】

（晴天時一日平均処理水量÷晴天時現在処理能力）×100

施設利用率（%）とは、施設、設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。

【分析】

平成29年度の施設利用率は、年間総処理水量の減に伴い、晴天時一日平均処理水量が減少したため、前年度より下降しました。

⑧水洗化率 (%) ↑

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	88.89	89.36	89.78	90.21	89.95
平均値	90.91	91.11	91.44	91.76	92.30

全国平均値【95.06】

（現在水洗便所設置済人口÷現在処理区域内人口）×100

水洗化率（%）とは、現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標です。

【分析】

水洗化率は、水洗便所設置済人口は増加しているが、処理区域内人口も増加しているため微増となっています。

⑦施設利用率 (%) ↑

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	59.54	64.23	64.96	63.95	62.22
平均値	65.04	68.31	65.28	64.92	64.14

全国平均値【59.10】

【分析】

施設利用率は、類似団体の平均値を下回って、令和2年度から減少しています。

⑧水洗化率 (%) ↑

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	90.15	91.09	91.79	92.15	92.84
平均値	92.55	92.62	92.72	92.88	92.90

全国平均値【95.82】

【分析】

水洗化率は、増加傾向を示しており、類似団体の平均値とおおむね同数値となっています。

今後も水質保全の観点や使用料収入の増収を図る上でも、下水道への接続を向上させる更なる取組が必要です。

75

Ⅱ 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率 (%) ↓

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	5.59	10.29	12.53	14.85	17.07
平均値	12.90	25.52	25.89	26.63	25.61

全国平均値【38.13】

（有形固定資産減価償却累計額÷有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価）×100

有形固定資産減価償却率（%）とは、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。

【分析】

有形固定資産減価償却率は、本市は固定資産台帳上の取得価額を、企業会計導入時の帳簿価額とし、企業会計導入時までの減価償却累計額を計上していないため平均値より低い水準になっていることが要因の一つに考えられます。実際には比率に表れているより老朽化が進んでいます。

②管渠老朽化率 (%) ↓

年度	H25	H26	H27	H28	H29
防府市	0.80	1.46	1.85	1.90	2.05
平均値	0.71	0.76	0.71	0.95	1.07

全国平均値【5.37】

（法定耐用年数*を経過した管渠*延長÷下水道布設延長）×100

管渠*老朽化率（%）とは、法定耐用年数*を超えた管渠*延長の割合を表した指標です。

【分析】

管渠*老朽化率は、平成26年度以降は耐用年数を超えた管渠*が多いため特に高い水準となっています。

①有形固定資産減価償却率 (%) ↓

年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	18.61	20.48	22.74	25.17	27.50
平均値	26.13	26.36	23.79	25.66	27.46

全国平均値【39.74】

【分析】

有形固定資産減価償却率は、平均値と比較すると低い水準となっていました。償却対象資産の減価償却が進んでおり、今後は類似団体と同程度の数値で推移していくものと考えられます。

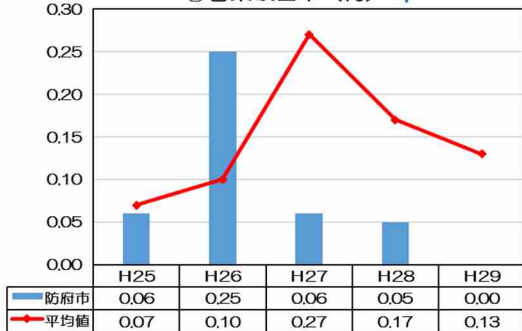
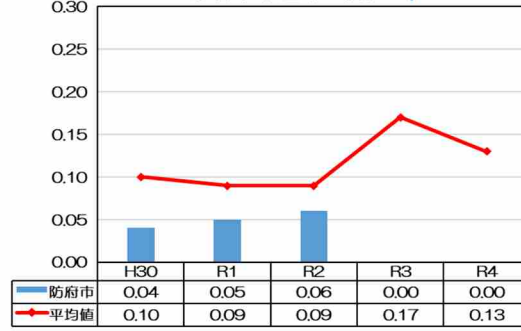
②管渠老朽化率 (%) ↓

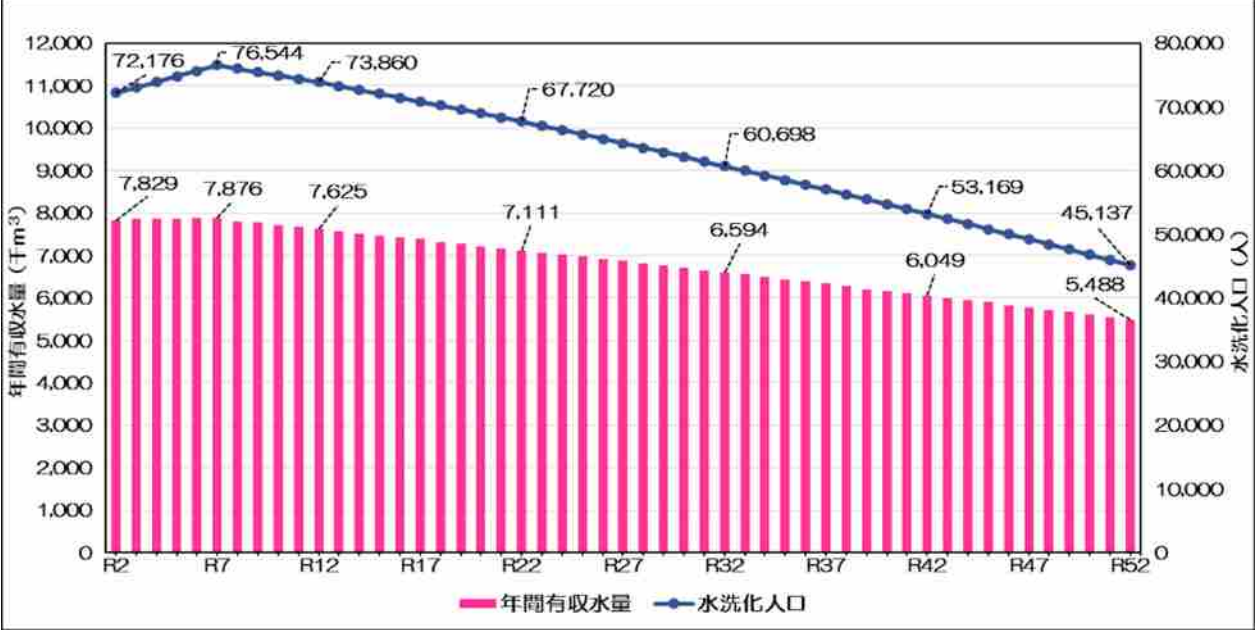
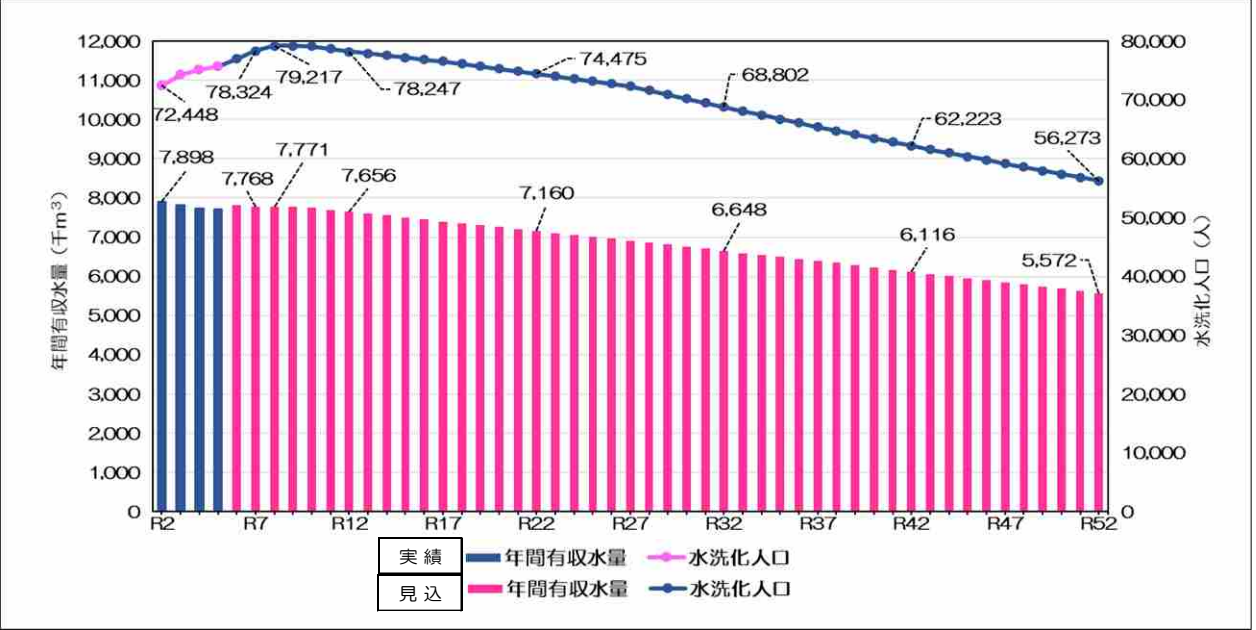
年度	H30	R1	R2	R3	R4
防府市	2.17	2.21	2.40	2.63	2.86
平均値	1.03	1.43	1.22	1.61	2.08

全国平均値【7.62】

【分析】

管渠*老朽化率は、類似団体の平均値を上回っており、今後も遡増していく見込みです。

ページ	見 直 し 前		見 直 し 後																																			
75	③管渠改善率（％）↑ <table><thead><tr><th></th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th></tr></thead><tbody><tr><td>防府市</td><td>0.06</td><td>0.25</td><td>0.06</td><td>0.05</td><td>0.00</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.07</td><td>0.10</td><td>0.27</td><td>0.17</td><td>0.13</td></tr></tbody></table> 全国平均値【0.23】 （改善(更新、改良、維持)管渠*延長÷下水道布設延長）×100 管渠*改善率（％）とは、当該年度に更新した管渠*延長の割合を表した指標です。 【分析】 管渠*改善率は、長寿命化計画*策定後の平成26年度は改善率が大きく平均を上回る水準にはなりましたが、その後は、財源の確保が困難なため、再び低い水準となっています。		H25	H26	H27	H28	H29	防府市	0.06	0.25	0.06	0.05	0.00	平均値	0.07	0.10	0.27	0.17	0.13	③管渠改善率（％）↑ <table><thead><tr><th></th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr></thead><tbody><tr><td>防府市</td><td>0.04</td><td>0.05</td><td>0.06</td><td>0.00</td><td>0.00</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.10</td><td>0.09</td><td>0.09</td><td>0.17</td><td>0.13</td></tr></tbody></table> 全国平均値【0.23】 【分析】 令和3・4年度は改築工事を実施していないため、管渠*改善率は0%を示しています。今後、管渠*の老朽化に伴い、適正に管渠*の改築（更新）を実施していく必要があります。		H30	R1	R2	R3	R4	防府市	0.04	0.05	0.06	0.00	0.00	平均値	0.10	0.09	0.09	0.17	0.13
	H25	H26	H27	H28	H29																																	
防府市	0.06	0.25	0.06	0.05	0.00																																	
平均値	0.07	0.10	0.27	0.17	0.13																																	
	H30	R1	R2	R3	R4																																	
防府市	0.04	0.05	0.06	0.00	0.00																																	
平均値	0.10	0.09	0.09	0.17	0.13																																	
76	本市の公共下水道事業は、市街化区域*内の整備を目標に処理区域を拡大しており、それに伴う下水道使用料の増加や一般会計からの繰入れなどにより収支の均衡を保った経営を行ってきました。 しかし、処理区域拡大のための管渠*の布設、施設の老朽化対策及び耐震化対策に伴う費用の増大と企業債*借入額の増加が著しく、現在の使用料収入では事業が厳しい規模となっていることが指標として表れており、企業債*償還金が将来にわたって大きな負担になると予測されます。また、人口減少や節水機器の普及などにより、処理区域が拡大している現在でも下水道使用料収入が微増程度となっており、使用料の段階的な見直し（使用料改定）が避けられない状況です。 従来のような公共投資的発想のみによる事業運営ではなく、費用対効果も重要な基準として取り入れた上での効果的な投資*、効率的な経営が求められています。		本市の公共下水道事業は、市街化区域*内の整備を目標に処理区域を拡大しており、それに伴う下水道使用料の増加や一般会計からの繰入れなどにより収支の均衡を保った経営を行ってきました。 しかし、処理区域拡大のための管渠*の布設、施設の老朽化対策及び耐震化対策に伴う費用の増大と企業債*借入額の増加が著しく、<u>これまでの使用料収入では事業経営が厳しい状況となっていることが指標として表れており、企業債*償還金が将来にわたって大きな負担になると予測されました。また、人口減少や節水機器の普及などにより、処理区域を拡大しているにも関わらず、令和2年度をピークに使用料収入が減少に転じており、今後も継続した増加が見込めないことから、令和7年1月に使用料を改定しました。</u> <u>今後も、従来のような公共投資的発想のみによる事業運営ではなく、費用対効果も重要な基準として取り入れた上での効果的な投資*、効率的な経営が求められています。</u>																																			

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																																																																								
78	3 投資*・財政計画 (1) 水洗化人口*・有収水量*の将来見通し 水洗化人口*は、人口が減少する中、下水道処理区域の拡大により近年微増傾向で推移しています。 今後は、市街化区域*内の整備完了までは、事業拡大に伴い水洗化人口*は少しずつ増加し、人口減少に伴い令和7年度の76,544人をピークに、その後は緩やかに減少し、50年後の令和52年度には45,137人（令和7年度比 約41.0%減少）まで減少する見込みです。 有収水量*は、令和7年度の年間約788万m³をピークに、その後は水洗化人口*の減少に伴い減少し、令和52年度には約549万m³（令和7年度比約30.3%減少）まで減少する見込みです。 【水洗化人口*・年間有収水量の見通し（令和2年度～令和52年度）】  <table border="1"><caption>水洗化人口*・年間有収水量の見通し（令和2年度～令和52年度）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>水洗化人口（人）</th><th>年間有収水量（千m³）</th></tr></thead><tbody><tr><td>R2</td><td>72,176</td><td>7,829</td></tr><tr><td>R7</td><td>76,544</td><td>7,876</td></tr><tr><td>R12</td><td>73,860</td><td>7,625</td></tr><tr><td>R17</td><td>67,720</td><td>7,111</td></tr><tr><td>R22</td><td>60,698</td><td>6,594</td></tr><tr><td>R27</td><td>53,169</td><td>6,049</td></tr><tr><td>R32</td><td>45,137</td><td>5,488</td></tr><tr><td>R37</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R42</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R47</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R52</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	年度	水洗化人口（人）	年間有収水量（千m ³ ）	R2	72,176	7,829	R7	76,544	7,876	R12	73,860	7,625	R17	67,720	7,111	R22	60,698	6,594	R27	53,169	6,049	R32	45,137	5,488	R37			R42			R47			R52			3 投資*・財政計画 (1) 水洗化人口*・有収水量*の将来見通し 水洗化人口*は、人口が減少する中、下水道処理区域の拡大により近年微増傾向で推移しています。 当面、市街化区域*内の整備完了までは、事業拡大に伴い水洗化人口*は少しずつ増加するものの、人口減少に伴い令和8年度の79,217人をピークに、その後は減少に転じ、50年後の令和52年度には56,273人（令和8年度比約29.0%減少）まで減少すると見込んでいます。 有収水量*は、水洗化人口*の減少に伴い減少し、令和52年度には約557万m³（令和8年度比約28.3%減少）まで減少する見込みです。 【水洗化人口*・年間有収水量の見通し（令和2年度～令和52年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度）  <table border="1"><caption>水洗化人口*・年間有収水量の見通し（令和2年度～令和52年度）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>水洗化人口（人）</th><th>年間有収水量（千m³）</th></tr></thead><tbody><tr><td>R2</td><td>72,448</td><td>7,898</td></tr><tr><td>R7</td><td>78,324</td><td>7,768</td></tr><tr><td>R12</td><td>79,217</td><td>7,771</td></tr><tr><td>R17</td><td>78,247</td><td>7,656</td></tr><tr><td>R22</td><td>74,475</td><td>7,160</td></tr><tr><td>R27</td><td>68,802</td><td>6,648</td></tr><tr><td>R32</td><td>62,223</td><td>6,116</td></tr><tr><td>R37</td><td>56,273</td><td>5,572</td></tr><tr><td>R42</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R47</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R52</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	年度	水洗化人口（人）	年間有収水量（千m ³ ）	R2	72,448	7,898	R7	78,324	7,768	R12	79,217	7,771	R17	78,247	7,656	R22	74,475	7,160	R27	68,802	6,648	R32	62,223	6,116	R37	56,273	5,572	R42			R47			R52		
年度	水洗化人口（人）	年間有収水量（千m ³ ）																																																																								
R2	72,176	7,829																																																																								
R7	76,544	7,876																																																																								
R12	73,860	7,625																																																																								
R17	67,720	7,111																																																																								
R22	60,698	6,594																																																																								
R27	53,169	6,049																																																																								
R32	45,137	5,488																																																																								
R37																																																																										
R42																																																																										
R47																																																																										
R52																																																																										
年度	水洗化人口（人）	年間有収水量（千m ³ ）																																																																								
R2	72,448	7,898																																																																								
R7	78,324	7,768																																																																								
R12	79,217	7,771																																																																								
R17	78,247	7,656																																																																								
R22	74,475	7,160																																																																								
R27	68,802	6,648																																																																								
R32	62,223	6,116																																																																								
R37	56,273	5,572																																																																								
R42																																																																										
R47																																																																										
R52																																																																										
79・80	3 投資*・財政計画 (3) 財源試算 ・下水道使用料収入について 現行の使用料体系・水準の維持を前提に、50年先までの財政シミュレーションをすると、令和3年度には損益がマイナスに転じ、その後はマイナスが続く結果となりました。近年のうちに使用料改定を行うとともに、数年おきに必要最低限の改定を実施する必要があると見込まれます。	3 投資*・財政計画 (3) 財源試算 ・下水道使用料収入について 令和7年1月1日に使用料を改定しました（平均改定率19.6%）。 この度の改定における算定期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間であり、その後も数年おきに必要最低限の改定を実施する必要があると見込んでいます。																																																																								

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
80	・一般会計繰入金* 一般会計繰入金*は対象となる経費（維持管理費、減価償却費*、企業債利息等）に比例して増減します。財政シミュレーション上では毎年約10億円で推移しています。 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和11年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度）	・一般会計繰入金* 一般会計繰入金*は対象となる経費（維持管理費、減価償却費*、企業債利息等）に比例して増減します。財政シミュレーション上では毎年約10億円で推移しています。 【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和11年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度）
	【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和52年度）】	【収益的収支*・当年度純損益の見通し（令和2年度～令和52年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度）

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																																																																																								
81	・企業債* 企業債*は、下水道整備区域の拡大、施設の老朽化対策及び耐震化対策事業に伴い、企業債*の単年度における借入額が償還額より多くなり、企業債*残高は令和5年度まで増加しますが、令和6年度以降減少する見込みです。 【企業債*残高の見通し（令和2年度～令和11年度）】 <table><tr><th>年度</th><th>企業債借入額</th><th>企業債償還額</th><th>未償還残高</th></tr><tr><td>R2</td><td>1,708</td><td>1,188</td><td>27,475</td></tr><tr><td>R3</td><td>1,608</td><td>1,218</td><td>27,865</td></tr><tr><td>R4</td><td>1,556</td><td>1,278</td><td>28,143</td></tr><tr><td>R5</td><td>1,450</td><td>1,311</td><td>28,282</td></tr><tr><td>R6</td><td>1,123</td><td>1,300</td><td>28,105</td></tr><tr><td>R7</td><td>1,037</td><td>1,334</td><td>27,808</td></tr><tr><td>R8</td><td>923</td><td>1,437</td><td>27,294</td></tr><tr><td>R9</td><td>1,307</td><td>1,438</td><td>27,163</td></tr><tr><td>R10</td><td>1,414</td><td>1,475</td><td>27,102</td></tr><tr><td>R11</td><td>1,414</td><td>1,512</td><td>27,004</td></tr></table>	年度	企業債借入額	企業債償還額	未償還残高	R2	1,708	1,188	27,475	R3	1,608	1,218	27,865	R4	1,556	1,278	28,143	R5	1,450	1,311	28,282	R6	1,123	1,300	28,105	R7	1,037	1,334	27,808	R8	923	1,437	27,294	R9	1,307	1,438	27,163	R10	1,414	1,475	27,102	R11	1,414	1,512	27,004	・企業債* 企業債*の借入額は、下水道整備区域拡大後は污水事業に係る企業債*の借入額は減少していく見込みです。なお、雨水事業については、雨水管理総合計画に基づいて浸水*対策のための施設整備を進める予定であることから、企業債*残高は再び増加する見込みです。 【企業債*残高の見通し（令和2年度～令和11年度）】 ※実績値（令和2年度～令和5年度） <table><tr><th>年度</th><th>企業債借入額</th><th>企業債償還額</th><th>未償還残高</th></tr><tr><td>R2</td><td>1,058</td><td>1,188</td><td>25,227</td></tr><tr><td>R3</td><td>791</td><td>1,218</td><td>24,800</td></tr><tr><td>R4</td><td>1,002</td><td>1,278</td><td>24,523</td></tr><tr><td>R5</td><td>912</td><td>1,311</td><td>24,125</td></tr><tr><td>R6</td><td>2,134</td><td>1,354</td><td>24,905</td></tr><tr><td>R7</td><td>1,602</td><td>1,380</td><td>25,128</td></tr><tr><td>R8</td><td>1,228</td><td>1,401</td><td>24,954</td></tr><tr><td>R9</td><td>1,197</td><td>1,368</td><td>24,783</td></tr><tr><td>R10</td><td>1,869</td><td>1,395</td><td>25,256</td></tr><tr><td>R11</td><td>1,998</td><td>1,409</td><td>25,846</td></tr></table>	年度	企業債借入額	企業債償還額	未償還残高	R2	1,058	1,188	25,227	R3	791	1,218	24,800	R4	1,002	1,278	24,523	R5	912	1,311	24,125	R6	2,134	1,354	24,905	R7	1,602	1,380	25,128	R8	1,228	1,401	24,954	R9	1,197	1,368	24,783	R10	1,869	1,395	25,256	R11	1,998	1,409	25,846
年度	企業債借入額	企業債償還額	未償還残高																																																																																							
R2	1,708	1,188	27,475																																																																																							
R3	1,608	1,218	27,865																																																																																							
R4	1,556	1,278	28,143																																																																																							
R5	1,450	1,311	28,282																																																																																							
R6	1,123	1,300	28,105																																																																																							
R7	1,037	1,334	27,808																																																																																							
R8	923	1,437	27,294																																																																																							
R9	1,307	1,438	27,163																																																																																							
R10	1,414	1,475	27,102																																																																																							
R11	1,414	1,512	27,004																																																																																							
年度	企業債借入額	企業債償還額	未償還残高																																																																																							
R2	1,058	1,188	25,227																																																																																							
R3	791	1,218	24,800																																																																																							
R4	1,002	1,278	24,523																																																																																							
R5	912	1,311	24,125																																																																																							
R6	2,134	1,354	24,905																																																																																							
R7	1,602	1,380	25,128																																																																																							
R8	1,228	1,401	24,954																																																																																							
R9	1,197	1,368	24,783																																																																																							
R10	1,869	1,395	25,256																																																																																							
R11	1,998	1,409	25,846																																																																																							
82・83	公共下水道事業会計財政収支中長期計画	公共下水道事業会計財政収支中長期計画（資料6参照）																																																																																								

公共下水道事業会計
財政収支中長期計画

資料6

収益の収支(税抜)

(単位：千円)

科目		年 度	令和元年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（決算）	令和5年度（決算）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収入	営業 収益	下水道使用料	1,211,108	1,223,615	1,210,767	1,193,428	1,191,749	1,174,860	1,402,700	1,403,287	1,403,287	1,400,759	1,390,466
		一般会計負担金	304,422	306,113	310,025	271,032	301,541	303,135	307,584	299,987	297,086	302,455	366,671
		受託事業収益	10,291	9,578	10,025	9,194	16,635	11,502	12,411	12,436	12,461	12,486	12,511
		その他	801	1,111	403	811	598	181	157	157	157	157	157
	営業外 収益	一般会計補助金	670,105	681,024	673,817	671,441	668,550	674,150	684,324	695,546	724,876	726,563	737,493
		長期前受金戻入	740,085	757,330	760,506	755,858	761,763	763,404	770,853	809,735	828,906	830,594	871,842
		＜汚水分＞	606,872	623,816	629,718	633,374	631,836	630,517	668,517	677,044	697,654	691,750	708,640
		＜雨水分＞	133,213	133,514	130,788	122,484	129,927	132,887	133,204	132,691	131,252	138,844	163,202
		その他	2,099	13,392	1,655	4,787	2,539	51,311	1,733	1,733	1,733	1,733	1,733
計		2,938,911	2,992,163	2,967,198	2,906,551	2,943,375	2,978,543	3,179,762	3,222,881	3,268,506	3,274,747	3,380,873	
支出	営業 費用	人件費	74,256	100,441	108,234	109,809	114,834	142,765	151,671	154,704	169,647	173,040	174,770
		維持管理費	540,759	536,941	548,346	543,548	591,549	742,706	739,897	741,491	746,777	752,754	898,829
		受託事業費	10,273	9,567	10,011	9,175	17,066	11,473	12,382	12,407	12,432	12,457	12,482
		減価償却費	1,681,629	1,764,385	1,781,867	1,784,048	1,794,447	1,797,429	1,821,552	1,898,346	1,949,446	1,948,664	2,029,137
		＜汚水分＞	1,418,323	1,493,579	1,514,680	1,532,132	1,527,946	1,526,155	1,550,478	1,629,268	1,684,219	1,670,448	1,705,327
		＜雨水分＞	263,306	270,806	267,187	251,916	266,501	271,274	271,074	269,078	265,227	278,216	323,810
		資産減耗費	37,613	18,548	5,860	6,314	11,717	16,955	17,974	7,964	7,964	7,964	7,964
		その他（児童手当等）	2,070	2,770	2,920	3,130	2,515	2,710	4,130	2,515	2,515	2,515	2,515
	営業外 費用	企業債利息等	395,572	373,806	354,574	335,025	323,562	312,416	313,273	316,079	330,788	339,868	348,613
		＜汚水分＞	361,153	343,083	326,506	309,974	299,620	293,037	294,624	298,620	313,818	322,925	317,957
		＜雨水分＞	34,419	30,723	28,068	25,051	22,045	19,379	18,649	17,459	16,970	16,943	30,656
		一時借入金利息	13	1	0	0	0	4	800	800	800	800	800
		その他（雑支出外）	324	1,917	636	187	840	14,287	13,152	10,840	10,840	10,840	10,840
	特別損失		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		2,742,509	2,808,376	2,812,448	2,791,236	2,856,530	3,040,745	3,074,831	3,145,146	3,231,209	3,248,902	3,485,950
当年度純利益		196,402	183,787	154,750	115,315	86,845	-62,202	104,931	77,735	37,297	25,845	-105,077	
その他未処分利益剰余金変動額（自己資本組入）		156,546	141,686	196,402	183,787	154,750	115,315	86,845	0	42,729	77,735	37,297	
利益剰余金処分額（減債積立金）		141,686	196,402	183,787	154,750	115,315	86,845	0	42,729	77,735	37,297	25,845	
繰越利益剰余金		0	0	0	0	0	-62,202	0	0	0	0	-105,077	

資本的収支（税込）

科目		年 度	令和元年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（決算）	令和5年度（決算）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収入	企業債		1,444,500	1,057,800	791,300	1,001,500	912,300	2,133,675	1,602,120	1,228,000	1,197,000	1,869,000	1,998,000
	補助金		994,690	584,831	485,530	621,869	603,510	703,137	791,030	776,925	816,597	1,235,175	1,349,675
	出資金		53,136	50,433	51,533	52,660	49,470	46,056	46,885	47,764	44,762	38,179	32,835
	受益者負担金及び分担金		74,724	79,413	65,725	117,004	44,908	66,935	69,007	80,400	48,890	47,243	35,465
	その他（工事負担金外）		0	0	0	243	0	32,000	0	0	0	0	0
	計		2,567,050	1,772,477	1,394,088	1,793,276	1,610,188	2,981,803	2,509,042	2,133,089	2,107,249	3,189,597	3,415,975
支出	翌年度繰越財源		249,650	380,300	214,593	411,135	152,223	0	0	0	0	0	0
	建設改良費		2,804,746	1,616,276	1,672,724	1,493,612	1,965,431	3,162,419	2,594,012	2,091,107	2,087,984	3,178,386	3,422,327
	＜汚水事業＞		2,772,360	1,356,254	1,614,632	1,461,878	1,899,595	3,031,679	2,383,877	1,980,818	811,466	2,019,967	1,632,776
	＜雨水事業＞		32,386	260,022	58,092	31,734	65,836	130,740	210,135	110,289	1,276,518	1,158,419	1,789,551
	企業債等償還金		1,132,767	1,187,652	1,217,769	1,278,213	1,310,809	1,353,580	1,379,570	1,401,485	1,368,478	1,395,226	1,408,826
	＜汚水分＞		1,021,686	1,068,507	1,092,653	1,148,382	1,181,340	1,236,764	1,270,739	1,298,036	1,280,569	1,309,776	1,323,476
	＜雨水分＞		111,081	119,145	125,116	129,831	129,469	116,816	108,831	103,449	87,909	85,450	85,350
	その他（営業設備費外）		6,897	9,127	12,300	15,189	2,750	15,787	37,305	12,750	12,750	12,750	12,750
	計		3,944,410	2,813,055	2,902,793	2,787,014	3,278,990	4,531,786	4,010,887	3,505,342	3,469,212	4,586,362	4,843,903
差 引			-1,627,010	-1,420,878	-1,723,298	-1,404,873	-1,821,025	-1,549,983	-1,501,845	-1,372,253	-1,361,963	-1,396,765	-1,427,928
補てん財源	損益勘定留保資金		836,191	904,822	1,071,922	973,432	1,187,795	1,250,630	1,376,513	1,203,727	1,129,398	1,195,563	1,141,134
	引継金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減債積立金		141,686	196,402	183,787	154,750	115,315	86,845	0	42,729	77,735	37,297	25,845
	繰越工事資金		532,600	249,650	380,300	214,593	411,135	152,223	0	0	0	0	0
	利益剰余金処分額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消費税等資本的収支調整額		116,533	70,004	87,289	62,098	106,780	60,285	125,332	125,797	154,830	163,905	175,672
	計		1,627,010	1,420,878	1,723,298	1,404,873	1,821,025	1,549,983	1,501,845	1,372,253	1,361,963	1,396,765	1,342,651
補てん財源不足額			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-85,277
企業債残高			25,356,532	25,226,680	24,800,211	24,523,498	24,124,989	24,905,084	25,127,634	24,954,149	24,782,671	25,256,445	25,845,619

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後
87	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針2 強靱で頼れる上下水道 基本目標(1) 施設の耐震化の推進 施策② 下水道施設の耐震化 管渠*の耐震化 管渠*の耐震化については、平成10年度以降に埋設した管渠*は、国の耐震指針を受け、耐震構造管により整備していますが、平成9年度以前の管渠*は、平成24年度策定の長寿命化計画*に基づいた老朽管の改築更新に合わせて耐震化事業を実施しています。今後は、ストックマネジメント計画*に基づいた老朽管の改築更新に合わせて耐震化事業を推進します。	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針2 強靱で頼れる上下水道 基本目標(1) 施設の耐震化の推進 施策② 下水道施設の耐震化 管渠*の耐震化 管渠*の耐震化については、平成10年度以降に埋設した管渠*は、国の耐震指針を受け、耐震構造管により整備していますが、平成9年度以前の管渠*は、平成24年度策定の長寿命化計画*に基づいた老朽管の改築更新に合わせて耐震化事業を実施しています。今後は、ストックマネジメント計画*に基づいた老朽管の改築更新に合わせて耐震化事業を推進します。 また、令和6年1月に発生した能登半島地震では、上下水道施設の耐震化の遅れが復旧の長期化の一因として指摘され、上下水道の両機能確保の重要性が再認識されたことから、国からの要請により「浄水*施設や下水処理場等の急所施設」及び「避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等」について、上下水道一体で耐震化を推進するための「上下水道耐震化計画」を令和7年1月に作成しました。今後、この計画に基づいた耐震化対策も進めていきます。
88	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(1) 運営基盤の強化 施策① 経営の健全化 計画区域における整備完了までは、区域整備の進捗に伴い污水处理人口が増加するため、有収水量*及び使用料収入は少しずつ増加しますが、その後は人口減少などを要因として減少していくと見込まれます。 今後、区域整備と並行して、ストックマネジメント計画*に基づく施設の更新を実施する必要があり、投資*額が増加する中で健全な下水道事業の経営を実現するために、これまで以上に経営資源（人、モノ、カネ、情報）を有効活用し、効率的かつ効果的な事業運営を推進します。 【施策① 経営の健全化】の取組 人口が減少する中で、区域整備と並行して施設の更新を実施する必要があるため、これまで以上に経営健全化を推進する。	4 めざすべき将来像～目標と取組～ 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(1) 運営基盤の強化 施策① 経営の健全化 計画区域における整備完了までは、区域整備の進捗に伴い污水处理人口が増加するものの、節水機器の普及などにより有収水量*及び使用料収入は既に減少傾向に転じており、今後も減少傾向が継続すると見込まれます。 使用料改定により財政面が安定しますが、今後、区域整備と並行して、ストックマネジメント計画*に基づく施設の更新を実施する必要があり、投資*額が増加する中で健全な下水道事業の経営を実現するために、これまで以上に経営資源（人、モノ、カネ、情報）を有効活用し、効率的かつ効果的な事業運営を推進します。 【施策① 経営の健全化】の取組 人口が減少する中で、区域整備と並行して施設の更新を実施する必要があるため、これまで以上に経営健全化を推進する。

88

4めざすべき将来像～目標と取組～

基本方針3持続可能な上下水道

基本目標(1)運営基盤の強化

施策②適正な事業水準に応じた料金の検討

汚水私費（使用料）、雨水公費（繰入金）を原則として、総務省の繰出基準に基づき、公共下水道事業の財源として一般会計（税金）からの繰入れを行うとともに、経費の削減などに努めながら、適正な使用料水準について検討し、使用料の段階的な見直し（使用料改定）に取り組んでいきます。

【施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討】の取組

・一般会計（税金）からの繰入れを行うとともに、経費の削減及び使用料の見直しに取り組む。

4めざすべき将来像～目標と取組～

基本方針3持続可能な上下水道

基本目標(1)運営基盤の強化

施策②適正な事業水準に応じた料金の検討

有収水量*及び使用料収入の減少が避けられない状況の中、経費や事業費の増加により財政状況が大変厳しくなったことから、平成11年以来となる使用料改定を令和7年1月1日に実施しました。算定期間を5年としていますので、5年後には再び使用料の見直しに取り組めます。

なお、汚水私費（使用料）、雨水公費（繰入金）を原則として、総務省の繰出基準に基づき、公共下水道事業の財源として一般会計（税金）からの繰入れを行うとともに、経費の削減などに努めながら、適正な使用料水準について検討してまいります。

項 目	現状（R5末）	R9	最終（R11）
経常収支比率	103%	101.2%	97.1%
経費回収率	100%	100%	91.39%

【施策② 適正な事業水準に応じた料金の検討】の取組

・一般会計（税金）からの繰入れを行うとともに、経費の削減及び使用料の見直しに取り組む。

取組内容	平 均改定率	算定期間	改定時期
下水道使用料の改定 (排水処理施設使用料の改定)	19.6%	令和6年4月1日～ 令和11年3月31日	令和7年1月1日

ページ

88

見直し前

—

見直し後

令和7年1月の使用料改定における汚水処理費に対する使用料の原価回収率などを下表のとおり示します。

下水道使用料 原価計算表

供用開始年月日昭 和 53 年 2 月 1 日

処理区域内人口81,136人

計算期間自 令和6年4月 至 令和11年3月
(5年間)

収 入 の 部

項 目		最近 1 箇年間の実績 (令和5年度)	投資・財政計画計上額(A) (令和6～10年度の平均値)	公費負担分(B) (令和6～10年度の平均値)	使用料対象収支 (A)-(B)
使 用 料 (X)		千円 1,191,749	千円 1,366,208	千円	千円 1,366,208
受 託 工 事 収 益		16,635	11,548		11,548
そ の 他 ※ 1		973,228	991,653		991,653
合 計		2,181,612	2,369,409	0	2,369,409

支 出 の 部

項 目		最近 1 箇年間の実績 (令和5年度)	投資・財政計画計上額(A') (令和6～10年度の平均値)	公費負担分(B') (令和6～10年度の平均値)	使用料対象収支 (A')-(B')
維持管理費	管 渠 費	千円 129,817	千円 222,667	千円 12,289	千円 210,378
	ポ ン プ 場 費	10,226	83,281	51,327	31,954
	処 理 場 費	293,677	450,508	67,427	383,081
	業 務 費	54,279	67,939		67,939
	そ の 他	80,067	82,379	17,550	64,829
小 計		568,066	906,774	148,593	758,181
資本費	支 払 利 息	149,662	323,143	189,204	133,939
	減 価 償 却 費 ※ 1	474,021	1,102,562	651,554	451,008
小 計		623,683	1,425,705	840,758	584,947
合 計 (Y)		1,191,749	2,332,479	989,351	1,343,128

※1 長期前受金戻入を除く。

資産維持費(Z) (令和6～10年度の平均値)	千円 57,632
使用料対象経費(Y)+(Z)	1,400,760
(X)÷((Y)+(Z))*100=	% 97.53

<使用料水準についての説明>

算定の結果、使用料対象経費に対する使用料収入の割合は97.53%となりました。
これは、令和6年度の使用料の改定において、改定日が令和7年1月1日であることから100%を下回っています。
財政収支中長期計画では、令和7年度から令和10年度までは黒字を見込んでいることから、収益的収支は収支均衡が保たれる予測となっています。

※原価計算表は、令和4年1月25日付け総務省通知「経営戦略の改定推進について」のひな形様式を参考に作成しました。
各数値は、直近で使用料を算定した令和5年度時点のものです。

1 投資・財政計画計上額（A）欄は、直近の料金算定期間内における平均値を記載すること。

2 起償償還額が減価償却額を超えときは、当分の間、その差額を一般管理費のその他の欄に記載して差し支えないこと。

3 資産維持費は、将来の更新需要が新設当時と比較し、施工環境の悪化、高機能化（耐震化等）等により増大することが見込まれる場合に、使用者負担の期間的公平等を確保する観点から、実体資本を維持し、サービスを継続していくために必要な費用（増大分に係るもの）を、適正かつ効率的、効果的な中長期の改築（更新）計画に基づいて算定し、計上するもの。そのため、資産維持費（Z）欄は、「下水道使用料算定の基本的考え方（2016年度版）」（公益社団法人日本下水道協会）を参考に、所有している資産の規模、経営環境等の実情に応じ、料金算定に適切に反映すべき費用を記載すること。

ページ	見 直 し 前	見 直 し 後																																										
88	—	国土交通省から発出された「下水道事業における収支構造適正化に向けた取組の推進について（国水下企第34号、令和2年7月21日）」に基づき、経費回収率の向上に向けたロードマップを示します。 下水道事業においては、令和7年1月1日から下水道使用料を改定しましたが、今後も収支バランスを注視しながら、下水道使用料水準の適正化に努めます。 そのため、毎年度財政収支中長期計画を見直すとともに本ビジョンの検証及び評価を行い、経営の健全化を一層推進します。 <table><tr><th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th><th>R10</th><th>R11</th></tr><tr><td>財政収支中長期計画の見直し</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>上下水道ビジョンの検証</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>上下水道ビジョンの改定</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><td>下水道使用料改定の検討</td><td></td><td></td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>下水道使用料の改定 （平均改定率）</td><td>● (19.6%)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		R6	R7	R8	R9	R10	R11	財政収支中長期計画の見直し	●	●	●	●	●	●	上下水道ビジョンの検証	●	●	●	●	●	●	上下水道ビジョンの改定						●	下水道使用料改定の検討				●	●	●	下水道使用料の改定 （平均改定率）	● (19.6%)					
	R6	R7	R8	R9	R10	R11																																						
財政収支中長期計画の見直し	●	●	●	●	●	●																																						
上下水道ビジョンの検証	●	●	●	●	●	●																																						
上下水道ビジョンの改定						●																																						
下水道使用料改定の検討				●	●	●																																						
下水道使用料の改定 （平均改定率）	● (19.6%)																																											
90	基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(3) 環境対策の強化 施策② 省エネルギー対策の推進 現在、防府浄化センターなどの改築で省エネルギー（高効率）機器への入替えを段階的に実施しており、引き続き導入します。	基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(3) 環境対策の強化 施策② 省エネルギー対策の推進 現在、防府浄化センターなどの改築で省エネルギー（高効率）機器への入替えを段階的に実施しており、引き続き導入することで、GX*の推進を図ります。																																										

第6章 共通編		
ページ	見直し前	見直し後
102	<u>4 めざすべき将来像～目標と取組～</u> 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(1) 運営基盤の強化 施策⑥ 官民連携の推進 これまで、防府浄化センター及びポンプ場の維持管理業務の包括委託や上下水道局にお客様センターを設置するなど、業務の一部を民間委託してきましたが、更に適正な業務運営の継続やサービスの維持向上を視野に入れ、業務の効率化に向けて官民連携に取り組みます。	<u>4 めざすべき将来像～目標と取組～</u> 基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(1) 運営基盤の強化 施策⑥ 官民連携の推進 これまで、防府浄化センター及びポンプ場の維持管理業務の包括委託や上下水道局にお客様センターを設置するなど、業務の一部を民間委託してきましたが、更に適正な業務運営の継続やサービスの維持向上を視野に入れ、業務の効率化に向けて官民連携に取り組みます。 <u>また、国が推進する「PPP／PFI推進アクションプラン」*の一環として、実情に応じたウォーターPPP*等の手法も検討していきます。</u>
103	基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(2) お客様サービスの向上 施策② インターネット等を利用した情報提供サービス 情報通信技術（ICT）の進展により、他の公共料金などでは、メーターの自動検針対応機器により、随時検針データを取得し、スマートフォンアプリなどを利用して使用量などの情報をお客様へ提供しています。また、インターネットやメールサービスを利用して口座振替・クレジットカード払い利用者への検針のお知らせを通知するペーパーレス化も実施しています。 本市の上下水道事業においても、お客様のニーズを把握しながら、費用対効果を考慮してメーターの自動検針対応機器の設置などの実現に向けて調査研究を進めます。	基本方針3 持続可能な上下水道 基本目標(2) お客様サービスの向上 施策② インターネット等を利用した情報提供サービス 情報通信技術（ICT）の進展により、他の公共料金などでは、メーターの自動検針対応機器により、随時検針データを取得し、スマートフォンアプリなどを利用して使用量などの情報をお客様へ提供しています。また、インターネットやメールサービスを利用して口座振替・クレジットカード払い利用者への検針のお知らせを通知するペーパーレス化も実施しています。 本市の上下水道事業においても、お客様のニーズを把握しながら、費用対効果を考慮してメーターの自動検針対応機器の設置などの<u>実現に向けてDX*の推進を図ります。</u>

防府市の水道・下水道に関するお客様アンケート結果報告

上下水道局では、ご利用者の皆様から水道・下水道事業への評価や要望などをお聞きし、今後の事業運営やサービスに反映させるため、アンケートを実施しました。

このアンケートは、防府市の水道や下水道をご使用いただいている約51,000世帯の中から、無作為に抽出した2,000世帯の皆様にお送りしました。

ご協力くださいましてありがとうございました。

実施概要

調査方法	郵便により発送・回収またはインターネットによる回答
調査対象	防府市の水道や下水道を使用しているお客様
標本数	2,000 件
抽出方法	水道や下水道の使用者から無作為に抽出
調査時期	令和5年9月29日（金）から令和5年10月31日（火）まで

回収結果

標本数	2,000 件
回収数	916 件
回収率	45.8 %

（参考）前回（平成30年度）のアンケートは、標本数2,000件、回収数978件、回収率48.9%で、今回は回収数が62件、回収率が3.1ポイント減少しました。

（注）

・不明確な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無効として集計していますが、回答者の意思の表示が読み取れるものは、できる限り反映して集計しています。

・基本的に集計結果は項目ごとに百分率で小数第2位を四捨五入して表示していますので、合計が100%とならない場合があります。

・選択肢を複数選ぶ質問では合計が100%を超える場合があります。

1 水道について

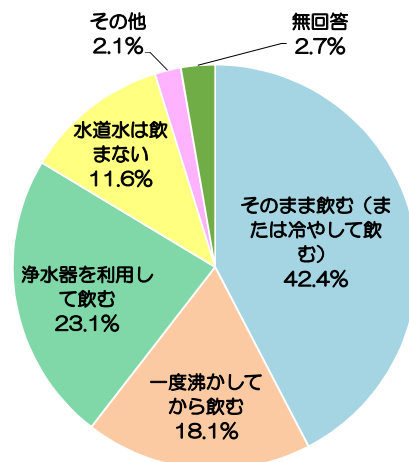
問1 普段、水道水をどのように飲まれますか？（当てはまる番号1つを回答）

	回答数	比率
そのまま飲む（または冷やして飲む）	388	42.4%
一度沸かしてから飲む	166	18.1%
浄水器を利用して飲む	212	23.1%
水道水は飲まない	106	11.6%
その他	19	2.1%
無回答	25	2.7%
合計	916	

【その他の意見】

- ・お茶にして飲む
- ・季節によって変わるなど

普段の水道水の飲みかたについては、「そのまま飲む（または冷やして飲む）」が42.4%と最も高く、次いで、「浄水器を利用して飲む」が23.1%でした。



問2 【問1】の回答を選択された理由を教えてください。（複数回答）

（1）【問1】の回答が「そのまま飲む（または冷やして飲む）」

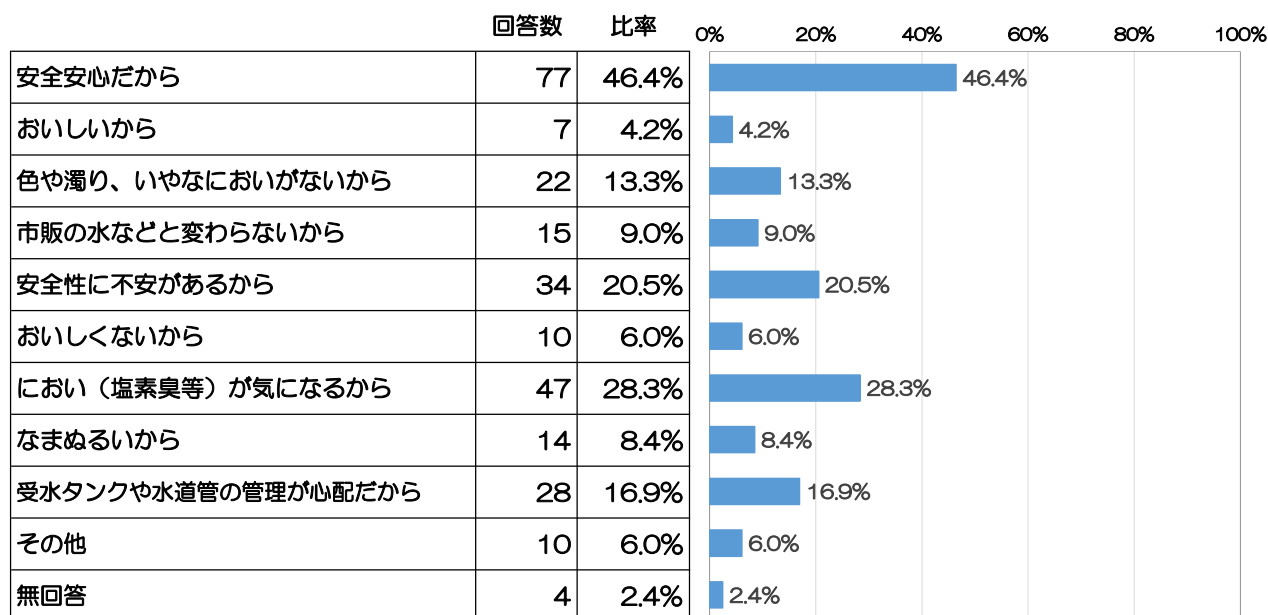
	回答数	比率	0%	20%	40%	60%	80%	100%
安全安心だから	304	78.4%					78.4%	
おいしいから	65	16.8%		16.8%				
色や濁り、いやなにおいがいいから	197	50.8%				50.8%		
市販の水などと変わらないから	99	25.5%			25.5%			
安全性に不安があるから	2	0.5%	0.5%					
おいしくないから	0	0.0%	0.0%					
におい（塩素臭等）が気になるから	4	1.0%	1.0%					
なまぬるいから	4	1.0%	1.0%					
受水タンクや水道管の管理が心配だから	1	0.3%	0.3%					
その他	17	4.4%	4.4%					
無回答	3	0.8%	0.8%					

【その他の意見】

- ・安価だから
- ・気にならないからなど

「そのまま飲む（または冷やして飲む）」の回答理由としては、「安全安心だから」が78.4%と最も高く、次いで、「色や濁り、いやなにおいがいいから」が50.8%でした。

(2) 【問1】の回答が「一度沸かしてから飲む」



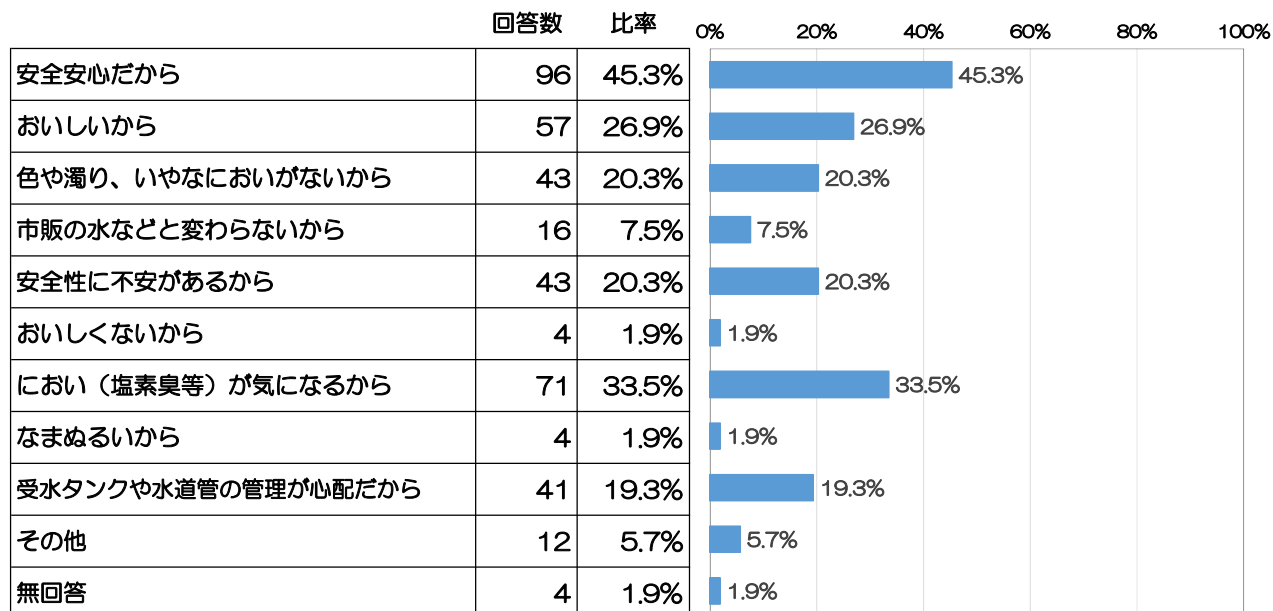
【その他の意見】

- ・お茶を飲むために沸かす
- ・生水を飲む習慣がないからなど

「一度沸かしてから飲む」の回答理由としては、「安全安心だから」が46.4%と最も高くなっています。



(3) 【問1】の回答が「浄水器を利用して飲む」

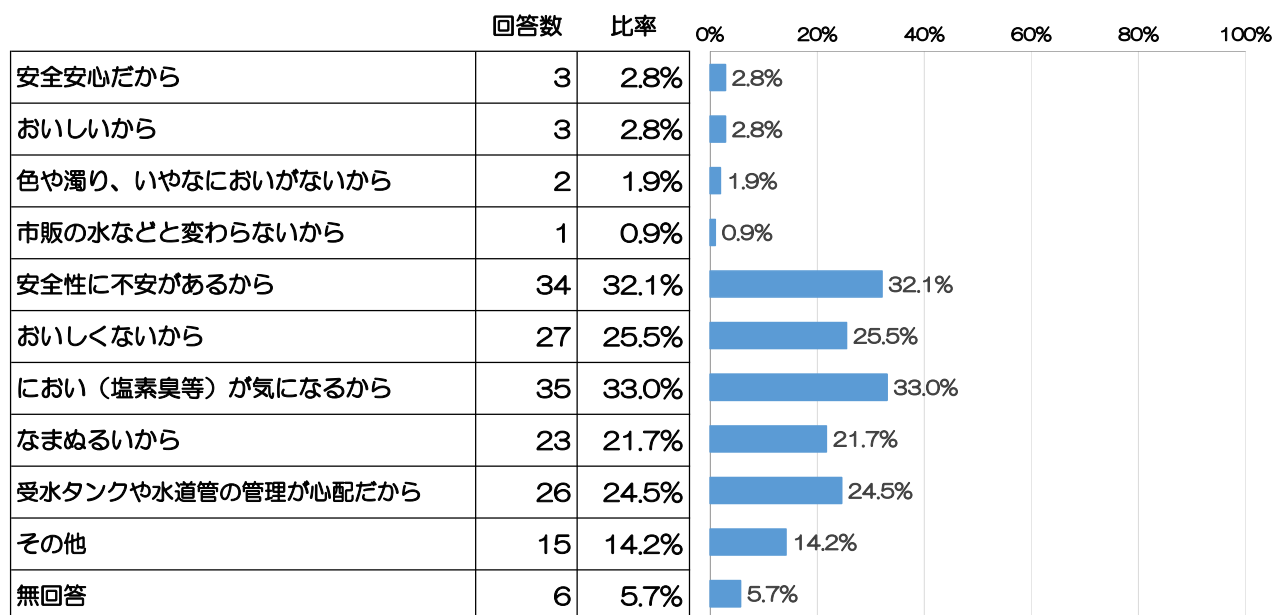


【その他の意見】

- ・浄水器があるから
- ・なんとなく
- ・習慣化しているなど

「浄水器を利用して飲む」の回答理由としては、「安全安心だから」が45.3%と最も高くなっています。

(4) 【問1】の回答が「水道水は飲まない」



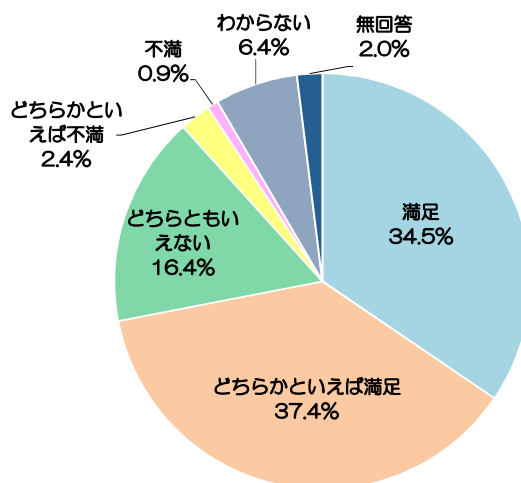
【その他の意見】

- ・ウォーターサーバーの水を飲むから ・井戸水だから
- ・市販の水を買っているからなど

「水道水は飲まない」の回答理由としては、「におい（塩素臭等）が気になるから」が33.0%と最も高く、次いで、「安全性に不安があるから」が32.1%でした。

問3 水道事業（水道水の提供に関するすべての事柄）についてどのように感じていますか？
（当てはまる番号1つを回答）

	回答数	比率
満足	316	34.5%
どちらかといえば満足	343	37.4%
どちらともいえない	150	16.4%
どちらかといえば不満	22	2.4%
不満	8	0.9%
わからない	59	6.4%
無回答	18	2.0%
合計	916	

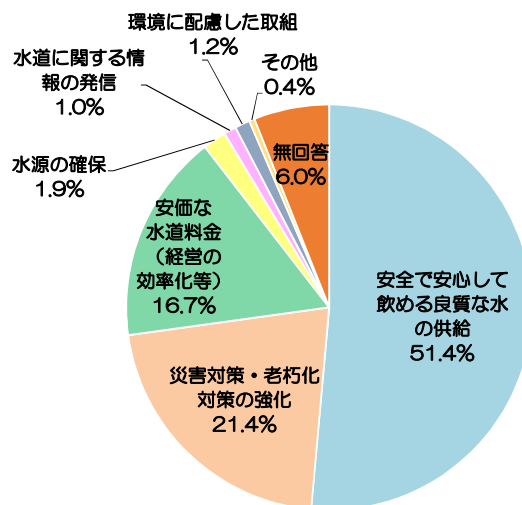


水道事業については、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせると71.9%となり、前回66.8%より5.1ポイント高くなりました。



問4 今後の水道事業で、優先的に実施すべきものは何だと思いますか？
（当てはまる番号1つを回答）

	回答数	比率
安全で安心して飲める良質な水の供給	471	51.4%
災害対策・老朽化対策の強化	196	21.4%
安価な水道料金（経営の効率化等）	153	16.7%
水源の確保	17	1.9%
水道に関する情報の発信	9	1.0%
環境に配慮した取組	11	1.2%
その他	4	0.4%
無回答	55	6.0%
合計	916	



【その他の意見】

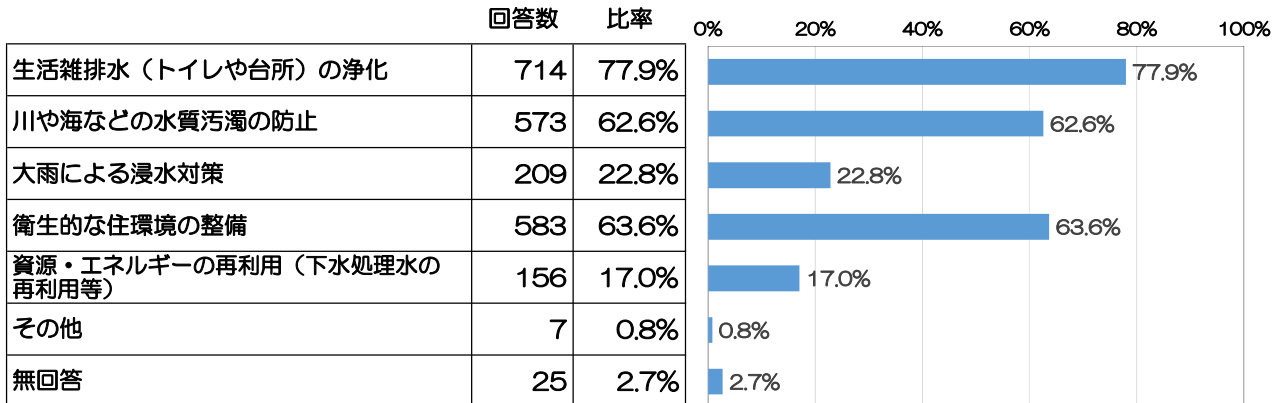
- ・人口減少を見据えての提供エリアの縮小
- ・水源地内の見学など

今後、水道事業で優先的に実施すべきものについては、「安全で安心して飲める良質な水の供給」が51.4%と最も高く、次いで、「災害対策・老朽化対策の強化」が21.4%でした。



2 下水道について

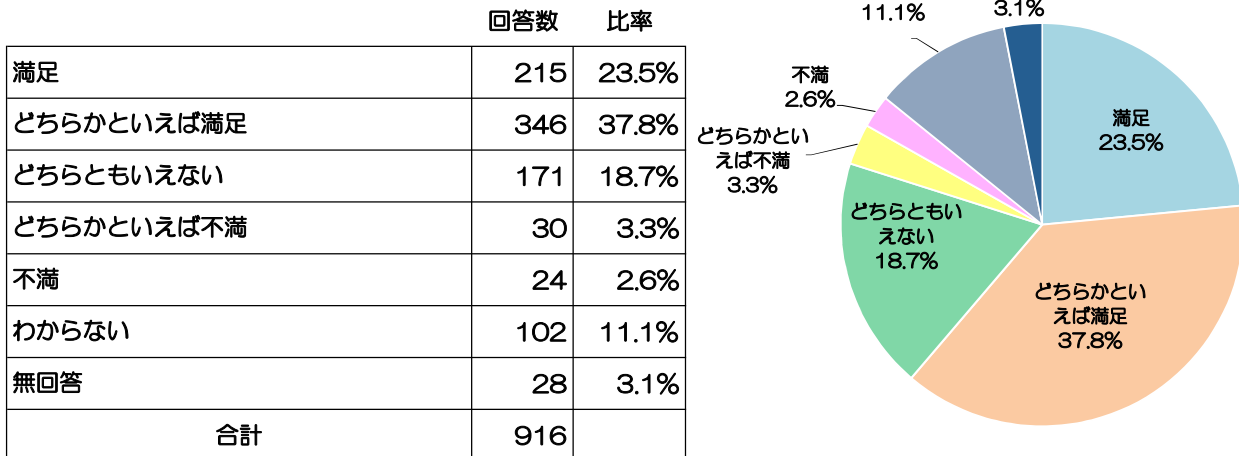
問5 下水道の普及がどのような生活環境の改善に役立っていると思いますか？
(複数回答)



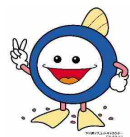
【その他の意見】
・よく分からないなど

下水道の普及がどのような生活改善に役立っているかについては、「生活雑排水（トイレや台所）の浄化」が77.9%と最も高く、続いて、「衛生的な住環境の整備」が63.6%、「川や海などの水質汚濁の防止」が62.6%でした。

問6 下水道事業（汚水処理や雨水対策に関するすべての事柄）について、どのように感じていますか？（当てはまる番号1つを回答）

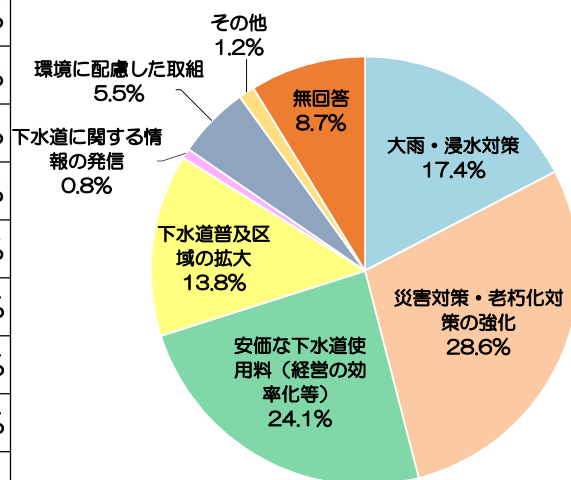


下水道事業については、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせると61.3%となり、前回55.6%より5.7ポイント高くなりました。



問7 今後の下水道事業で、優先的に実施すべきものは何だと思いますか？
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
大雨・浸水対策	159	17.4%
災害対策・老朽化対策の強化	262	28.6%
安価な下水道使用料（経営の効率化等）	221	24.1%
下水道普及区域の拡大	126	13.8%
下水道に関する情報の発信	7	0.8%
環境に配慮した取組	50	5.5%
その他	11	1.2%
無回答	80	8.7%
合計	916	



【その他の意見】

- ・下水道未利用者への下水道使用料負担についての説明
- ・利用者の実態把握と適正な使用料徴収対策など

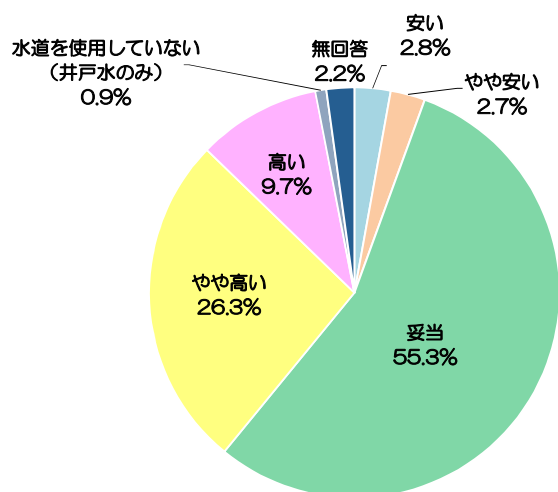
「災害対策・老朽化対策の強化」が28.6%と最も高く、次いで、「安価な下水道使用料（経営の効率化等）」については24.1%となり、前回27.9%より3.8ポイント低くなりました。



3 水道料金・下水道使用料について

問8 水道料金について、どう感じていますか？（当てはまる番号1つを回答）

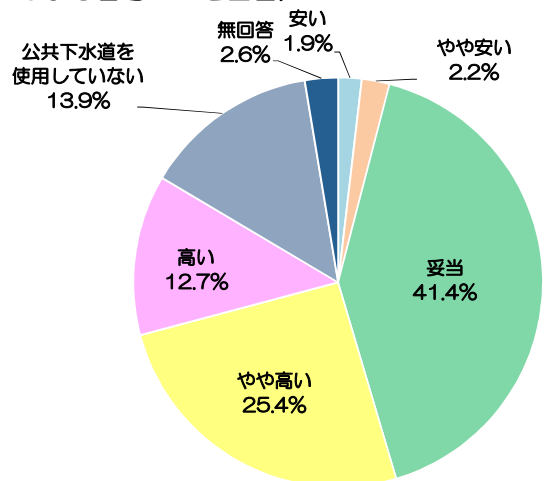
	回答数	比率
安い	26	2.8%
やや安い	25	2.7%
妥当	507	55.3%
やや高い	241	26.3%
高い	89	9.7%
水道を使用していない（井戸水のみ）	8	0.9%
無回答	20	2.2%
合計	916	



水道料金については、「妥当」が55.3%と最も高くなっています。しかし、「やや高い」と「高い」をあわせると36.0%となり、「安い」と「やや安い」をあわせた5.5%と比較すると、高いと感じている人の割合が高くなっており、前回と同様の傾向にありました。

問9 下水道使用料について、どう感じていますか？（当てはまる番号1つを回答）

	回答数	比率
安い	17	1.9%
やや安い	20	2.2%
妥当	379	41.4%
やや高い	233	25.4%
高い	116	12.7%
公共下水道を使用していない	127	13.9%
無回答	24	2.6%
合計	916	



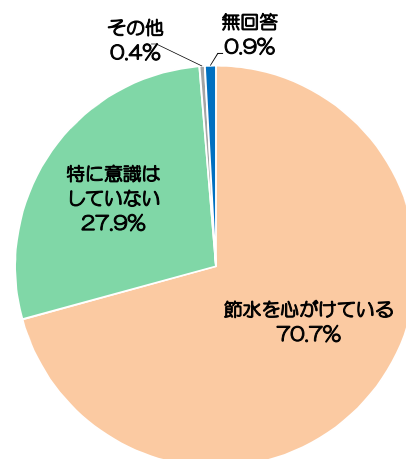
下水道使用料については、「妥当」が41.4%と最も高くなっています。しかし、「やや高い」と「高い」をあわせると38.1%となり、「安い」と「やや安い」をあわせた4.1%と比較すると、高いと感じている人の割合が高くなっており、前回と同様の傾向にありました。



4 節水について

問10 ご家庭では、日ごろから節水を心がけていますか？
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
節水を心がけている	648	70.7%
特に意識はしていない	256	27.9%
その他	4	0.4%
無回答	8	0.9%
合計	916	



【その他の意見】

- ・節水しようとしているができていないかわからない
- ・節水をしているのは自分だけで、家族は使いたい放題など

日ごろの節水については、「節水を心がけている」が70.7%と前回と同様に最も高くなっています。

問11 【問10】で「節水を心がけている」と回答された方におうかがいします。
どのような節水をしていますか？（複数回答）

	回答数	比率	
節水型機器を設置	73	11.3%	11.3%
風呂の残り湯の活用	245	37.8%	37.8%
こまめな蛇口の開閉	554	85.5%	85.5%
雨水の活用（庭の水まきなどに利用）	55	8.5%	8.5%
その他	25	3.9%	3.9%
無回答	2	0.3%	0.3%

【その他の意見】

- ・風呂はなるべくシャワーですませる
- ・洗濯の回数を減らすなど

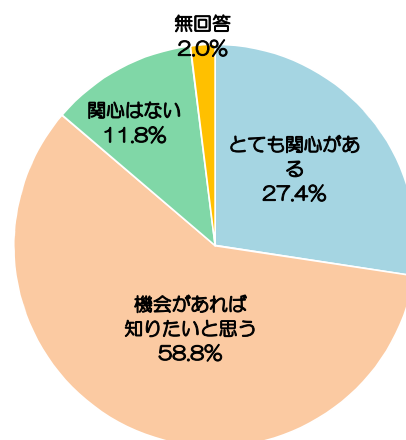
節水を心がけている人の節水の方法については、「こまめな蛇口の開閉」が85.5%と最も高く、次いで、「風呂の残り湯の活用」が37.8%と前回と同様の傾向にありました。



5 災害対策・老朽化対策について

問12 水道・下水道施設の災害対策・老朽化対策について関心がありますか？
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
とても関心がある	251	27.4%
機会があれば知りたいと思う	539	58.8%
関心はない	108	11.8%
無回答	18	2.0%
合計	916	



水道・下水道施設の災害対策・老朽化対策への関心については、「機会があれば知りたいと思う」と「とても関心がある」をあわせるとが86.2%となり、関心の高さを表しています。

問13 【問12】で「とても関心がある」または「機会があれば知りたいと思う」と回答された方におうかがいします。
具体的に何に関心がありますか？（複数回答）

	回答数	比率	
水道・下水道施設の現状	422	53.4%	53.4%
災害対策・老朽化対策の内容	547	69.2%	69.2%
災害対策・老朽化対策に必要な費用	310	39.2%	39.2%
災害時における水道・下水道施設の被害想定	315	39.9%	39.9%
その他	5	0.6%	0.6%
無回答	14	1.8%	1.8%

【その他の意見】

- ・家の周りの老朽化、経過年数、今後の工事対応
- ・私水道の老朽化対策はどうしたらよいかなど

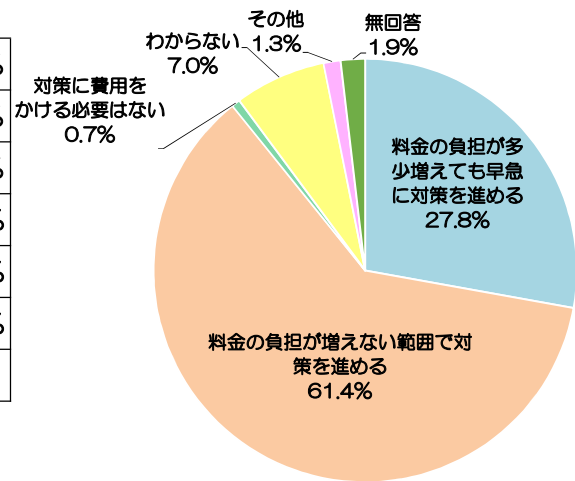
災害対策・老朽化対策に関心のある人や機会があれば知りたい人が、具体的に何に関心があるかについては、「災害対策・老朽化対策の内容」が69.2%と最も高く、次いで、「水道・下水道施設の現状」が53.4%でした。

問14 災害対策・老朽化対策には多額の費用がかかりますがどう考えますか？
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
料金の負担が多少増えても早急に対策を進める	255	27.8%
料金の負担が増えない範囲で対策を進める	562	61.4%
対策に費用をかける必要はない	6	0.7%
わからない	64	7.0%
その他	12	1.3%
無回答	17	1.9%
合計	916	

【その他の意見】

- ・補助金などを有効利用してほしい
- ・負担が増えないよう早めの対策、管理を進めるなど



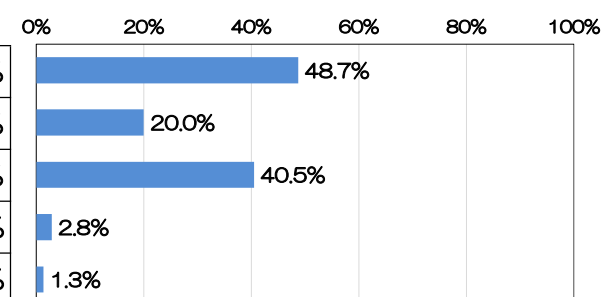
災害対策・老朽化対策に多額の費用がかかることについては、「料金の負担が増えない範囲で対策を進める」が61.4%あるなか、「料金の負担が多少増えても早急に対策を進める」が27.8%と約3.6人に1人は早急な対策が必要だと感じていることが分かります。

問15 災害等による断水に備えて何か対策をとられていますか？
(複数回答)

	回答数	比率
ペットボトル水などの飲用水を備蓄している	446	48.7%
ポリタンクなどを準備している	183	20.0%
何もしていない	371	40.5%
その他	26	2.8%
無回答	12	1.3%

【その他の意見】

- ・井戸水の利用
- ・お風呂に水をためるなど



「ペットボトル水などの飲用水を備蓄している」が48.7%と最も高く、「ポリタンクなどを準備している」とあわせると68.7%となり、前回41.7%より27ポイント高くなりました。

■ 「いざっ！」災害に備えましょう！ ■

●飲料水の確保：災害時に備えて7日分の飲み水を確保しよう！

1人1日3リットル
7日で21リットル

4人家族なら
84リットルだよ！



6 水道・下水道の広報等について

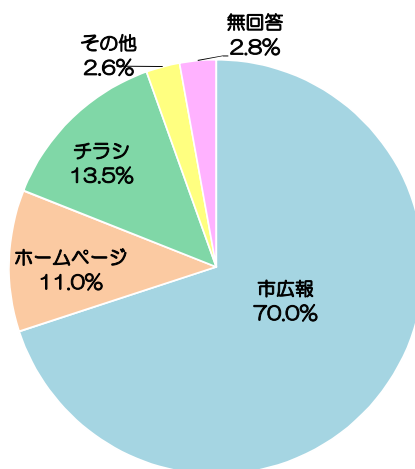
問16 どのような方法であれば、水道・下水道に関する情報を入手しやすいと思いますか？
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
市広報	641	70.0%
ホームページ	101	11.0%
チラシ	124	13.5%
その他	24	2.6%
無回答	26	2.8%
合計	916	

【その他の意見】

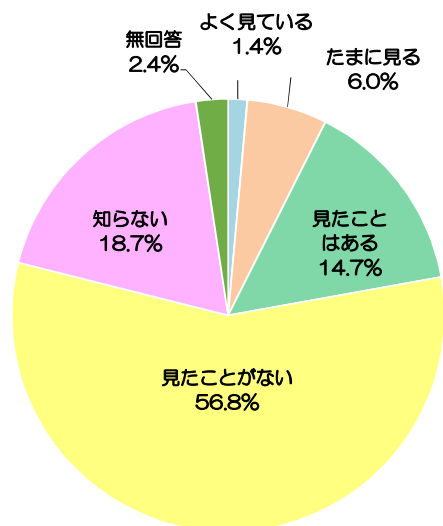
- ・テレビ ・SNS
- ・イベントの開催など

水道・下水道に関する情報の入手しやすい方法については、「市広報」が70.0%と最も高く、次いで、「チラシ」が13.5%と前回と同様の傾向にありました。



問17 上下水道局のホームページについておうかがいします。
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
よく見ている	13	1.4%
たまに見る	55	6.0%
見たことはある	135	14.7%
見たことがない	520	56.8%
知らない	171	18.7%
無回答	22	2.4%
合計	916	

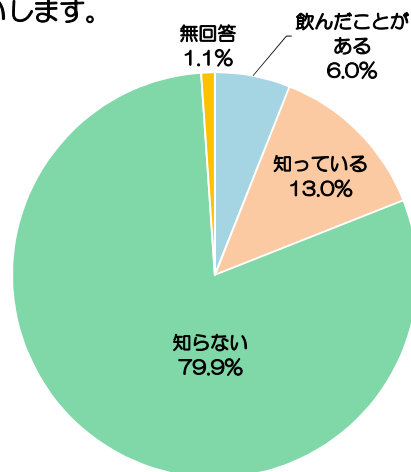


上下水道局のホームページについては、「よく見ている」、「たまに見る」、「見たことはある」をあわせると22.1%となり、前回17.0%より5.1ポイント高くなったものの認知度は低い状況です。



問18 上下水道局のペットボトル水「淡如水」についておうかがいします。
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
飲んだことがある	55	6.0%
知っている	119	13.0%
知らない	732	79.9%
無回答	10	1.1%
合計	916	



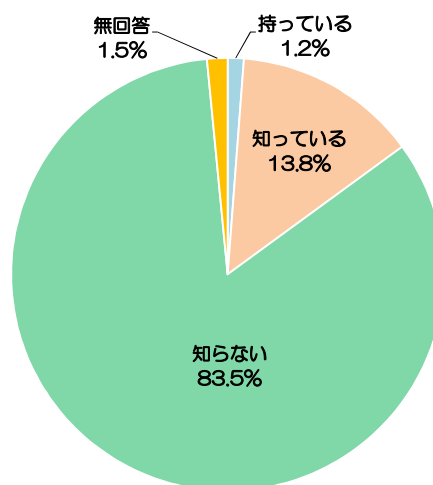
上下水道局のペットボトル水「淡如水」については、「知っている」、「飲んだことがある」をあわせると19.0%となり、認知度は低い状況です。

「淡如水」は、おいしい水のPRや災害備蓄用として製造しています。防府市の上水道水源地から採取した水道水を活性炭でろ過、加熱殺菌して500ミリリットルのペットボトルに詰めたものです。



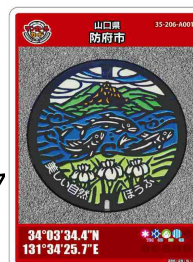
問19 防府市の「マンホールカード」についておうかがいします。
(当てはまる番号1つを回答)

	回答数	比率
持っている	11	1.2%
知っている	126	13.8%
知らない	765	83.5%
無回答	14	1.5%
合計	916	



防府市の「マンホールカード」については、「知っている」、「持っている」をあわせると15.0%となり認知度は低い状況です。

「マンホールカード」は、下水道のイメージアップや身近で親しみやすいものとなるように始まった取組の一つで、マンホール蓋を全国統一規格のコレクションカードにして紹介するものです。
現在は、アスピラートにて配布しています。



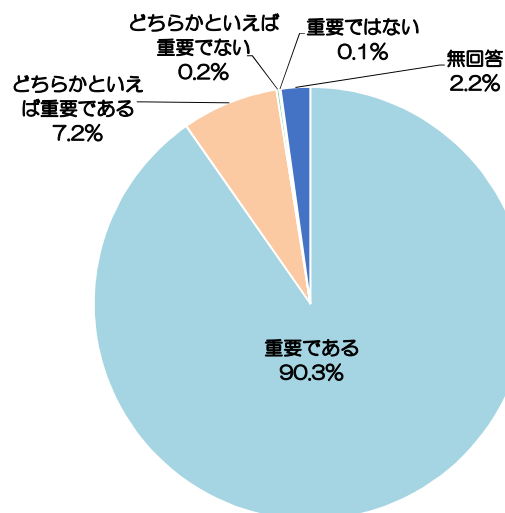
7 水道事業・下水道事業について

問20 水道事業・下水道事業の（Ａ）から（Ｇ）の取組について、あなたがどれくらい重要だと思うかお答えください。

選択肢の中からもっとも当てはまると思う数字をそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

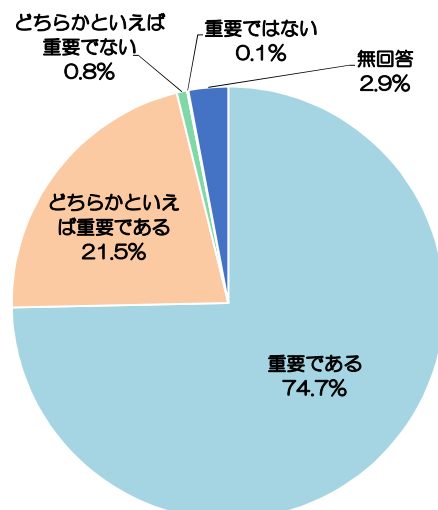
（Ａ）安全で安心して飲める良質な水の供給

	回答数	比率
重要である	827	90.3%
どちらかといえば重要である	66	7.2%
どちらかといえば重要でない	2	0.2%
重要ではない	1	0.1%
無回答	20	2.2%
合計	916	



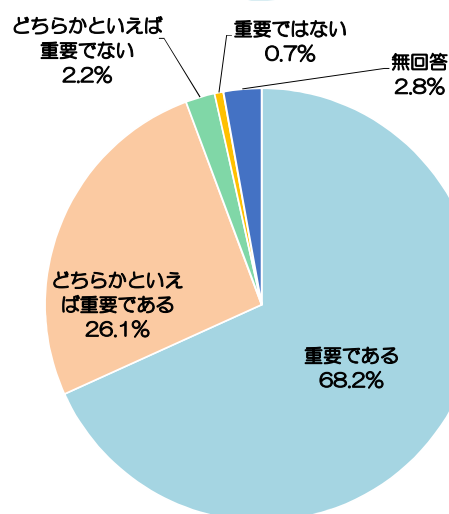
（Ｂ）汚水を適切に処理し、海などの水質汚濁の防止

	回答数	比率
重要である	684	74.7%
どちらかといえば重要である	197	21.5%
どちらかといえば重要でない	7	0.8%
重要ではない	1	0.1%
無回答	27	2.9%
合計	916	



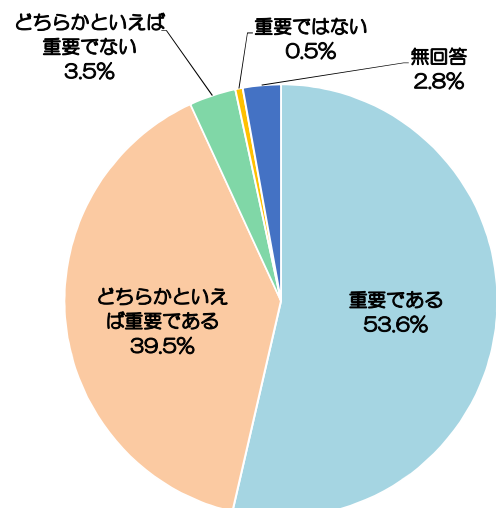
（Ｃ）大雨による浸水対策

	回答数	比率
重要である	625	68.2%
どちらかといえば重要である	239	26.1%
どちらかといえば重要でない	20	2.2%
重要ではない	6	0.7%
無回答	26	2.8%
合計	916	



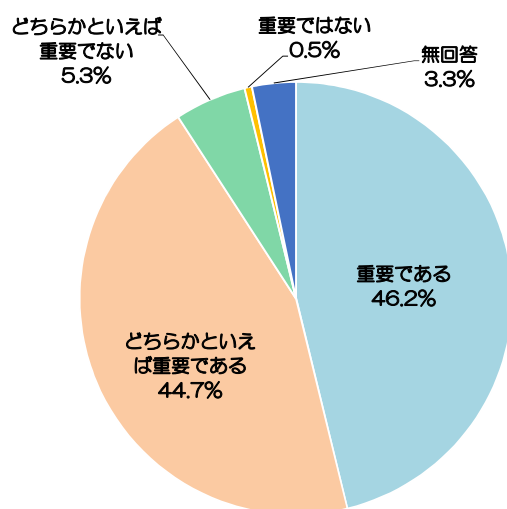
(D) 古くなった施設を計画的に更新する

	回答数	比率
重要である	491	53.6%
どちらかといえば重要である	362	39.5%
どちらかといえば重要でない	32	3.5%
重要ではない	5	0.5%
無回答	26	2.8%
合計	916	



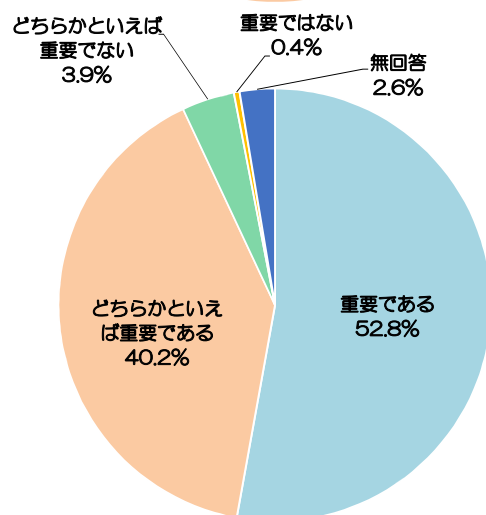
(E) 施設の耐震化の取組

	回答数	比率
重要である	423	46.2%
どちらかといえば重要である	409	44.7%
どちらかといえば重要でない	49	5.3%
重要ではない	5	0.5%
無回答	30	3.3%
合計	916	



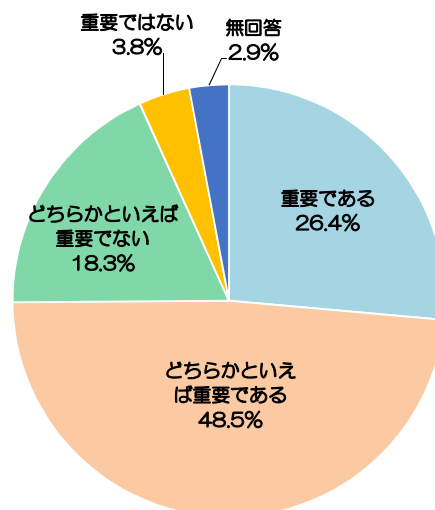
(F) 環境に配慮した取組

	回答数	比率
重要である	484	52.8%
どちらかといえば重要である	368	40.2%
どちらかといえば重要でない	36	3.9%
重要ではない	4	0.4%
無回答	24	2.6%
合計	916	



(G) 広報活動の充実

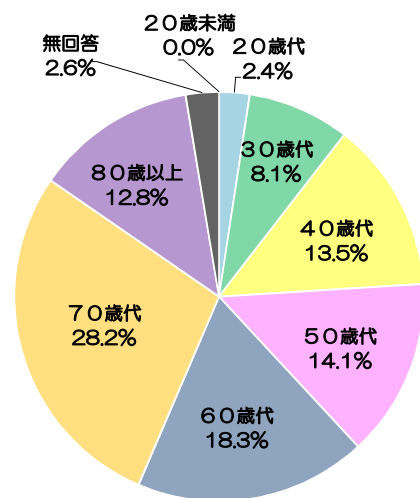
	回答数	比率
重要である	242	26.4%
どちらかといえば重要である	444	48.5%
どちらかといえば重要でない	168	18.3%
重要ではない	35	3.8%
無回答	27	2.9%
合計	916	



☆ あなた自身のことについておうかがいします。（当てはまる番号1つを回答）

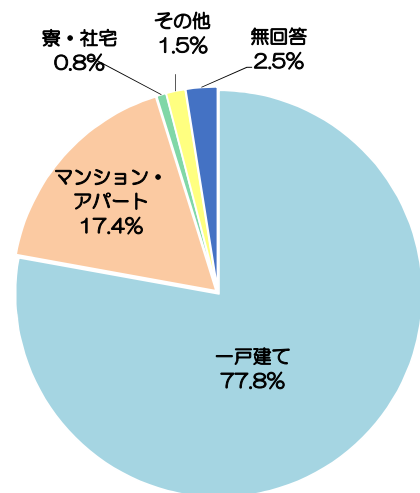
【年齢】

	回答数	比率
20歳未満	0	0.0%
20歳代	22	2.4%
30歳代	74	8.1%
40歳代	124	13.5%
50歳代	129	14.1%
60歳代	168	18.3%
70歳代	258	28.2%
80歳以上	117	12.8%
無回答	24	2.6%
合計	916	



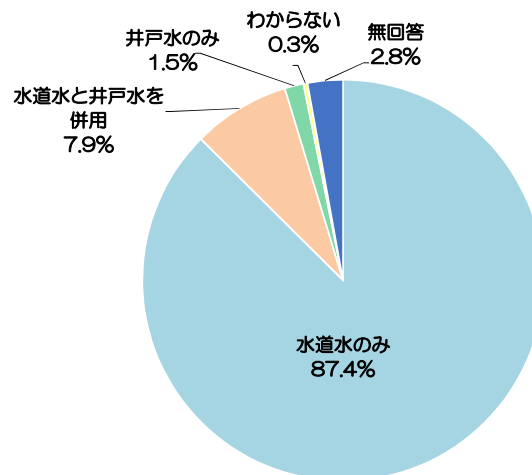
【住宅の種類】

	回答数	比率
一戸建て	713	77.8%
マンション・アパート	159	17.4%
寮・社宅	7	0.8%
その他	14	1.5%
無回答	23	2.5%
合計	916	



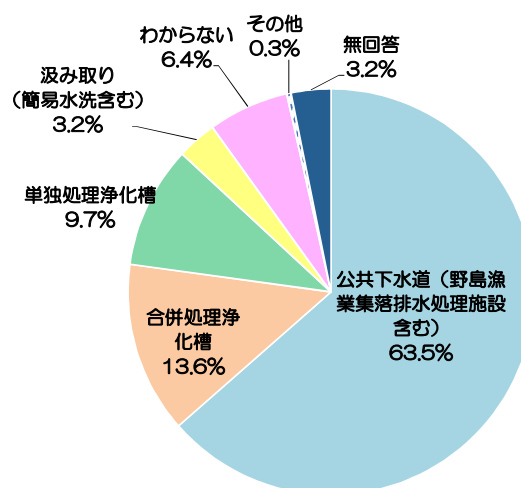
【水の利用】

	回答数	比率
水道水のみ	801	87.4%
水道水と井戸水を併用	72	7.9%
井戸水のみ	14	1.5%
わからない	3	0.3%
無回答	26	2.8%
合計	916	



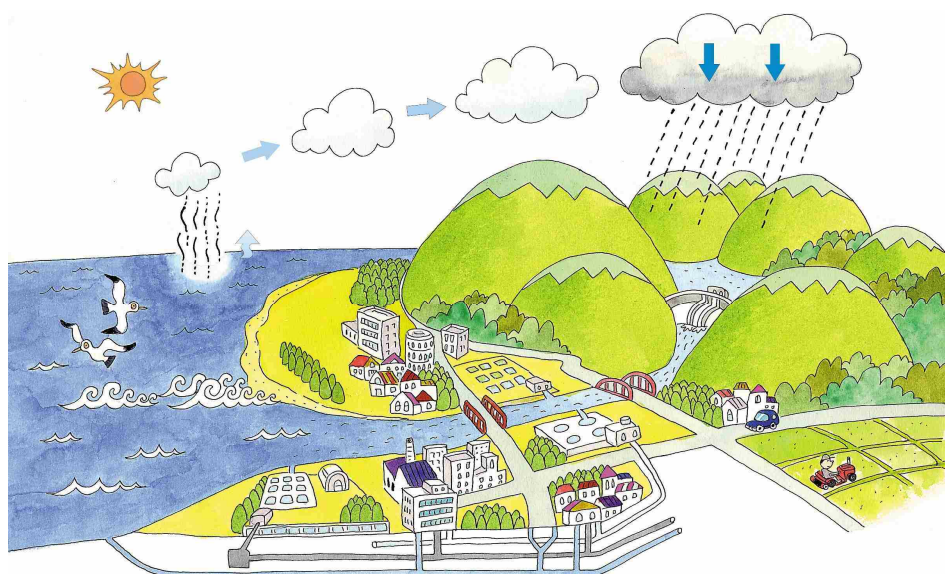
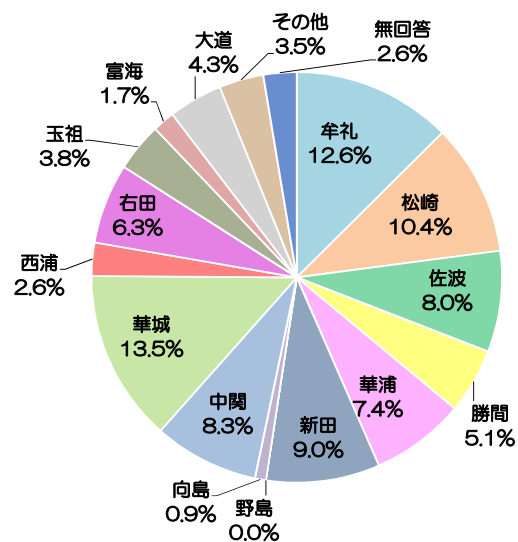
【トイレの処理形態】

	回答数	比率
公共下水道（野島漁業集落排水処理施設含む）	582	63.5%
合併処理浄化槽	125	13.6%
単独処理浄化槽	89	9.7%
汲み取り（簡易水洗含む）	29	3.2%
わからない	59	6.4%
その他	3	0.3%
無回答	29	3.2%
合計	916	



【お住まいの地域】

	回答数	比率
牟礼	115	12.6%
松崎	95	10.4%
佐波	73	8.0%
勝間	47	5.1%
華浦	68	7.4%
新田	82	9.0%
野島	0	0.0%
向島	8	0.9%
中関	76	8.3%
華城	124	13.5%
西浦	24	2.6%
右田	58	6.3%
玉祖	35	3.8%
富海	16	1.7%
大道	39	4.3%
その他	32	3.5%
無回答	24	2.6%
合計	916	



用語解説(五十音順)

あ行

一般会計繰入金

公営企業の目的である事業の遂行に必要な財源に対し、公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費についての国が示す基本的な考えに従い、市の一般会計から繰入れられる資金。

ウォーターPPP

水道・工業用水道・下水道分野を対象とした官民連携方式で、コンセッション（公共施設等運営事業）方式と、「管理・更新一体マネジメント方式」を併せた総称。

か行

回転円盤接触法

生物的污水处理装置の一つ。微生物の膜が付着した円盤を40%ほど浸漬し低速回転させ、円盤の一部が汚水と外気に触れることによって、水中の有機性汚濁物質を分解し、浄化する方法。省エネルギーで維持管理が容易であるとともに、消化も期待できるなどの特徴をもつ。

管渠

地中に埋設した排水・取水のための管や道路側溝などをさすが、下水道管のことを管渠と呼ぶことが多い。函渠^{かんきょ}の場合は、水路だけでなく、ボックスカルバートなどで作られた道路用の箱型の通路も函渠と呼ぶ。類似用語に管路がある。管路はもともと水などが流れる管（上水道管など）をさしていたが、インフラのライフラインが通るパイプ・ボックスカルバートも管路と呼んでいる。

管路経年化率

法定耐用年数を超えた管路延長の割合。管路の老朽化度合を示す。

管路更新率

当該年度での全管路に占める更新された管路の割合。管路の更新ペースや状況が把握できる。

基幹管路

水道事業において、重要度が高いと位置付けた代替機能のない管路。本市の基幹管路は、導水管、送水管、φ350mm以上の配水管。

企業債

水道・下水道施設の建設・改廃事業などの資金に充てるために国などから長期で借り入れる借金。

給水人口

給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口。

本市の給水人口の将来推計は、行政区域内人口※に水道普及率を乗じて算出している。なお、水道普及率は今後 50 年間で独自に予測した数値を用いている。

※参考：国立社会保障・人口問題研究所による日本の市区町村別将来推計人口

減価償却費

施設の整備に要した単年度の支出を当該施設の法定耐用年数で除した費用。地方公営企業の会計では施設の整備に要した単年度の支出について、法定耐用年数（その施設の効果が持続する期間）で費用配分して期間損益計算を行う。

建設仮勘定

建設中の建物や製作中の機械など、完成前の有形固定資産への支出などを仮に計上しておくための勘定科目。

合流管延長

汚水と雨水を一緒に集めて流す下水道管の長さ。

さ行

GX

グリーントランスフォーメーションの略称で、化石燃料をできるだけ使わず、太陽光や水素等の自然環境への負荷の少ないクリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動。

市街化区域

既に市街地を形成している区域及び概ね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

収益的収支

企業の経営活動に伴い発生する収入とこれに対応する支出。

重要給水施設

医療機関、避難所、防災拠点等の災害時において特に優先して給水を確保する必要がある施設。

浄水

原水を飲用に供するために適切に処理をした水。

浸水

洪水や豪雨などの影響で住宅などが水に浸かること。

水洗化人口

水洗便所を設置し、下水道に接続して汚水処理をしている世帯の人口。

本市の水洗化人口の将来推計は、行政区域内人口※に人口普及率及び区域内水洗化率を乗じて算出している。なお、人口普及率及び区域内水洗化率は今後 50 年間で独自に予測した数値を用いている。

※参考：国立社会保障・人口問題研究所による日本の市区町村別将来推計人口

ストックマネジメント計画

長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、施設の点検、調査、修繕、改善を実施し、施設全体を対象とした施設管理を最適化することを目的とした計画。

責任水量制

供給契約を結んだ水量による水道料金体系で、実際に使用した水量が契約量より少ない場合でも、一定の水道料金とする制度。

送水管

浄水施設で塩素消毒などを施した浄水を配水池まで送る管。

た行

ダウンサイジング

コスト削減や効率化のため、事業や設備の規模を縮小すること。

鋳鉄管

材料として鋳鉄を使用しており、昭和 30 年頃まで、導水・送水・配水管として広く使用されたが、より優れた特性を持つダクタイル鋳鉄管が製品化され普及したことから、現在は製造されていない。

濁度

水の濁りの度合を数値化したもので、基準値は、肉眼でほとんど濁りを感じられない値（2 度以下）として設定されている。

地下水（伏流水）

地下水とは、地層の隙間を流れている水。伏流水とは、河川敷や山麓の下層を流れる極めて浅い地下水の一種。

長期前受金戻入

減価償却が取得経費を使用期間全体に費用を割り振る一方、その財源を収益として割り振ること。あくまでも帳簿上の処理であり、実際の現金収入はない。

長寿命化計画

平成 26 年 5 月 21 日に策定された国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）で、計画期間は平成 26 年度から令和 2 年度までとなっている。施設が耐用年数を超えても部分的な更新などにより従来の機能が損なわれず、維持できるように延命化を実施する計画。

継手補強

管（パイプ）、チューブ、ホース同士をつなぎ合わせる部品等（継手）で補強すること。

DX

デジタルトランスフォーメーションの略称で、進化したデジタル技術とデータを活用し、社会のニーズを基に、ビジネスだけにとどまらず製品やサービス等、人々の生活をより良くするための変革やその実現に向けた活動。

投資

施設、設備に関する事業に資金を出すこと。

導水管

取水施設で取水された原水を浄化施設まで導く管。

は行

配水管

配水池から給水管などまで配水する管。

pH

水素イオン濃度指数のことであり、酸性、アルカリ性の強さを表すもの。値が低いと酸性が強く、値が高いとアルカリ性が強い。基準値は、5.8 以上 8.6 以下。

PPP／PFI 推進アクションプラン

PPP／PFI とは、公共施設等の整備・運営に民間事業者の資金や創意工夫を活用することにより、効率的かつ効果的で良好な公共サービスを実現する手法で、新しい資本主義の中核となる新たな官民連携の柱である。推進アクションプランは、内閣府がその活用を推進する上での施策や方針をとりまとめたもの。

PPP は Public-Private Partnership、PFI は Private Finance Initiative の略。

PFAS

有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物の総称で、1 万種類以上の物質があるとされている。（PFOS、PFOA もそのうちのひとつ）独特な性質を持ち、半導体製造や泡消火剤、コーティング剤などに幅広く用いられているが、自然環境での分解が難しいことなどから、国際的に製造等が中止されている。

不用品売却原価

使用に供されているたな卸品で不用となり、又はもはやその物自体に定められた用途に使用することのできなくなったものを売却した場合の原価。

法定耐用年数

法令により定められた会計処理上の資産の使用年数。

や行

有収水量

水道料金収入又は下水道使用料収入の対象となった水量及び他会計などから収入のあった水量。これに対して無収水量は、水道料金収入及び下水道使用料収入の対象とならなかった水量。

ら行

流動資産

会計における資産のうち、短期間（通常は 1 年以内）に現金化、費用化ができるもの。

流動負債

短期間（通常は 1 年以内）に支払期限が到来する負債。企業債、未払金等。

累積欠損金

営業活動によって欠損を生じ、繰越利益剰余金や利益積立金、資本剰余金などで補てんできなかった各事業年度の損失（赤字）が累積されたもの。